

行橋市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
調査報告書

平成26年12月

# 行橋市男女共同参画に関する市民意識調査報告

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、「第3次行橋市男女共同参画基本計画」の策定に向けて、男女共同参画に関する市民の意識と実態を把握し、今後の男女共同参画施策の基礎資料とするために実施したものである。

### 2. 調査結果及び回収結果

調査対象	市内在住の18歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	郵送配布－郵送回収
標本抽出	1,500人（女性787人・男性713人）
有効回収数	603人（女性314人・男性286人）
有効回収率	40.2%（女性52.1%・男性47.4%）
調査期間	平成26年7月11日～7月25日まで

### 3. 集計・分析上の注意事項

- ・図表においては、回答者全員の数を「N」、限定された回答者数を「n」で表記した。
- ・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問については、合計は原則として、100%を超える。
- ・報告書で比較に使用した調査結果は、以下のとおりである。

前回調査	「行橋市男女共同参画に関する調査」 平成15年 行橋市 サンプル数1,500人 有効回収率50.5%
福岡県調査	「男女共同参画社会に向けての意識調査」 平成21年 福岡県 サンプル数4,000人 有効回収率73.2%
北九州市調査	「北九州市の男女共同参画社会に関する調査」 平成23年 北九州市 サンプル数4,000人 有効回収率42.2%

## I. 回答者の属性

### (1)性別

単位(%)	サンプル数	女性	男性	無回答
全体	603	52.1%	47.4%	0.5%

### (2)年齢

単位(%)	サンプル数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
全体	603	2.2%	13.9%	15.1%	15.1%	16.9%	17.2%	14.4%	4.3%	0.8%
女性	314	1.6%	15.3%	14.0%	14.6%	16.2%	18.2%	15.0%	4.8%	0.3%
男性	286	2.8%	12.6%	16.4%	15.7%	17.8%	16.1%	14.0%	3.8%	0.7%

### (3)居住校区

単位(%)	サンプル数	行橋校区	行橋北校区	行橋南校区	葦島校区	今元校区	仲津校区	泉校区	今川校区	稗田校区
全体	603	14.6%	7.8%	8.5%	2.0%	6.5%	13.8%	18.1%	5.3%	4.8%
女性	314	12.7%	8.6%	7.6%	1.6%	7.3%	13.1%	19.7%	6.1%	5.1%
男性	286	16.8%	6.6%	9.4%	2.4%	5.6%	14.3%	16.4%	4.5%	4.5%

延永校区	樺市校区	その他	無回答
10.3%	2.7%	5.0%	0.8%
11.1%	2.2%	3.8%	1.0%
9.4%	3.1%	6.3%	0.3%

### (4)居住年数

単位(%)	サンプル数	3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答
全体	603	8.6%	5.6%	10.3%	16.7%	58.4%	0.3%
女性	314	8.6%	5.7%	8.9%	19.1%	57.3%	0.3%
男性	286	8.7%	5.6%	11.9%	14.3%	59.4%	0.0%

### (5)配偶関係

単位(%)	サンプル数	未婚	結婚している(配偶者がいる)	配偶者と死別した	配偶者と離別した	その他	無回答
全体	603	19.7%	66.2%	7.3%	6.6%	-	0.2%
女性	314	18.8%	60.5%	11.8%	8.9%	-	0.0%
男性	286	21.0%	72.4%	2.1%	4.2%	-	0.3%

### (6)世帯構成

単位(%)	サンプル数	1人世帯	1世代世帯	2世代世帯	3世代世帯	その他の世帯	無回答
全体	603	9.8%	25.5%	51.9%	8.1%	3.5%	1.2%
女性	314	11.8%	22.3%	51.6%	9.9%	3.5%	1.0%
男性	286	7.7%	29.0%	52.1%	6.3%	3.5%	1.4%

## (7)職業の有無

単位(%)	サンプル数	職業を持っている	以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない	いままで職業を持ったことはない	無回答
全体	603	59.9%	32.7%	5.6%	1.8%
女性	314	51.6%	37.6%	8.3%	2.5%
男性	286	69.6%	26.9%	2.4%	1.0%

## (8)就業形態

単位(%)	サンプル数	自営業主、会社などの経営者・役員	自営業の手伝い、自宅での内職	正社員・正職員	契約社員・派遣社員・嘱託職員	アルバイト・パート・タイマー	自由業(弁護士、スポーツ選手等)
全体	603	3.5%	1.3%	39.3%	4.8%	9.0%	0.7%
女性	314	1.9%	1.9%	26.1%	5.4%	14.3%	0.6%
男性	286	5.2%	0.7%	54.2%	4.2%	3.1%	0.7%

学生	専業主婦	無職	その他	無回答
4.1%	13.4%	21.1%	1.0%	1.8%
4.5%	25.8%	16.6%	0.6%	2.2%
3.8%	0.0%	25.2%	1.4%	1.4%

## (9)配偶者の就業形態

単位(%)	サンプル数	自営業主、会社などの経営者・役員	自営業の手伝い、自宅での内職	正社員・正職員	契約社員・派遣社員・嘱託職員	アルバイト・パート・タイマー	自由業(弁護士、スポーツ選手等)
全体	399	5.0%	1.8%	32.8%	6.5%	11.0%	-
女性	190	7.4%	1.6%	47.9%	8.4%	4.7%	-
男性	207	2.9%	1.9%	19.3%	4.8%	16.9%	-

学生	専業主婦	無職	その他	無回答
0.8%	19.5%	18.5%	0.5%	3.5%
0.0%	4.2%	20.5%	0.5%	4.7%
1.4%	32.9%	16.9%	0.5%	2.4%

総数		全体	性別	
			女性	男性
		100.0 (603)	52.3 (314)	47.7 (286)
年齢別	10代	2.2	1.6	2.8
	20代	13.9	15.3	12.6
	30代	15.1	14.0	16.4
	40代	15.1	14.6	15.7
	50代	16.9	16.2	17.8
	60代	17.2	18.2	16.1
	70代	14.4	15.0	14.0
	80歳以上	4.3	4.8	3.8
	不明・無回答	0.8	0.3	0.7
校区別	行橋校区	14.6	12.7	16.8
	行橋北校区	7.8	8.6	6.6
	行橋南校区	8.5	7.6	9.4
	菟島校区	2.0	1.6	2.4
	今元校区	6.5	7.3	5.6
	仲津校区	13.8	13.1	14.3
	泉校区	18.1	19.7	16.4
	今川校区	5.3	6.1	4.5
	稗田校区	4.8	5.1	4.5
	延永校区	10.3	11.1	9.4
	樺市校区	2.7	2.2	3.1
	その他	5.0	3.8	6.3
	不明・無回答	0.8	1.0	0.3
居住年数別	3年未満	8.6	8.6	8.7
	3～5年未満	5.6	5.7	5.6
	5～10年未満	10.3	8.9	11.9
	10～20年未満	16.7	19.1	14.3
	20年以上	58.4	57.3	59.4
	不明・無回答	0.3	0.3	0.0
配偶関係別	未婚	19.7	18.8	21.0
	結婚している(配偶者がいる)	66.2	60.5	72.4
	配偶者と死別した	7.3	11.8	2.1
	配偶者と離別した	6.6	8.9	4.2
	その他	-	-	-
	不明・無回答	0.2	0.0	0.3
※ 共働き別	共働き	43.4 (173)	46.8 (89)	40.6 (84)
	共働きでない	30.3 (68)	26.3 (50)	34.3 (71)
家族構成	1人世帯	9.8	11.8	7.7
	1世代世帯	25.5	22.3	29.0
	2世代世帯	51.9	51.6	52.1
	3世代世帯	8.1	9.9	6.3
	その他の世帯	3.5	3.5	3.5
	不明・無回答	1.2	1.0	1.4
職業別	自営業主、会社などの 経営者・役員	3.5	1.9	5.2
	自営業の手伝い、自宅 での内職	1.3	1.9	0.7
	正社員・正職員	39.3	26.1	54.2
	契約社員・派遣社員・嘱託職員	4.8	5.4	4.2
	アルバイト・パートタイマー	9.0	14.3	3.1
	自由業(弁護士、スポーツ 選手等)	0.7	0.6	0.7
	学生	4.1	4.5	3.8
	専業主婦・主夫	13.4	25.8	0.0
	無職	21.1	16.6	25.2
	その他	1.0	0.6	1.4
	不明・無回答	1.8	2.2	1.4

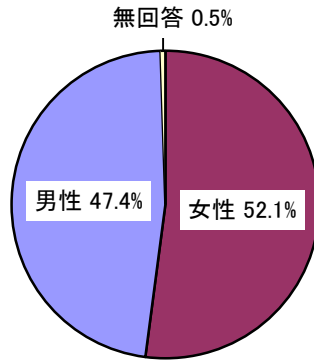
配偶者職業別	自営業主、会社などの 経営者・役員	5.0	7.4	2.9
	自営業の手伝い、自宅 での内職	1.8	1.6	1.9
	正社員・正職員	32.8	47.9	19.3
	契約社員・派遣社員・嘱託職員	6.5	8.4	4.8
	アルバイト・パートタイマー	11.0	4.7	16.9
	自由業(弁護士、スポーツ 選手等)	-	-	-
	学生	0.8	0.0	1.4
	専業主婦・主夫	19.5	4.2	32.9
	無職	18.5	20.5	16.9
	その他	0.5	0.5	0.5
	不明・無回答	3.5	4.7	2.4

※ 「共働き」、「共働きでない」の割合は、「結婚している」人の数を分母として割り出した。

# あなた自身について

## 問1 性別

問1 あなたの性別はどちらですか。○をつけてください。

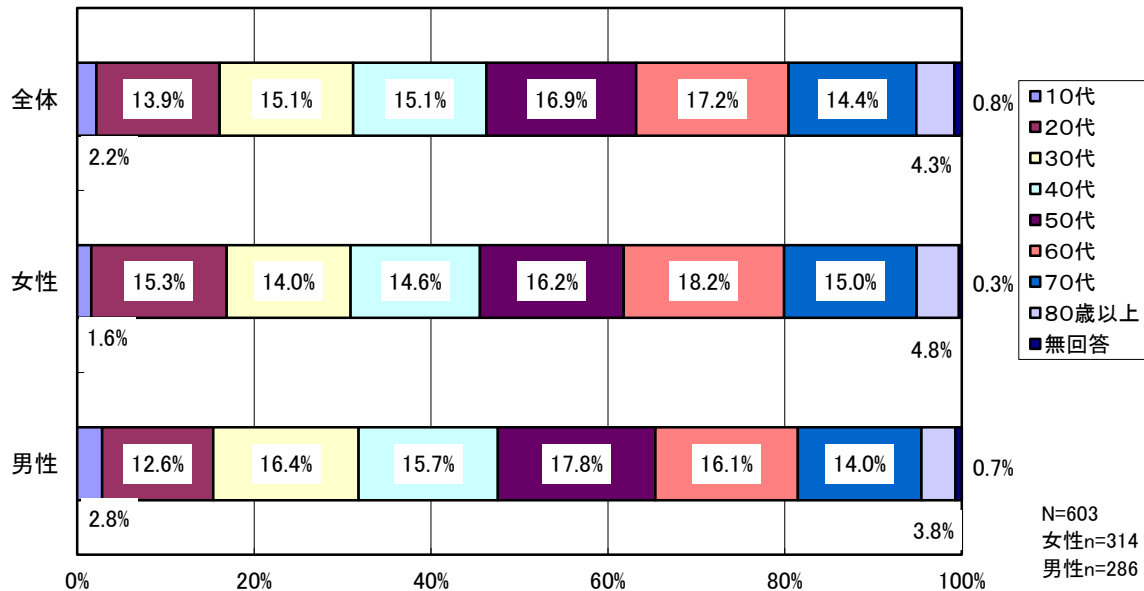


N=603

回答者603人のうち、「女性」314人(52.1%)、「男性」286人(47.4%)であり、女性の占める割合が、4.7ポイント高くなっている。

## 問2 年代

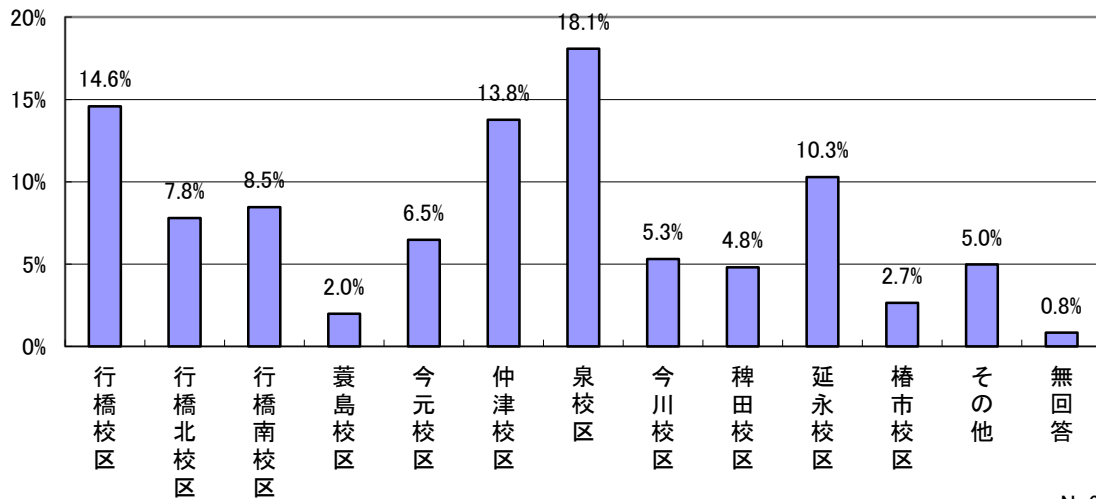
問2 あなたの年齢は満でおいくつですか。○をつけてください。



全体で見ると、「60代」が17.2%で最も高く、以下「50代」が16.9%、「30代」と「40代」がともに15.1%、「70代」が14.4%、「20代」13.9%、「80歳以上」が4.3%、「10代」が2.2%と続いている。性別で見ると、女性では「60代」が18.2%と最も高くなっており、次いで「50代」が16.2%となっている。男性では、「50代」が17.8%と最も高くなっており、次いで「30代」が16.4%となっている。年齢層で見ると、「60代以上」は35.9%、「40代、50代」は32.0%、「20代、30代」が29.0%となっている。

### 問3 居住校区

あなたのお住まいの校区はどちらですか。○をつけてください。校区が分からない場合は、「12. その他」にご自分の住所を簡単にお書きください。

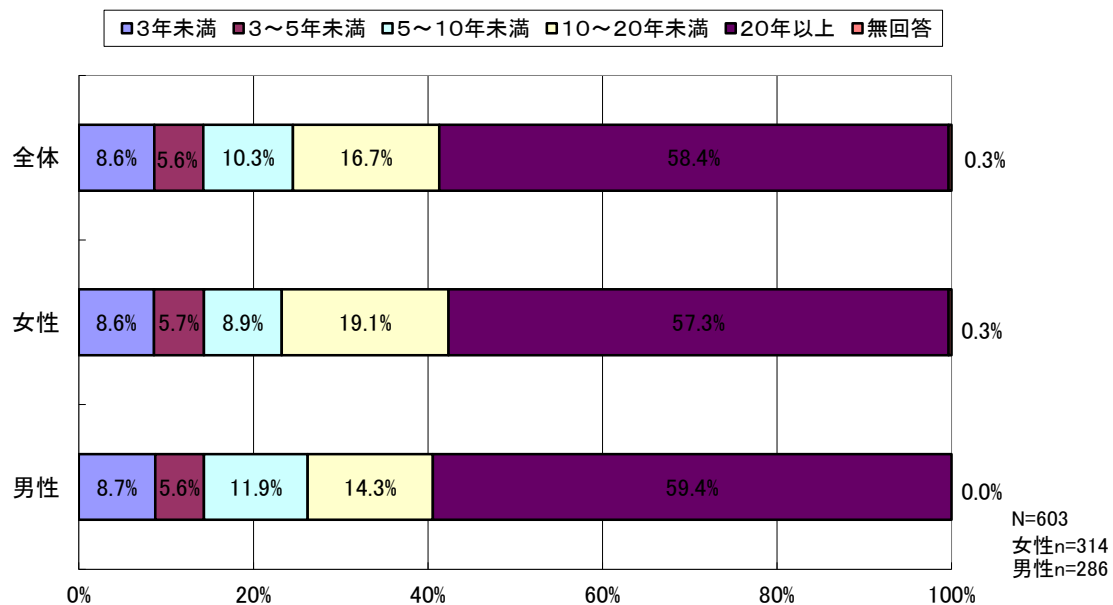


N=603

校区別にみると、「泉校区」が18.1%で最も高く、以下「行橋校区」が14.6%、「仲津校区」が13.8%と続いている。

### 問4 居住年数

あなたの中の今の地域での居住年数はどのくらいですか。○をつけてください。

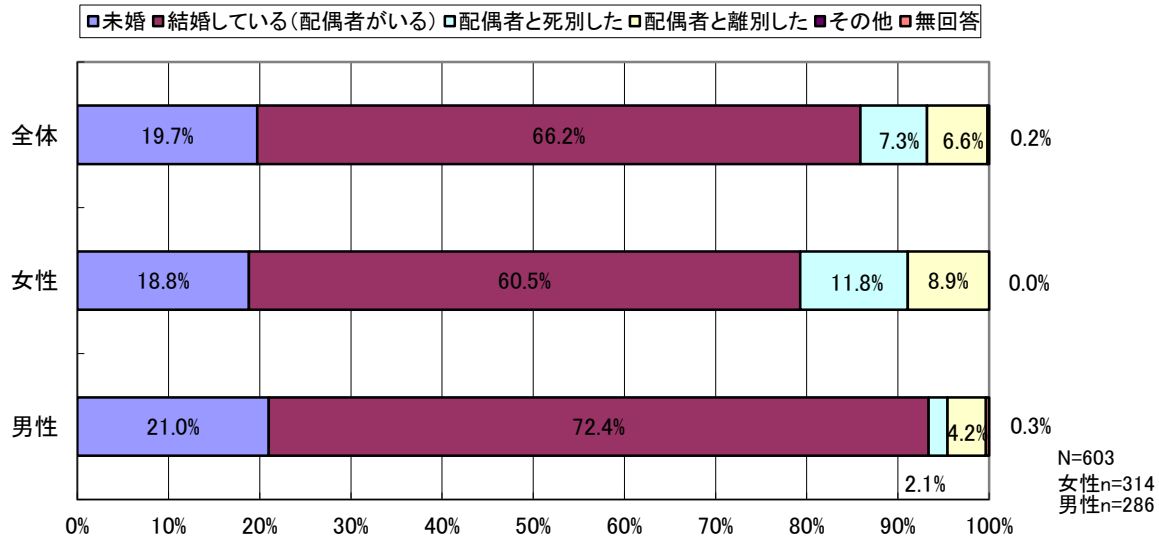


居住年数をみると、「20年以上」が58.4%と最も高くなっている。また、10年以上定住している人は75.1%を占めており、行橋市は定住率が高いことがわかる。性別にみると、女性のほうが10年以上の割合が高くなっている。



## 問5 配偶関係

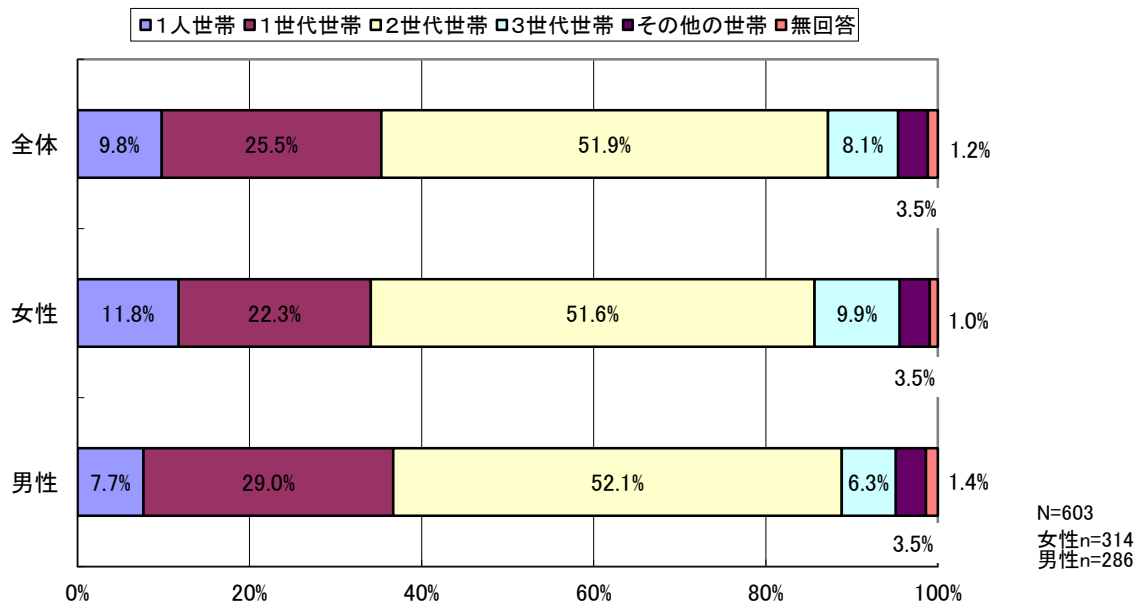
あなたとの配偶関係(事実婚を含む)は次のどれにあてはまりますか。○をつけてください。



配偶関係をみると、「結婚している(配偶者がいる)」が66.2%と最も高い。  
性別にみると、男性の方が「結婚している(配偶者がいる)」の割合が11.9ポイント高く、「配偶者と死別した」、「配偶者と離別した」は女性の割合のほうが高い。

## 問6 世帯形態

あなたのご家庭は、次のように分類した場合どれにあてはまりますか。○をつけてください。



家族構成をみると、「2世代世帯(親と子)」が51.9%と半数を占め、次いで「1世代世帯」が25.5%、「1人世帯」と「3世代世帯」が10%弱と続いている。  
性別にみると、「1人世帯」は女性の方が高く、「1世代世帯(夫婦のみ)」は男性の方が高くなっている。

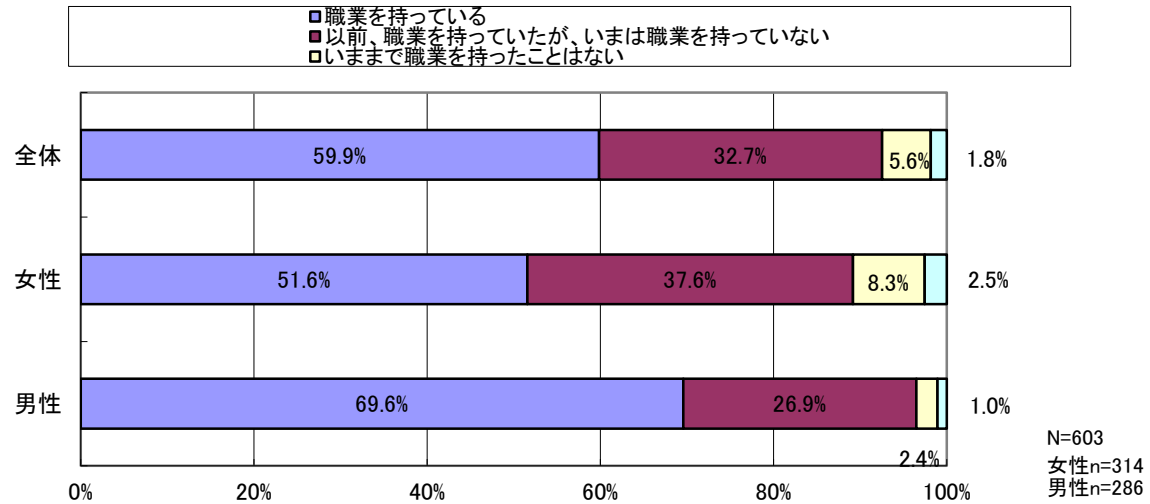
問6 年代別世帯形態

	1人世帯	1世代世帯	2世代世帯	3世代世帯	その他の世帯	不明・無回答
10代	7.7%	0.0%	76.9%	15.4%	0.0%	0.0%
20代	7.1%	8.3%	67.9%	14.3%	1.2%	1.2%
30代	7.7%	12.1%	69.2%	6.6%	4.4%	0.0%
40代	4.4%	16.5%	68.1%	5.5%	3.3%	2.2%
50代	8.8%	26.5%	52.9%	7.8%	2.0%	2.0%
60代	10.6%	36.5%	36.5%	7.7%	7.7%	1.0%
70代	13.8%	51.7%	23.0%	6.9%	3.4%	1.1%
80歳以上	34.6%	34.6%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%
総計	9.8%	25.5%	51.9%	8.1%	3.5%	1.2%

年代別にみると、20～50代では「2世代世帯(親と子)」が最も高く、70代では「1世代世帯(夫婦のみ)」が約半数を占め、80歳以上では約7割が1人、または夫婦のみの世帯となっている。

## 問7 職業の有無

問7 あなたは現在、パートタイム、アルバイト等を含めて、職業を持っていますか。○をつけてください。

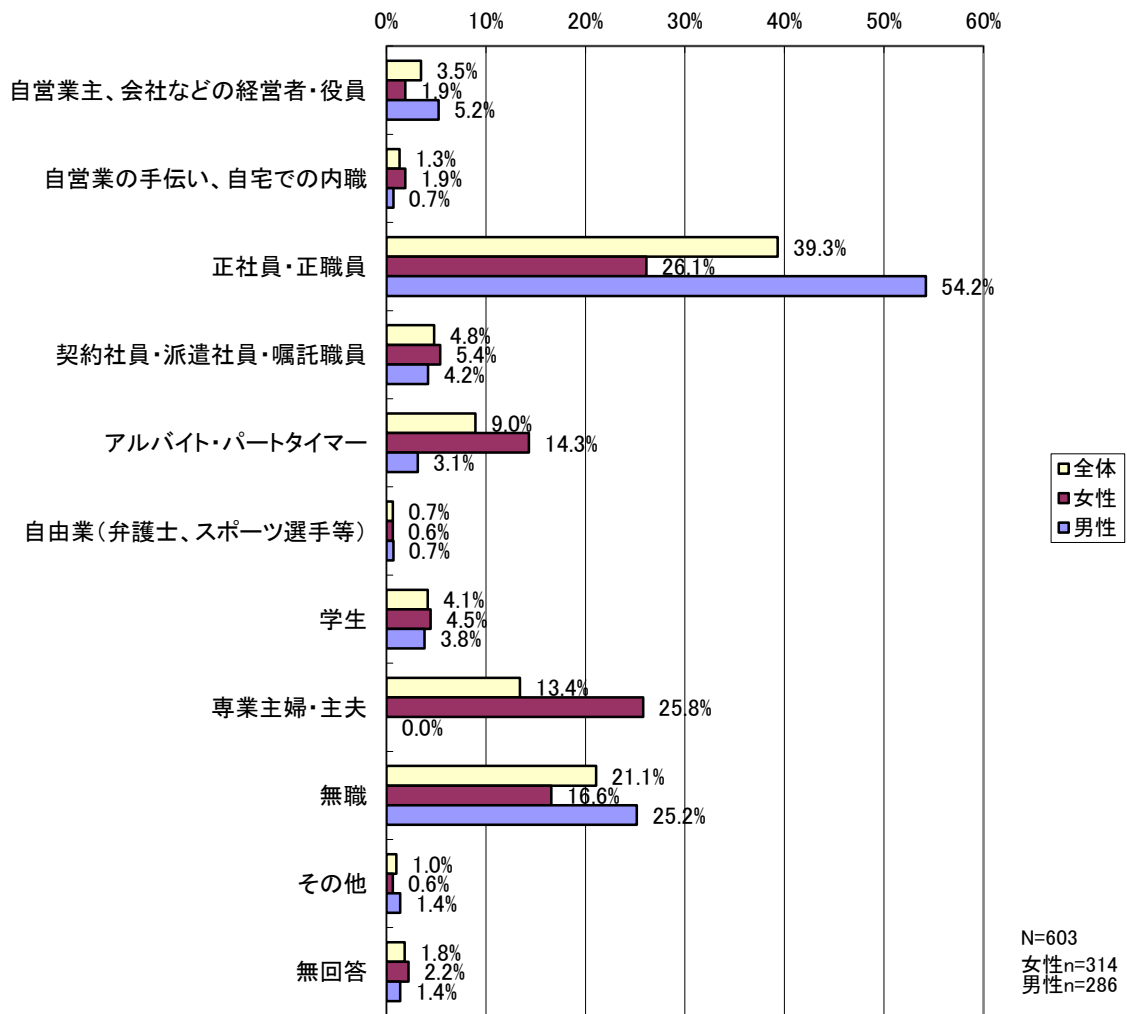


職業を持っているかどうかたずねたところ、全体では「職業を持っている」が59.9%と最も高く、次いで、「以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない」が32.7%となっている。

性別にみると、男女ともに「職業を持っている」が最も高いが、女性は51.6%、男性は69.6%となっており、男性が女性を18.0ポイント上回っている。

問8 職種

問8 現在のあなたは、次のどれにあてはまりますか。○をつけてください。



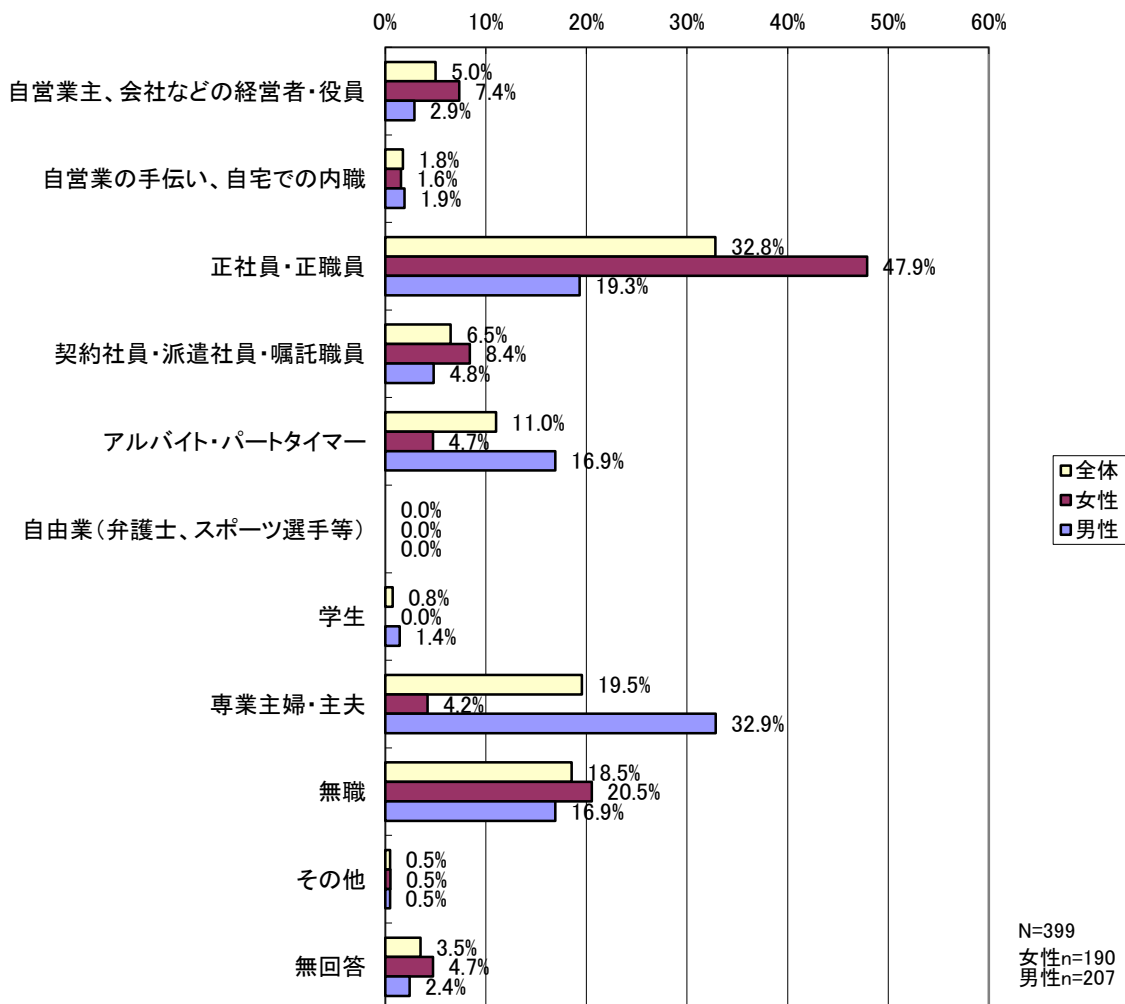
職業についてたずねたところ、全体では「正社員・正職員」が39.3%と最も高く、次いで、「無職」(21.1%)、「専業主婦・主夫」(13.4%)と続いている。

性別にみると、男女ともに「正社員・正職員」の割合が最も高く、男性は半数以上の54.2%に上るが、女性は26.1%と男性の半分以下である。男性は「無職」、「自営業主、会社などの経営者・役員」と続き、女性は「専業主婦・主夫」、「無職」、「アルバイト・パートタイマー」の順である。「アルバイト・パートタイマー」、「専業主婦」は、男性より女性の割合が大幅に高くなっている。

問5で「2. 結婚している(配偶者がいる)」と回答された方におたずねします。

## 副1 配偶者の職種

副1 現在の配偶者は、次のどれにあてはまりますか。○をつけてください。

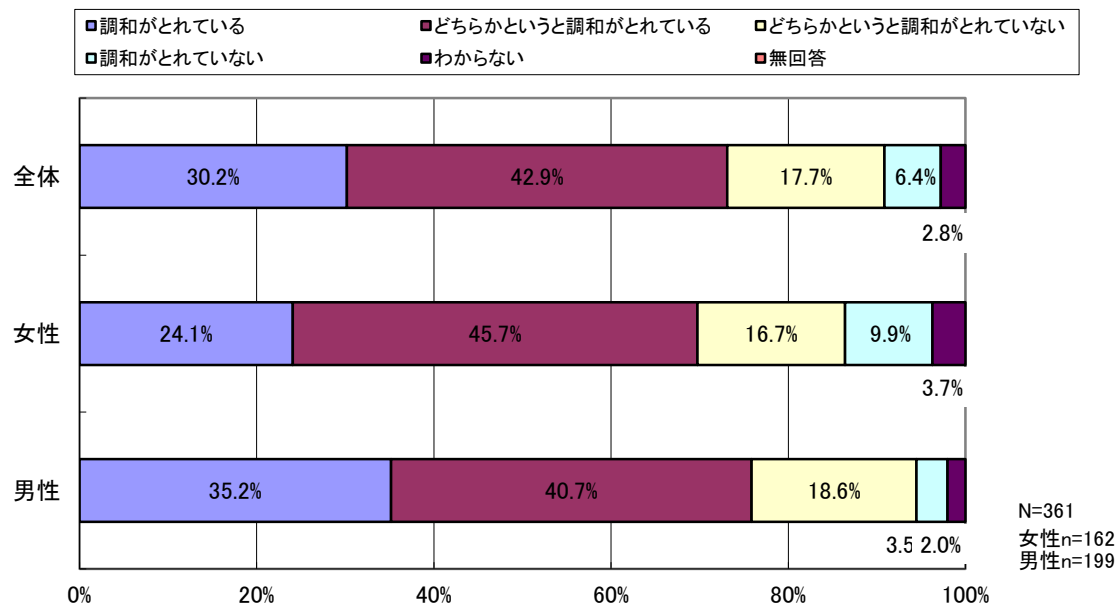


問5で「結婚している(配偶者がいる)」と回答した人のうち、配偶者の就業形態として最も高い割合になったのは「正社員・正職員」である。性別にみると、女性の配偶者は「正社員・正職員」が47.9%と高いが、男性の配偶者は、「専業主婦・主夫」が32.9%と最も高くなっている。

問7で「1. 現在職業を持っている」と回答された方におたずねします。

### 問7副1 ワーク・ライフ・バランスに関する現状認識

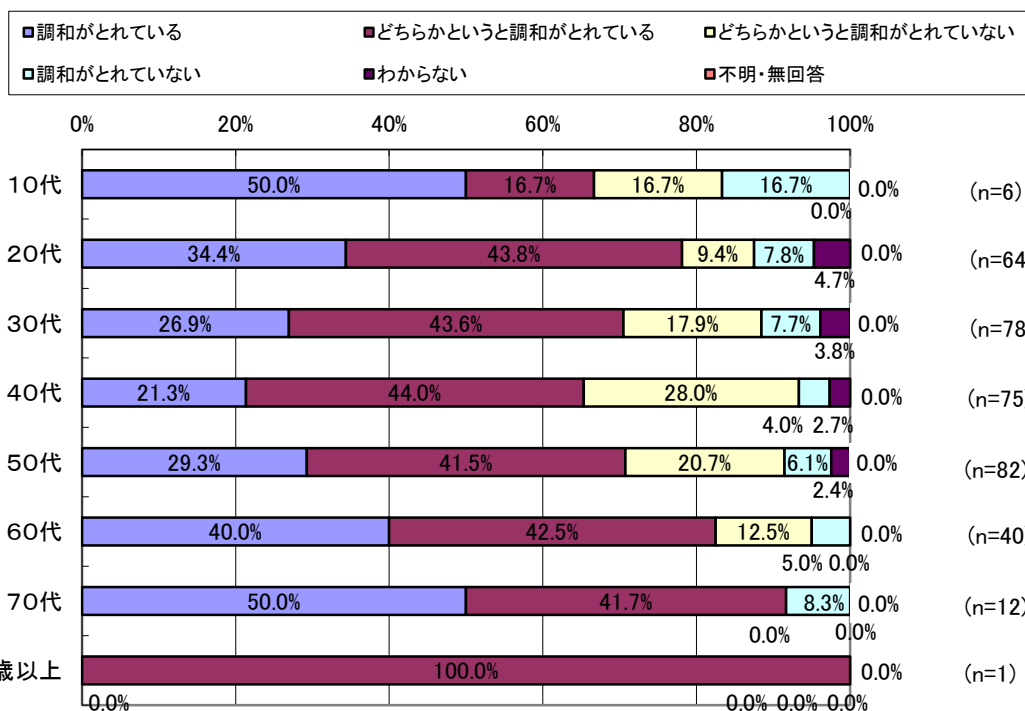
副1 現在あなた自身は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」がとれていると思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。



問7で「職業を持っている」と回答した人にワーク・ライフ・バランスがとれているかどうかたずねたところ、「どちらかという調和がとれている」の割合が42.9%、「調和がとれている」の割合が30.2%で、これらの合計は74.1%となっており、「どちらかという調和がとれていない」と「調和がとれていない」の合計24.1%の3倍以上となっている。

性別にみると、男性の「調和がとれている」と「どちらかという調和がとれている」の合計のほうが女性よりも高くなっている。「調和がとれていない」と「どちらかという調和がとれていない」の合計は女性のほうが高くなっている。

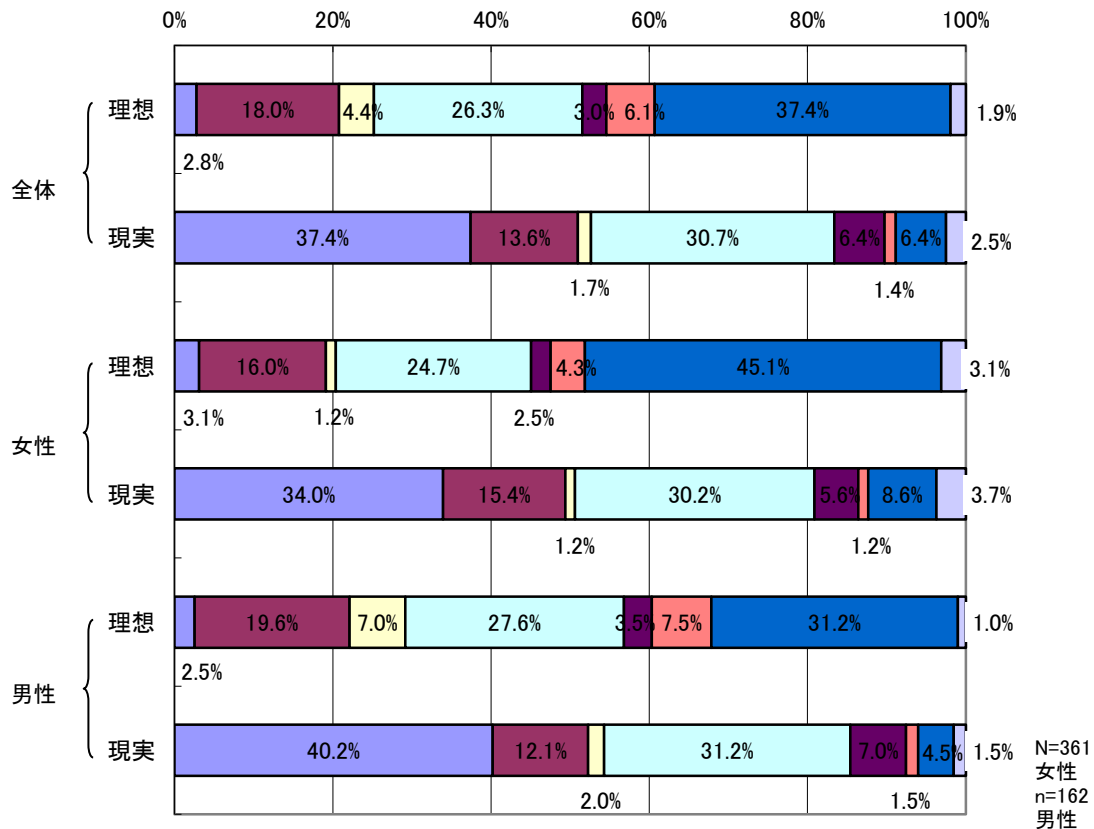
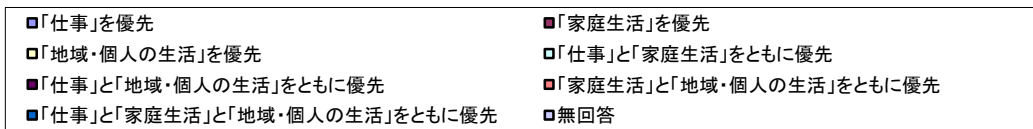
### 年代別ワーク・ライフ・バランスの現状認識



年代別にみると、調和がとれている派(「調和がとれている」と「どちらかという調和がとれている」の合計)が最も高くなっているのは、(定年前の世代に限定すると)20代(78.2%)で、最も低くなっているのは、40代(65.3%)である。

## 問7副2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度の希望と現実

副2 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・趣味・付き合いなど)」の優先度について、あなたの生活に最も近いものはどれですか。それぞれの項目について1つずつ選んで○をつけてください。



問7で「職業を持っている」と回答した人に、仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度についてたずねた。

全体で見ると、理想の生活では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の割合が大幅に高くなる一方で、現実の生活では「仕事を優先」が最も高くなるなど、理想と現実の乖離がみられる。

「仕事を優先」については、理想が2.8%であるのに対し、現実には37.4%と大幅に高くなっている。性別にみると、男性では理想が2.5%であるのに対し、現実には40.2%と女性よりも大幅に高くなっている。

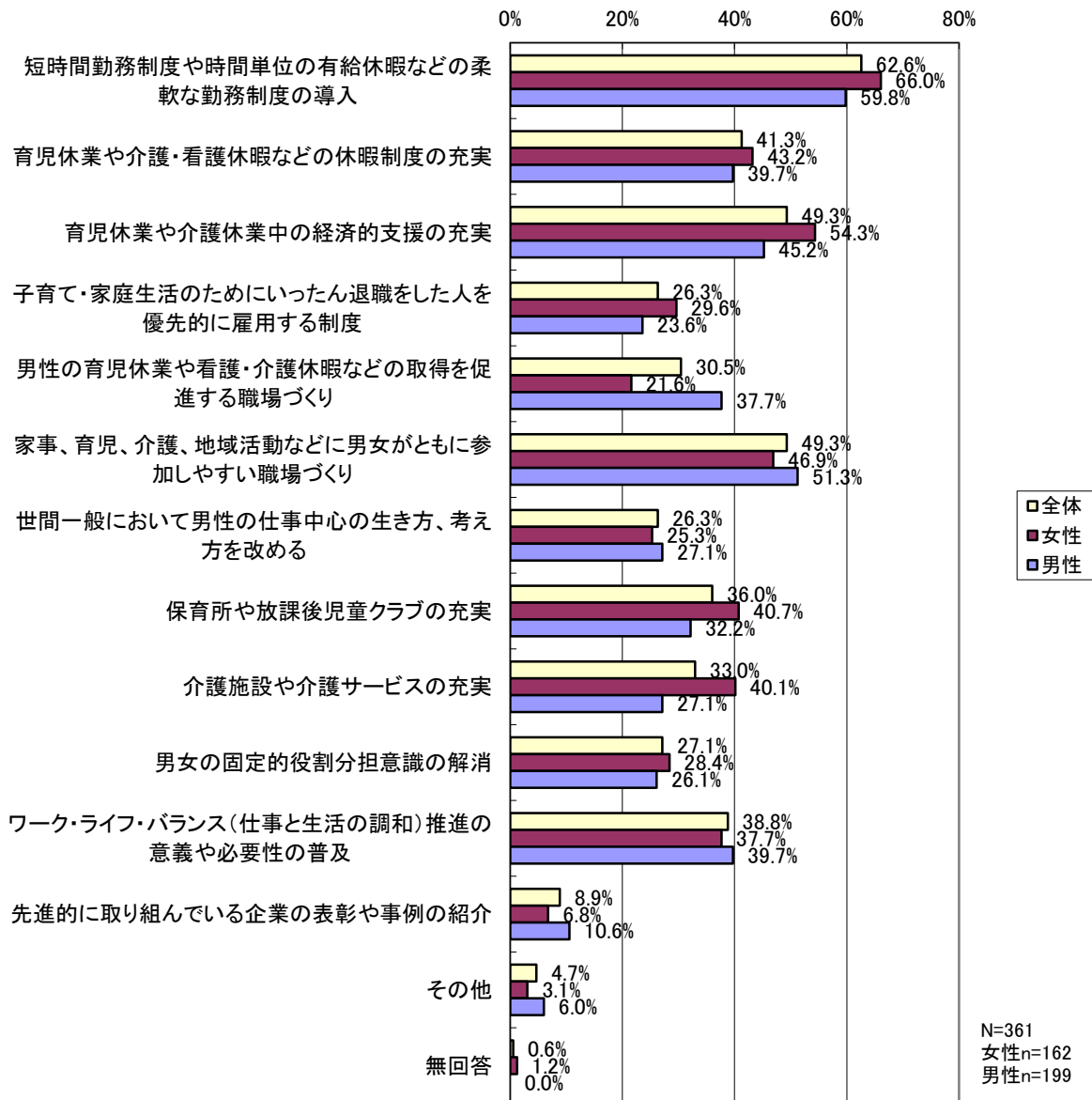
「家庭生活」については、理想は18.0%であるが、現実には13.6%と低くなっている。性別にみると、女性では理想と現実の差はあまりみられないが、男性では理想が19.6%であるのに対し、現実には12.1%と差が大きくなっている。

「仕事と家庭生活をともに優先」については、男女ともに理想の生活よりも現実の生活で高くなっている。

「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」については、理想の生活では37.4%と最も高いが、現実では6.4%と大幅に低くなっている。性別にみると、女性では半数近くが理想の生活としてあげているのに対し、男性では31.2%と差がみられる。

### 問7副3 仕事、家庭生活、地域・個人の生活を両立するための条件整備

副3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」を両立するために、起業や社会において、必要なことは何だと思えますか。優先度が高いと思うものから5つまで選んで○をつけてください。



問7で「職業を持っている」と回答した人に、仕事、家庭生活、地域・個人の生活を両立するための条件整備についてたずねたところ、「短時間勤務制度や時間単位の有給休暇などの柔軟な勤務制度の導入」の割合が62.6%で最も高く、次いで「育児休業や介護・看護休暇などの休暇制度の充実」(49.3%)と「家事、育児、介護、地域活動などに男女がともに参加しやすい職場づくり」(49.3%)の割合が高い。

性別でも、上位3つは同様となっている。女性と男性の差が比較的大きい項目をみると、「男性の育児休業や看護・介護休暇などの取得を促進する職場づくり」の割合は男性のほうが大幅に高くなっている。

一方、「保育所や放課後児童クラブの充実」、「介護施設や介護サービスの充実」の割合は女性のほうが大幅に高くなっている。

このことから、男性は主に職場へ、女性は両立支援制度に対して条件整備を望んでいると思われる。

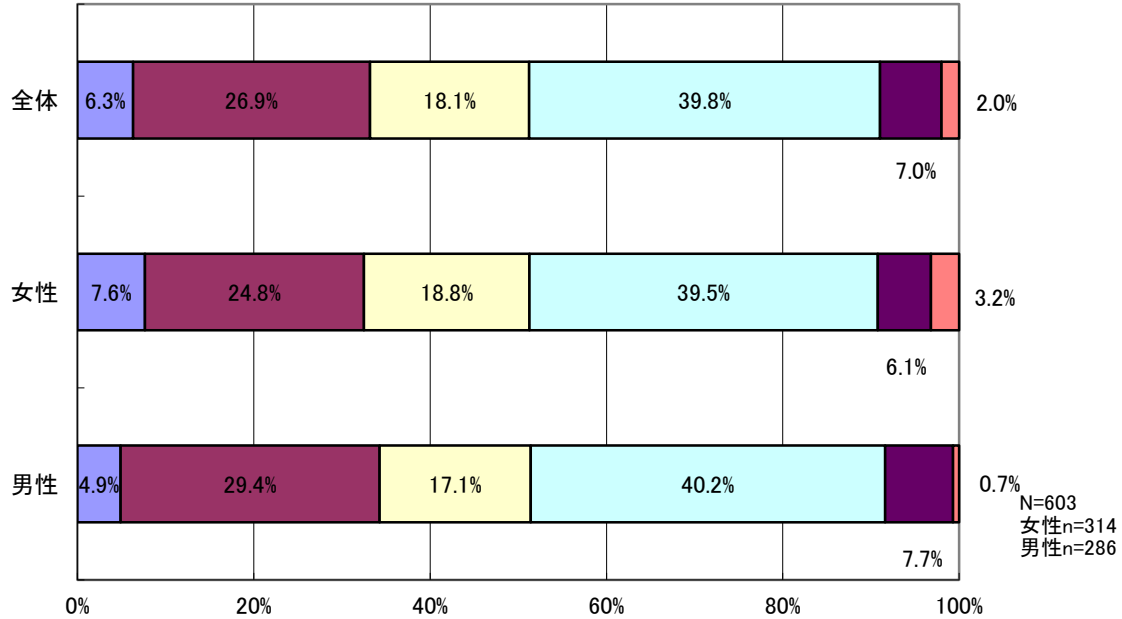


# 男女平等意識について

## 問9 固定的役割分担意識についての考え

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについてどう思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。

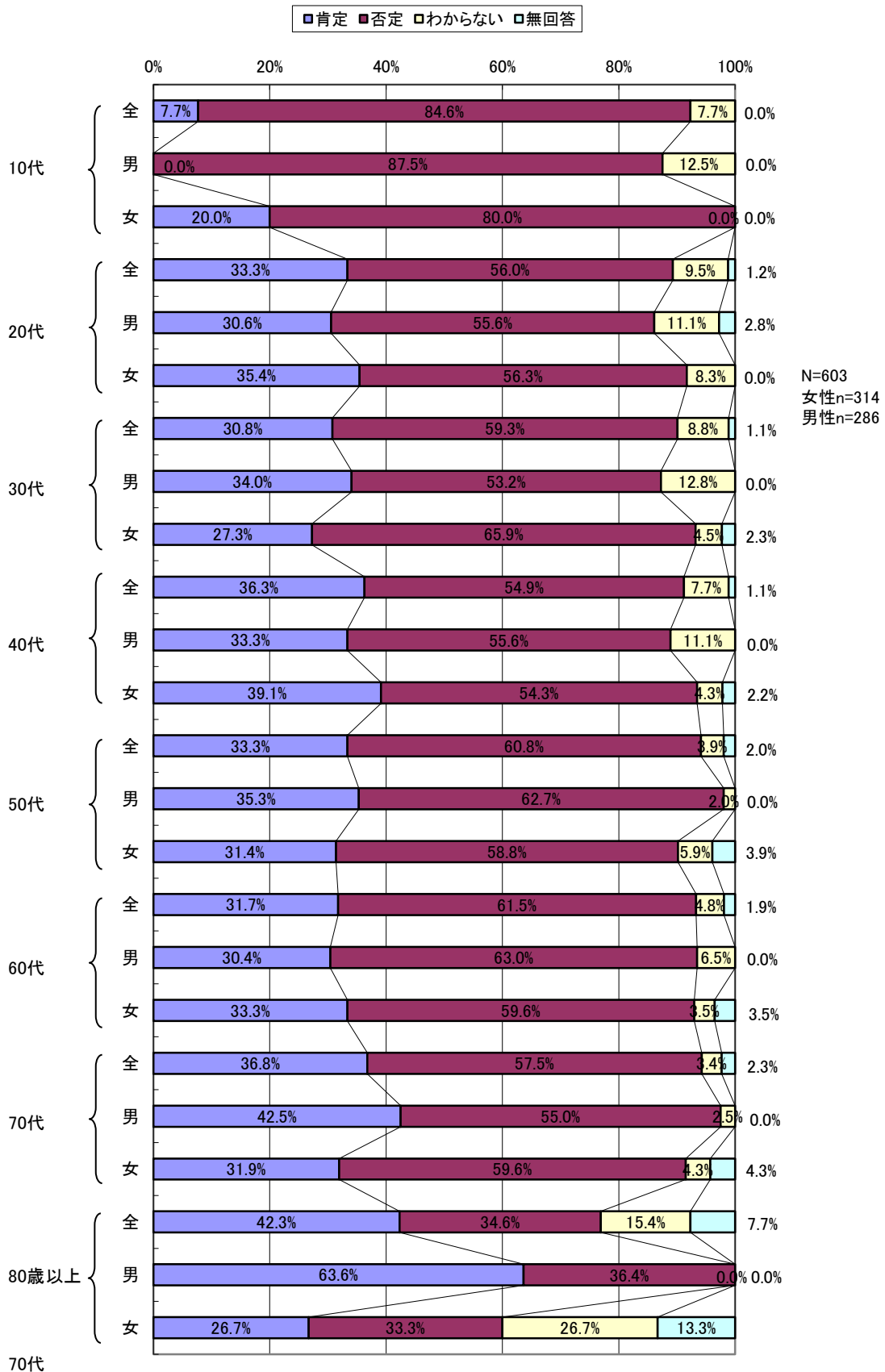
□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ わからない □ 無回答



肯定派(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)と否定派(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)の2つに区分して比較すると、否定派が57.9%と半数を超えており、肯定派は33.2%となっている。

性別でみると、女性の肯定派が32.4%、男性の肯定派が34.3%と男女であまり差がみられない結果となっている。

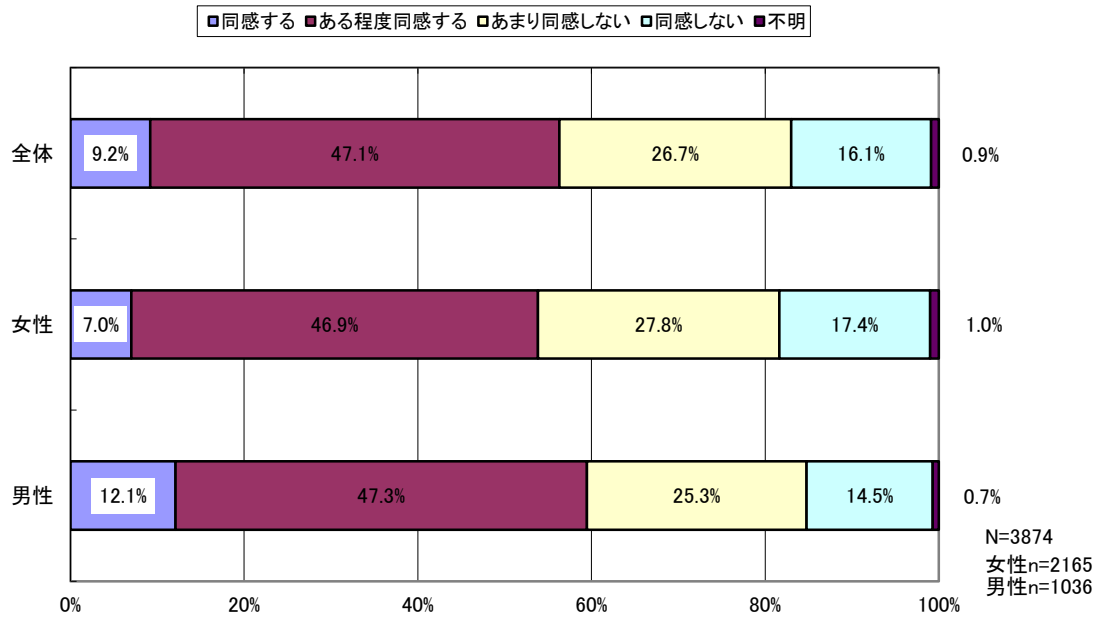
# 性別・年代別固定的役割分担意識についての考え方



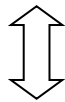
役割分担意識に対して肯定派(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)と否定派(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)の2つに区分して比較した。  
 年代別にみると、肯定派が最も少ないのは10代で、最も多いのは80歳以上となっている。  
 年代かつ性別にみると、30代、70代、80歳以上の男性が女性に比べて肯定派が大幅に高くなっている。

## 21年度 福岡県

「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。

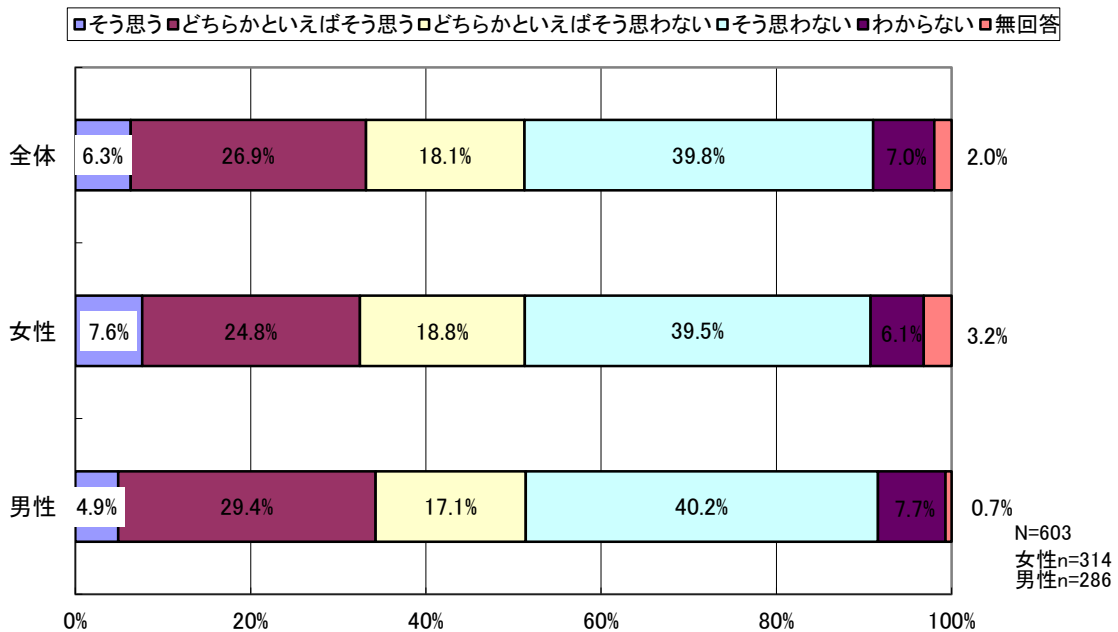


肯定派(「同感する」、「ある程度同感する」の合計)が半数を超えており、男性の方がやや高い。



## 26年度 行橋市

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについてどう思いますか。



否定派(「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の合計)が約6割で、女性の方がやや高い。

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについてどう思いますか。

北九州市(P26)、福岡県(P24)、15年度行橋市(P10)と比較

		肯定派	否定派
北九州	全体	38.7%	53.8%
	女性	34.1%	57.6%
	男性	46.1%	47.8%
福岡県	全体	56.3%	42.8%
	女性	53.9%	45.2%
	男性	59.4%	39.8%
行橋	全体	15.7%	38.8%
	女性	12.3%	43.4%
	男性	18.6%	34.3%
行橋今回	全体	33.2%	57.9%
	女性	32.4%	58.3%
	男性	34.3%	57.3%

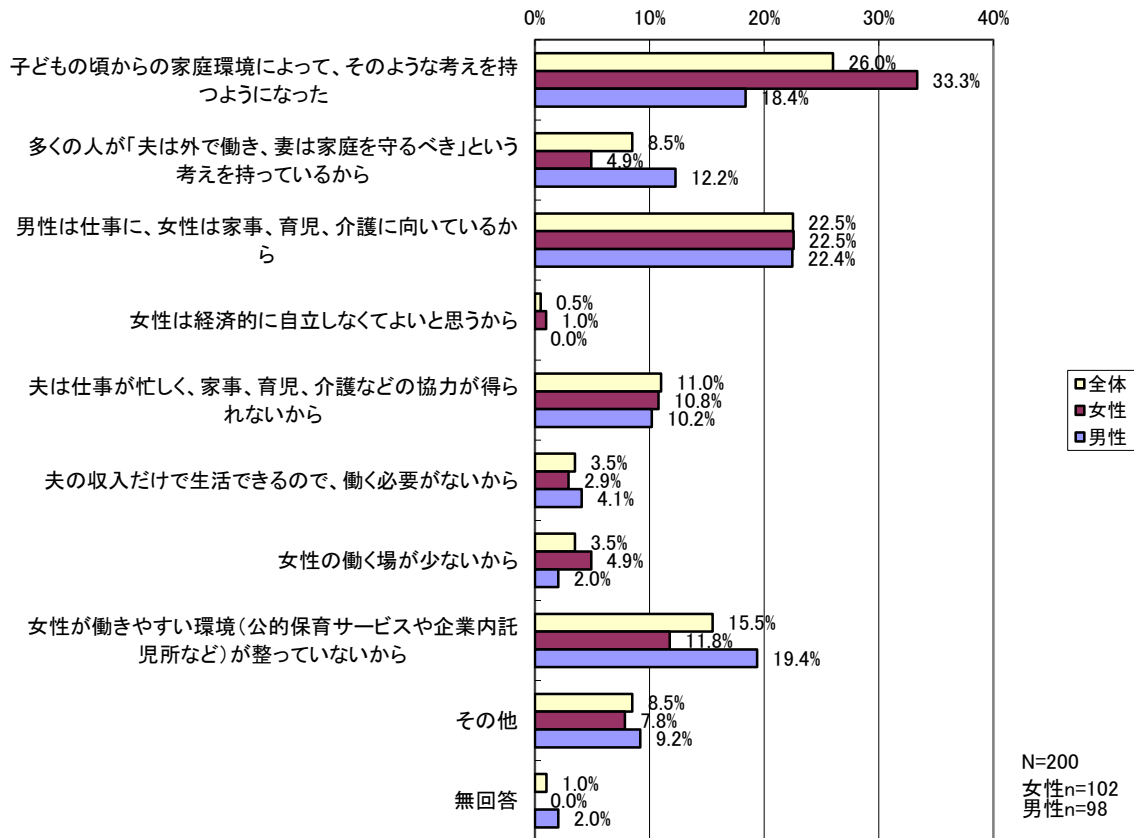
どちらともいえない  
 ( 44.6% )  
 ( 43.9% )  
 ( 46.3% )

- ・どの調査においても、男性の方が「肯定派」の割合が高い。
- ・今回調査の行橋市が「否定派」の割合が最も高くなっている。  
(前回の行橋は、「どちらともいえない」の割合が高いため比較しにくい……)
- ・福岡県では、「肯定派」が「否定派」を上回っている。

問9で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と回答された方におたずねします。

## 問9 固定的役割分担意識についてそのように考える理由

副1 あなたがそのように考えるのはどのような理由からですか。1つだけ選んで○をつけてください。



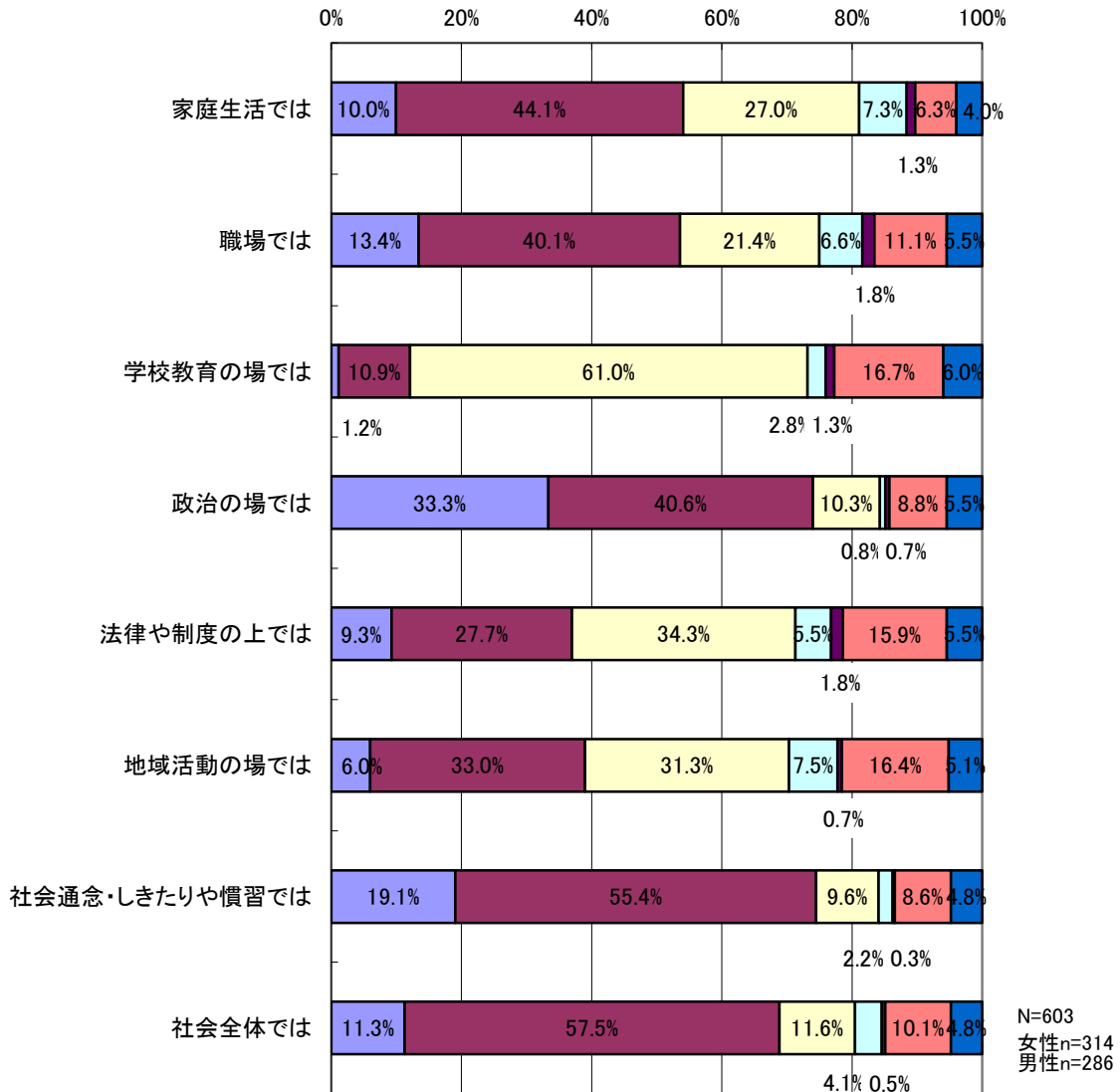
問9で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人に対し、そのように考える理由をたずねたところ、「子どもの頃からの家庭環境によって、そのような考えを持つようになった」が26.0%と最も高く、次いで「男性は仕事に、女性は家事、育児、介護に向いているから」が22.5%、「女性が働きやすい環境(公的保育サービスや企業内託児所など)が整っていないから」が15.5%となっている。

性別で見ると、女性は「子どもの頃からの家庭環境によって、そのような考えを持つようになった」が33.3%と最も高く、男性より14.9ポイント上回っている。男性は「男性は仕事に、女性は家事、育児、介護などに向いているから」が22.4%と最も高くなっている。また、「多くの人が夫は外で働き、女性は家庭を守るべきという考えを持っているから」、「女性が働きやすい環境(公的保育サービスや企業内託児所など)が整っていないから」の2項目で、女性に比べて男性が5ポイント以上高くなっている。

問11 様々な分野での男女平等達成感

問11 あなたは次にあげるそれぞれの項目で男女の立場は平等になっていると思いますか。1～8の項目ごとに1つずつ選んで○をつけてください。

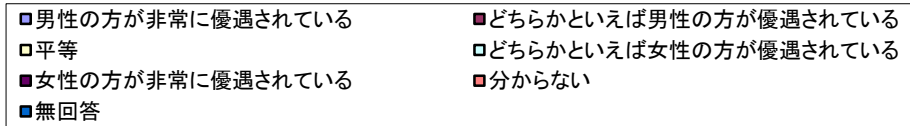
- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等
- 女性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 分からない
- 無回答



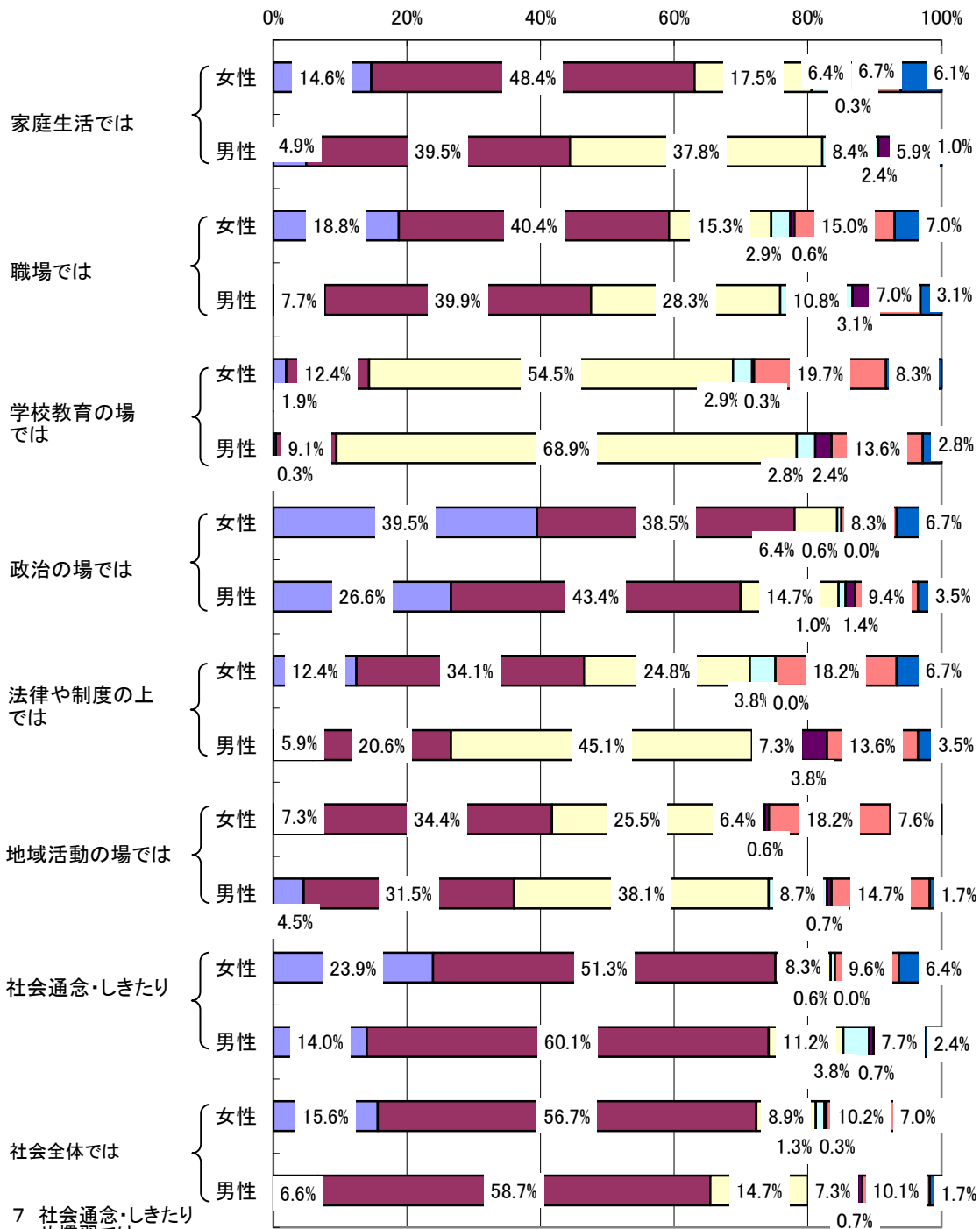
8つの分野での男女平等達成感についてたずねたところ、「平等」の割合が最も高い分野は「学校教育の場では」(61.0%)で、次いで「法律や制度の上では」(34.3%)、「地域活動の場では」(31.3%)の割合が高い。一方、「政治の場では」は10.3%、「社会通念・しきたりや慣習では」は9.6%、「社会全体では」は11.6%と低くなっている。

全ての分野で「男性優遇」(「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が「女性優遇」(「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計)を上回っている。特に「政治の場では」、「社会通念・しきたりや慣習では」、「社会全体では」の3つの項目では「男性優遇」が約7割と非常に高くなっている。

# 男女別様々な分野での男女平等達成感



N=603  
女性n=314  
男性n=286



性別にみると、すべての項目において、「女性優遇」と「平等」の割合は女性より男性の方が高く、逆に「男性優遇」は女性の方が高くなっている。

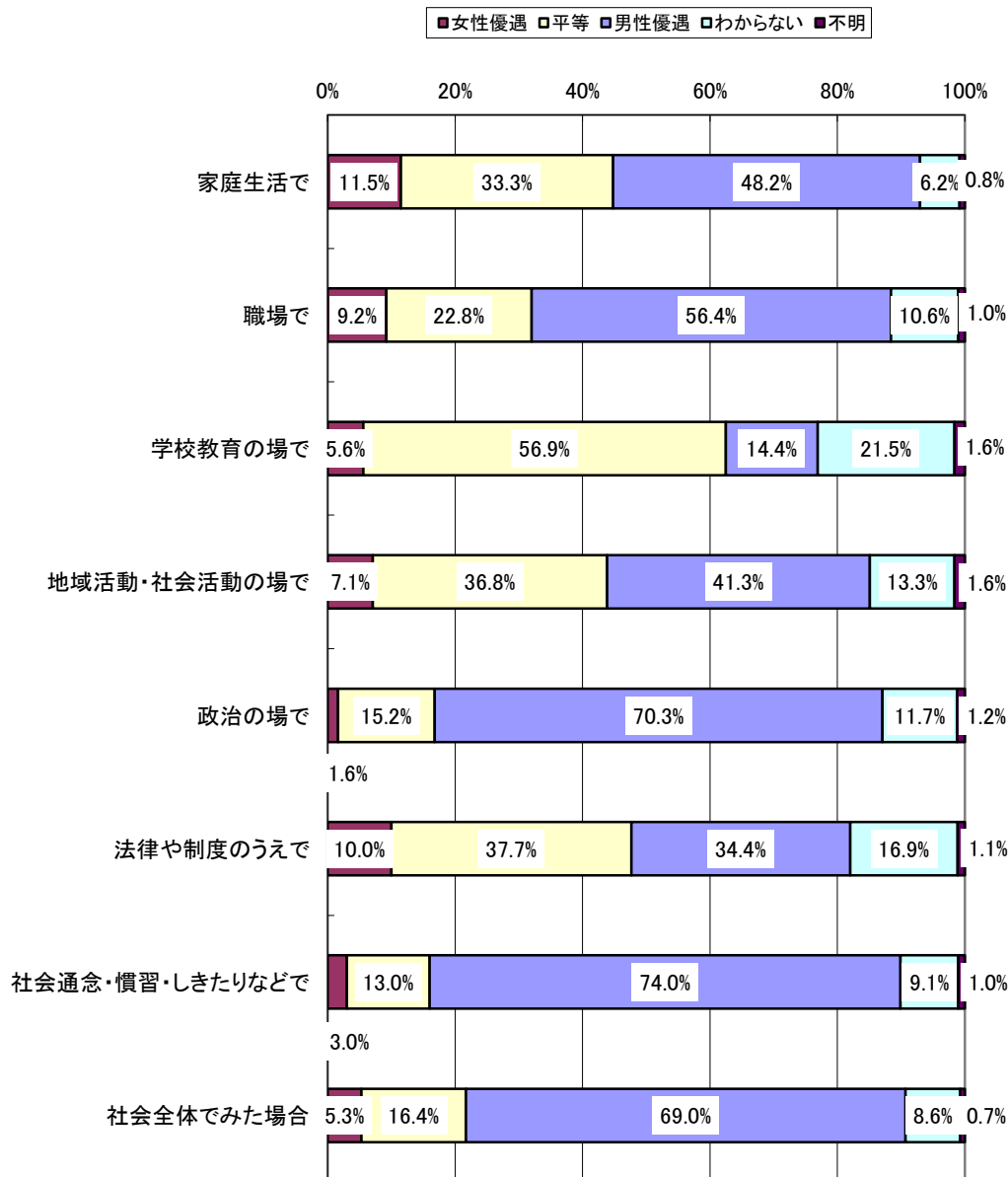
「男性優遇」において、「家庭生活では」(18.6ポイント)、「職場では」(11.6ポイント)、「法律や制度の上では」(20.0ポイント)の3つでは、女性の方が10ポイント以上高い割合となっている。逆に、「平等」において、「家庭生活では」(20.3ポイント)、「法律や制度の上では」(20.3ポイント)の2つでは、男性の方が20ポイント以上高い割合となっている。

男女ともに、「平等」は「学校教育の場では」で最も高くなっている。

あなたは、次にあげる①～⑧までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。

あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。

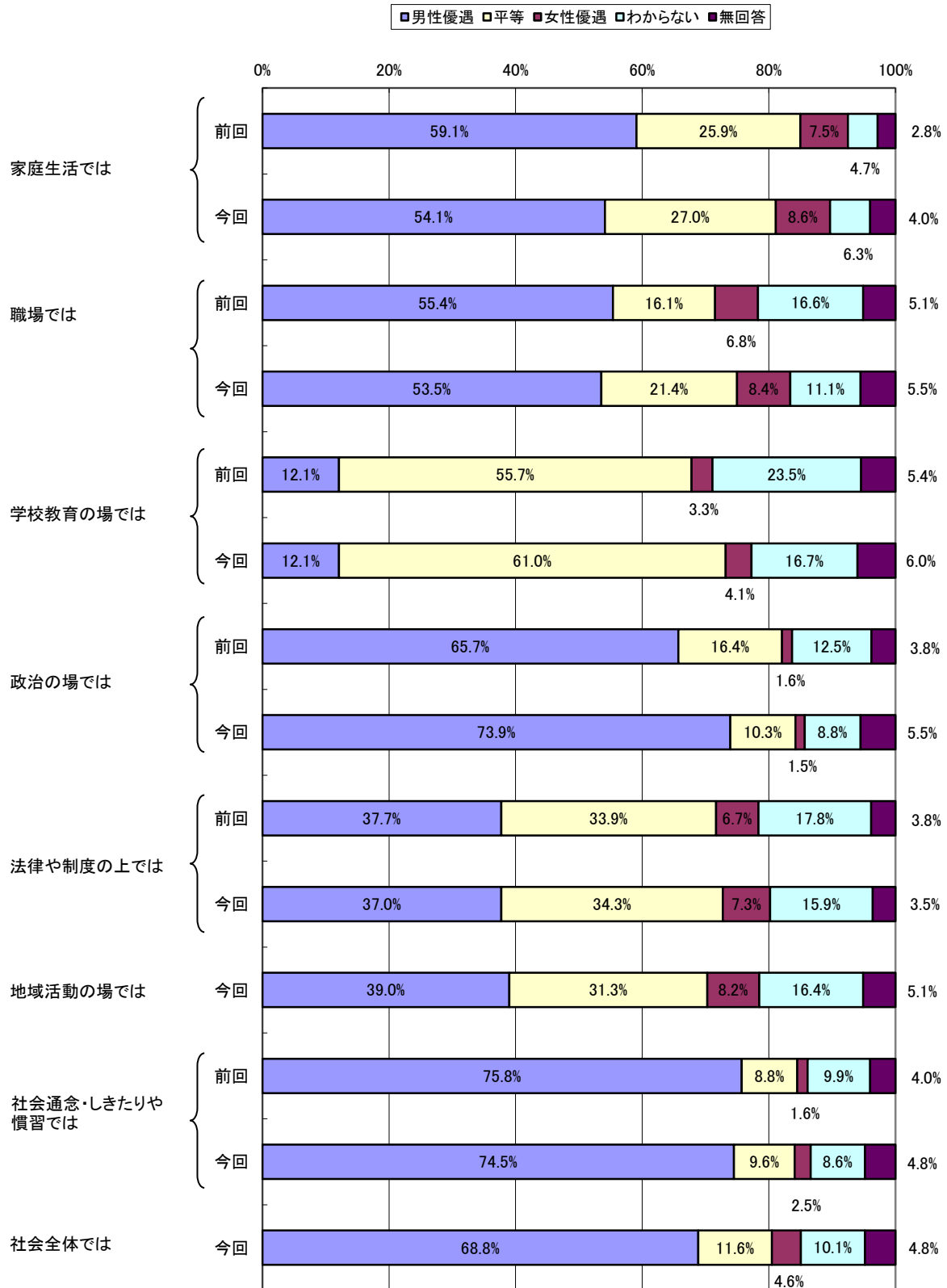
全体N=3874  
女性n=2165  
男性n=1709



行橋市と大きな差は見られないが、「家庭生活では」は、県よりも行橋市の方が「男性優遇」の割合が高く、平等感も低くなっている。



あなたは次にあげるそれぞれの項目で、男女の立場は平等になっていると思いますか。



※「6. 地域活動の場では」と「8. 社会全体では」は新規項目のため、前回データなし。

### 前回調査と比較

「家庭生活では」、「職場では」、「学校教育の場では」、「法律や制度の上では」、「社会通念・しきたりや慣習では」の項目では、「平等」の割合が増加している。逆に、「政治の場では」の項目では、「男性優遇」の割合が増加し、「平等」の割合が減少している。

問11 次にあげる項目で男女の立場は平等になっていると思いますか。

北九州市(P23)、福岡県(P14)、15年度行橋市(P12)と比較

・すべての項目において、「女性優遇」と「平等」の割合はすべての調査で男性の方が女性より高く、逆に「男性優遇」は女性の方が高い。

・今回「政治の場では」、「社会全体では」の2つの項目では、「男性優遇」が増加し、「平等」が減少してしまっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
家庭生活では	北九州	全体	57.2%	20.6%	13.1%	7.3%	1.8%	
		女性	62.4%	15.8%	11.9%	8.0%	1.9%	
		男性	48.9%	28.3%	15.2%	6.2%	1.4%	
	福岡県	全体	48.2%	33.3%	11.5%	6.2%	0.8%	
		女性	55.5%	26.0%	11.2%	6.3%	1.0%	
		男性	39.0%	42.6%	11.8%	6.0%	0.6%	
	行橋前回	全体	59.1%	25.9%	7.5%	4.7%	2.8%	
		女性	-	-	-	-	-	
		男性	-	-	-	-	-	
	行橋今回	全体	54.1%	27.0%	8.6%	6.3%	4.0%	
		女性	63.0%	17.5%	6.7%	6.7%	6.1%	
		男性	44.4%	37.8%	10.8%	5.9%	1.0%	

前回に比べて、今回は「男性優遇」の割合が5ポイント減少して、「平等」が22ポイント増加している。

平等感は、北九州より高いが福岡県よりは低くなっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
職場では	北九州	全体	62.6%	16.1%	9.3%	10.0%	2.0%	
		女性	65.7%	13.2%	6.7%	11.7%	2.6%	
		男性	58.4%	20.8%	13.2%	6.8%	0.8%	
	福岡県	全体	56.4%	22.8%	9.2%	10.6%	1.0%	
		女性	58.7%	19.6%	7.1%	13.6%	1.1%	
		男性	53.4%	26.8%	11.9%	6.9%	0.9%	
	行橋前回	全体	55.4%	16.1%	6.8%	16.6%	5.1%	
		女性	-	-	-	-	-	
		男性	-	-	-	-	-	
	行橋今回	全体	53.5%	21.4%	8.4%	11.1%	5.5%	
		女性	59.2%	15.3%	3.5%	15.0%	7.0%	
		男性	47.6%	28.3%	13.9%	7.0%	3.1%	

前回に比べて、今回は「男性優遇」の割合が1.9ポイント減少して、「平等」が1.6ポイント増加している。

平等感は、北九州より高いが福岡県よりは低くなっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
学校教育の場では	北九州	全体	15.7%	53.5%	5.0%		23.6%	2.1%
		女性	19.3%	49.6%	3.6%		25.5%	2.0%
		男性	9.8%	60.4%	7.5%		20.5%	1.9%
	福岡県	全体	14.4%	56.9%	5.6%		21.5%	1.6%
		女性	17.0%	53.8%	3.2%		24.2%	1.8%
		男性	11.1%	60.8%	8.7%		18.0%	1.5%
	行橋前回	全体	12.1%	55.7%	3.3%		23.5%	5.4%
		女性	-	-	-		-	-
		男性	-	-	-		-	-
	行橋今回	全体	12.1%	61.0%	4.1%		16.7%	6.0%
		女性	14.3%	54.5%	3.2%		19.7%	8.3%
		男性	9.4%	68.9%	5.2%		13.6%	2.8%

すべての調査において、8つの項目の中で、最も「平等」の割合が高い。

前回に比べて、「平等」の割合が5.3ポイント増加している。

平等感は、北九州・福岡県と比べて最も高くなっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
政治の場では	北九州	全体	74.5%	10.7%	2.1%		11.3%	1.5%
		女性	78.0%	6.3%	1.1%		12.8%	1.9%
		男性	69.6%	17.9%	3.4%		8.5%	0.6%
	福岡県	全体	70.3%	15.2%	1.6%		11.7%	1.2%
		女性	75.6%	9.4%	1.0%		12.7%	1.3%
		男性	63.5%	22.5%	2.5%		10.5%	1.1%
	行橋前回	全体	65.7%	16.4%	1.6%		12.5%	3.8%
		女性	-	-	-		-	-
		男性	-	-	-		-	-
	行橋今回	全体	73.9%	10.3%	1.5%		8.8%	5.5%
		女性	78.0%	6.4%	0.6%		8.3%	6.7%
		男性	70.0%	14.7%	2.4%		9.4%	3.5%

前回に比べて、「男性優遇」が8.2ポイント増加して、「平等」が6.1ポイント減少している。

「男性優遇」が7割を超えている。

平等感は、北九州・福岡県と比べて最も低くなっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
法律や制度の上では	北九州	全体	38.5%	33.9%	9.9%		16.4%	1.3%
		女性	45.3%	25.2%	7.8%		20.0%	1.8%
		男性	27.6%	48.3%	13.2%		10.4%	0.5%
	福岡県	全体	34.4%	37.7%	10.0%		16.9%	1.1%
		女性	41.8%	30.3%	6.1%		20.4%	1.4%
		男性	25.0%	47.0%	14.9%		12.4%	0.7%
	行橋前回	全体	37.7%	33.9%	6.7%		17.8%	3.8%
		女性	-	-	-		-	-
		男性	-	-	-		-	-
	行橋今回	全体	37.0%	34.3%	7.3%		15.9%	3.5%
		女性	46.5%	24.8%	3.8%		18.2%	6.7%
		男性	26.5%	45.1%	11.1%		13.6%	5.5%

前回に比べて、ほとんど変化は見られなかった。

「男性優遇」と「平等」が同程度の割合となっている。

平等感は、北九州より高いが福岡県より低くなっている。

		男性◎	男性○	平等	女性○	女性◎	わからない	無回答
地域活動の場では	北九州	全体	35.3%	34.4%	10.5%		17.8%	2.0%
		女性	40.0%	28.3%	9.1%		20.1%	2.5%
		男性	28.3%	44.1%	12.3%		14.4%	0.9%
	福岡県	全体	41.3%	36.8%	7.1%		13.3%	1.6%
	(地域活動・社会活動の場で)	女性	46.7%	31.4%	4.9%		15.3%	1.8%
		男性	34.5%	43.5%	9.9%		10.7%	1.4%
	行橋	全体	-	-	-		-	-
	(地域や社会全体では)	女性	-	-	-		-	-
		男性	-	-	-		-	-
	行橋今	全体	39.0%	31.3%	8.2%		16.4%	5.1%
		女性	41.7%	25.5%	7.0%		18.2%	7.6%
		男性	36.0%	38.1%	9.4%		14.7%	1.7%

前回に比べて、「男性優遇」、「平等」がわずかに減少し、「女性優遇」がわずかに増加した。

平等感は、北九州・全国と比べて最も低くなっている。

			男性 ◎	男性 ○	平等	女性 ○	女性 ◎	わから ない	無回 答
社会通念・しきたりや慣習では	北九州	全体	79.3%		9.4%	2.5%		7.5%	1.3%
		女性	81.6%		6.7%	2.2%		7.8%	1.7%
		男性	76.1%		13.5%	3.0%		6.8%	0.6%
	福岡県	全体	74.0%		13.0%	3.0%		9.1%	1.0%
		女性	77.4%		9.6%	1.9%		9.9%	1.2%
		男性	69.6%		17.3%	4.3%		8.0%	0.8%
	行橋前回	全体	75.8%		8.8%	1.6%		9.9%	4.0%
		女性	-		-	-		-	-
		男性	-		-	-		-	-
	行橋今回	全体	74.5%		9.6%	2.5%		8.6%	4.8%
		女性	75.2%		8.3%	0.6%		9.6%	6.4%
		男性	74.1%		11.2%	4.5%		7.7%	2.4%

前回に比べて、大きな変化は見られない。

「男性優遇」がどの調査においても7割を超えている。

平等感は、北九州よりは高いが福岡県よりは低くなっている。

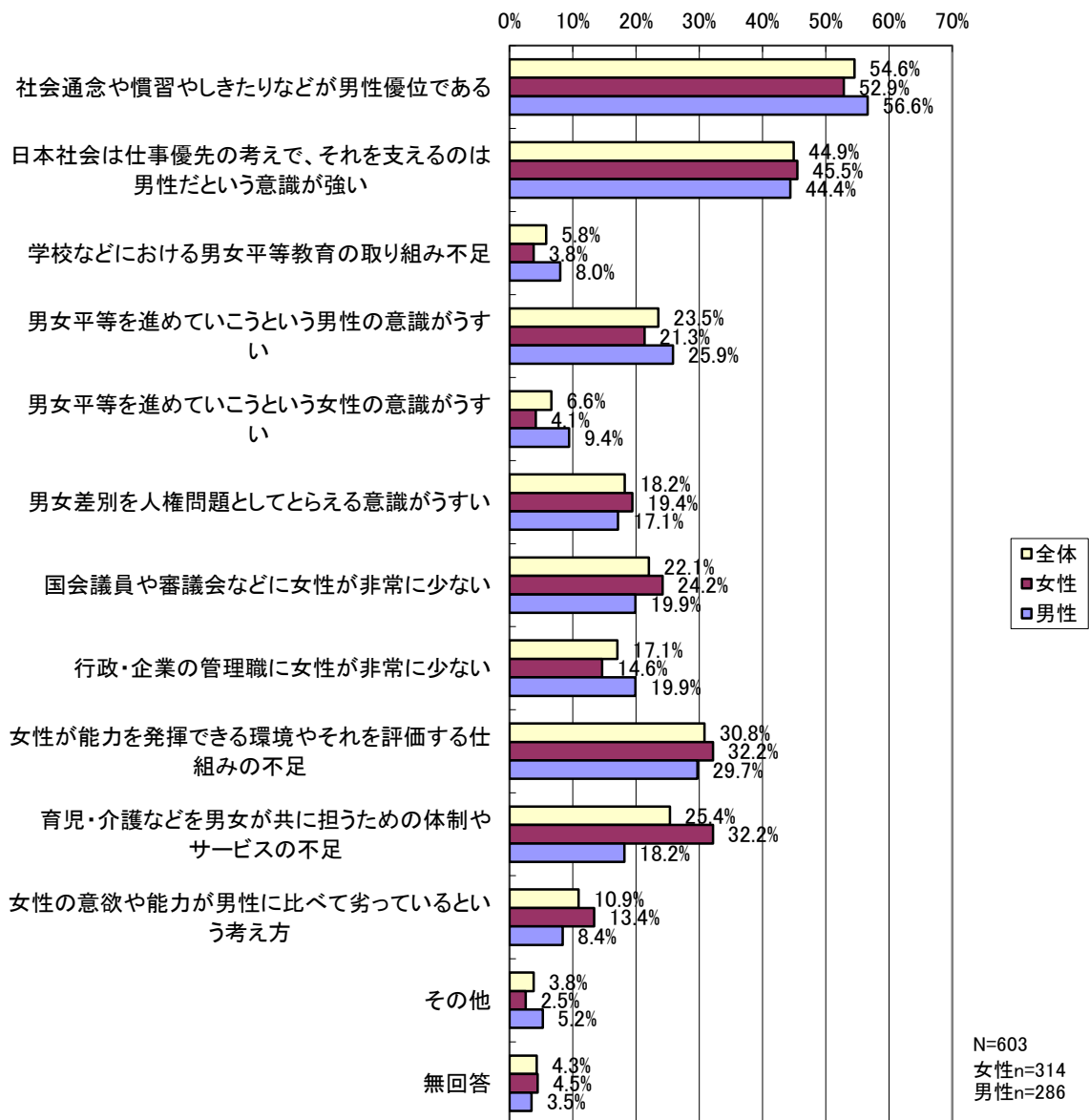
			男性 ◎	男性 ○	平等	女性 ○	女性 ◎	わから ない	無回 答
社会全体では	北九州	全体	71.8%		13.0%	4.5%		9.5%	1.1%
		女性	74.5%		10.4%	2.4%		11.1%	1.6%
		男性	67.7%		17.4%	7.9%		6.7%	0.3%
	福岡県	全体	69.0%		16.4%	5.3%		8.6%	0.7%
		女性	74.1%		12.1%	3.0%		10.0%	0.9%
		男性	62.4%		22.0%	8.2%		6.8%	0.6%
	行橋前回	全体	60.4%		17.7%	2.8%		16.2%	2.9%
	(地域や社会全体では)	女性	-		-	-		-	-
		男性	-		-	-		-	-
	行橋今回	全体	68.8%		11.6%	4.6%		10.1%	4.8%
		女性	72.3%		8.9%	1.6%		10.2%	7.0%
		男性	65.3%		14.7%	8.0%		10.1%	1.7%

前回に比べて、「男性優遇」が8.4ポイント増加し、「平等」が6.1ポイント減少している。

平等感は、北九州・福岡県と比べて最も低くなっている。

問12 地域や社会全体で男性の方が優遇されている原因について

あなたは社会全体でみて、男女間の不平等の原因は何であると思いますか。3つまで選んで○をつけてください。



全体でみると、「通念や慣習やしきたりなどが男性優位である」が54.6%で最も高く、次いで「日本社会は仕事優先の考えで、それを支えるのは男性だという意識が強い」が44.9%、「女性が能力を発揮できる環境やそれを評価する仕組みの不足」が30.8%となっている。

性別でみると、「育児・介護などを男女が共に担うための体制やサービスの不足」では、男性より女性のほうが14ポイント高い割合となっている。

問12 男女不平等の原因は何だと思いますか。

前回行橋市(P15)と比較

		社会通念や慣習やしきたりなどが男性優位である	日本社会は仕事優先の考えで、それを支えるのは男性だという意識が強い	学校などにおける男女平等教育の取り組み不足	男女平等を進めていこうという男性の意識がうすい	男女平等を進めていこうという女性の意識がうすい	男女差別を人権問題としてとらえる意識がうすい	国会議員や審議会などに女性が非常に少ない	行政・企業の管理職に女性が非常に少ない	女性が能力を発揮できる環境やそれを評価する仕組みの不足	正に評価する仕組みが十分でない	(専業主婦に有利な税制や社会保障制度など)	育児・介護などを男女が共に担うための体制やサービスの不足	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える方	その他	不明・無回答
行橋前回	全体	83.0%	74.9%	25.3%	53.5%	26.0%	40.2%	49.1%	53.7%	48.5%	46.1%	18.1%	62.0%	40.4%	2.0%	2.2%
	女性	82.2%	74.8%	24.8%	58.9%	29.8%	41.1%	49.2%	53.9%	50.8%	51.2%	19.4%	66.7%	46.1%	1.2%	1.6%
	男性	84.7%	75.0%	25.5%	46.4%	20.4%	38.8%	49.0%	53.6%	44.9%	39.3%	15.8%	56.1%	33.2%	3.1%	3.1%
行橋今回	全体	56.6%	44.4%	8.0%	25.9%	9.4%	17.1%	19.9%	19.9%	29.7%	-	-	18.2%	8.4%	5.2%	3.5%
	女性	52.9%	45.5%	3.8%	21.3%	4.1%	19.4%	24.2%	14.6%	32.2%	-	-	32.2%	13.4%	2.5%	4.5%
	男性	54.6%	44.9%	5.8%	23.5%	6.6%	18.2%	22.1%	17.1%	30.8%	-	-	25.4%	10.9%	3.8%	4.3%

上位2つは同じ。

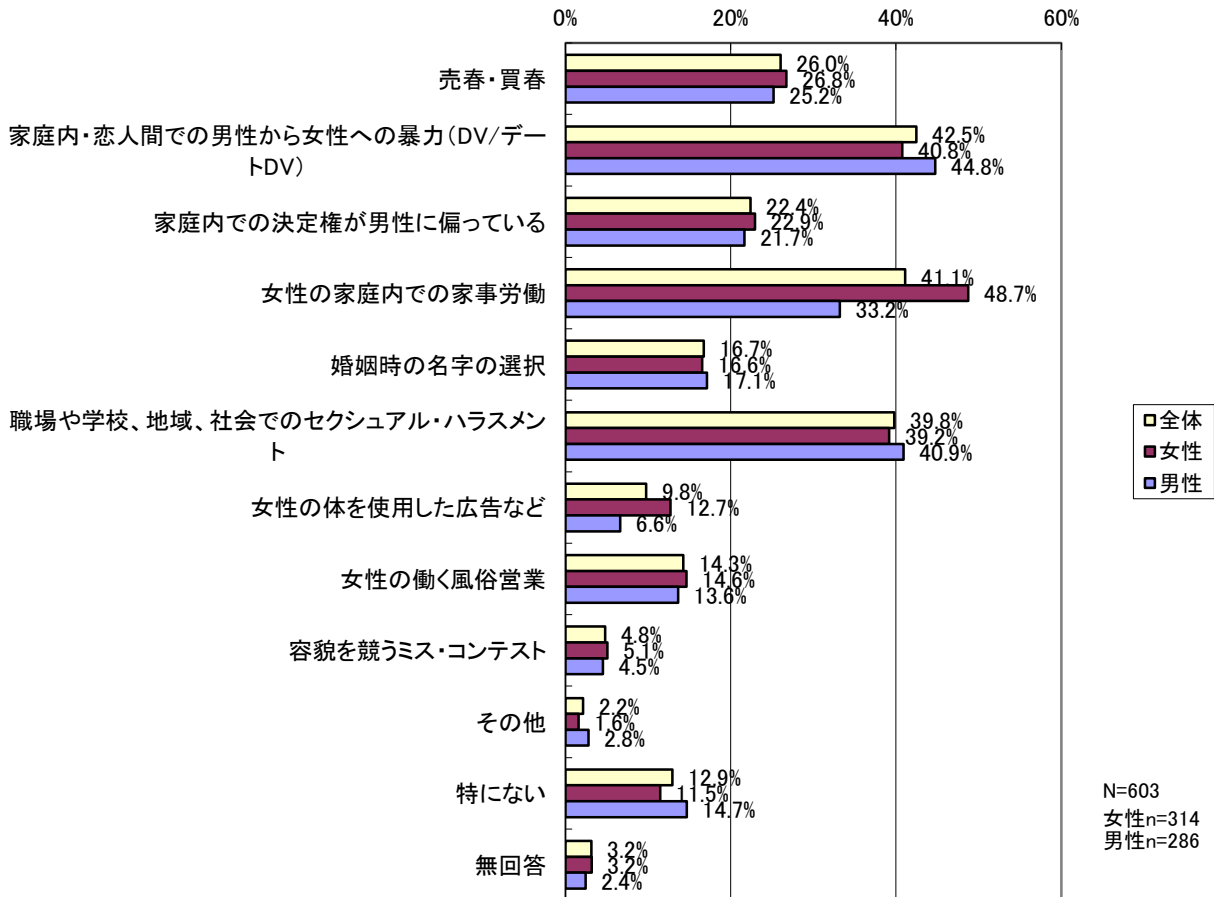
前は、「女性管理職の少なさ」と「育児・介護体制不足」

今回は、「国会議員の女性の少なさ」と「女性のための機会不足」を挙げている。

# 女性の人権について

## 問13 女性の人権が尊重されていないと感じる時について

問13 女性の人権が尊重されていないと感じる時はどんな時ですか。3つまで選んで○をつけてください。



全体で見ると、「家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV/デートDV)」が42.5%と最も高く、次いで「女性の家庭内での家事労働」が41.1%、「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」が39.8%となっている。

性別にみると、女性は「女性の家庭内での家事労働」が48.7%と最も高くなっており、次いで「家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV/デートDV)」40.8%、「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」39.2%となっている。男性は「家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV/デートDV)」が44.8%と最も高く、次いで「職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント」40.9%、「女性の家庭内での家事労働」33.2%となっている。

また、「女性の家庭内での家事労働」(女性48.7%、男性33.2%)や「女性の体を使用した広告など」(女性12.7%、男性6.6%)については、女性のほうが男性よりも人権が尊重されていないと考える人が多い。「特になし」は女性11.5%、男性14.7%となっている。



		売春・買春	家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV/デートDV)	家庭内での決定権が男性に偏っている	女性の家庭内での家事労働	婚姻時の名字の選択	職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント	女性の体を使用した広告など	女性の働く風俗営業	容貌を競うミス・コンテスト	その他	特にない	不明・無回答
10代	全体	15.4%	30.8%	53.8%	38.5%	30.8%	23.1%	15.4%	7.7%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%
	女性	20.0%	40.0%	80.0%	40.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	男性	12.5%	25.0%	37.5%	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
20代	全体	34.5%	36.9%	14.3%	34.5%	21.4%	35.7%	6.0%	13.1%	6.0%	2.4%	17.9%	0.0%
	女性	33.3%	35.4%	14.6%	43.8%	29.2%	41.7%	6.3%	12.5%	4.2%	2.1%	12.5%	0.0%
	男性	36.1%	38.9%	13.9%	22.2%	11.1%	27.8%	5.6%	13.9%	8.3%	2.8%	25.0%	0.0%
30代	全体	19.8%	37.4%	16.5%	35.2%	23.1%	39.6%	6.6%	13.2%	5.5%	2.2%	15.4%	1.1%
	女性	18.2%	34.1%	20.5%	52.3%	20.5%	38.6%	11.4%	15.9%	4.5%	2.3%	11.4%	2.3%
	男性	21.3%	40.4%	12.8%	19.1%	25.5%	40.4%	2.1%	10.6%	6.4%	2.1%	19.1%	0.0%
40代	全体	19.8%	41.8%	13.2%	42.9%	13.2%	39.6%	13.2%	14.3%	1.1%	2.2%	16.5%	2.2%
	女性	19.6%	47.8%	19.6%	52.2%	13.0%	39.1%	17.4%	17.4%	0.0%	0.0%	8.7%	2.2%
	男性	20.0%	35.6%	6.7%	33.3%	13.3%	40.0%	8.9%	11.1%	2.2%	4.4%	24.4%	2.2%
50代	全体	25.5%	48.0%	23.5%	47.1%	16.7%	52.9%	7.8%	10.8%	6.9%	1.0%	7.8%	2.0%
	女性	35.3%	45.1%	27.5%	51.0%	11.8%	52.9%	7.8%	13.7%	7.8%	0.0%	7.8%	2.0%
	男性	15.7%	51.0%	19.6%	43.1%	21.6%	52.9%	7.8%	7.8%	5.9%	2.0%	7.8%	2.0%
60代	全体	31.7%	50.0%	22.1%	34.6%	13.5%	39.4%	10.6%	13.5%	3.8%	3.8%	13.5%	5.8%
	女性	33.3%	47.4%	14.0%	36.8%	15.8%	38.6%	12.3%	12.3%	3.5%	3.5%	15.8%	3.5%
	男性	28.3%	54.3%	30.4%	32.6%	10.9%	41.3%	8.7%	13.0%	4.3%	4.3%	10.9%	8.7%
70代	全体	24.1%	44.8%	41.4%	49.4%	12.6%	36.8%	13.8%	17.2%	5.7%	1.1%	11.5%	2.3%
	女性	21.3%	40.4%	40.4%	57.4%	8.5%	31.9%	17.0%	17.0%	10.6%	2.1%	12.8%	2.1%
	男性	27.5%	50.0%	42.5%	40.0%	17.5%	42.5%	10.0%	17.5%	0.0%	0.0%	10.0%	2.5%
80歳以上	全体	34.6%	26.9%	15.4%	57.7%	11.5%	23.1%	11.5%	34.6%	0.0%	0.0%	7.7%	15.4%
	女性	20.0%	20.0%	6.7%	53.3%	6.7%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%	26.7%
	男性	54.5%	36.4%	27.3%	63.6%	18.2%	27.3%	0.0%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全体でみたとき、最も高い割合となったものに色をつけた。

年代別で見ると、30代、40代女性では「女性の家庭内での家事労働」が最も高くなっている。

※ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に対して、肯定派(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)と反対派(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)の2つに区分して比較した。

肯定派	27.5%	41.0%	22.0%	32.5%	13.5%	36.5%	11.0%	18.5%	3.5%	3.5%	18.0%	3.0%
否定派	26.6%	45.6%	23.8%	47.0%	18.6%	42.7%	9.7%	12.9%	5.2%	1.4%	7.7%	2.0%

肯定派と否定派を比べると、「その他」「特にない」「不明・無回答」を除いたところでは、ほとんどの項目で否定派の方が割合が高くなっている。

その中で、肯定派では、「家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV/デートDV)」(41.0%)、否定派では、「女性の家庭内での家事労働」(47.0%)と最も高くなっている。

問13 女性の人権が尊重されていないと感じるのはどんな時ですか。

前回行橋市(P18)と比較

		売春・買春	家庭内での夫から妻への暴力(ドメスティック・バイオレンス)	恋人関係における男女間での男性から女性への暴力(ドメスティック・バイオレンス)	職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント	女性の体などを使用した広告など	女性のヌード写真掲載雑誌など	メディア関係のポルノビデオやわいせつビデオなど	女性の働く風俗営業	容ぼうを競うミス・コンテスト	その他	特にない	不明・無回答
行橋 前回	全体	29.6%	47.0%	17.8%	44.7%	16.6%	17.2%	22.4%	16.0%	7.5%	2.1%	14.0%	6.1%
	女性	29.1%	47.6%	16.0%	48.1%	17.3%	15.3%	25.1%	16.3%	6.8%	2.0%	11.8%	7.3%
	男性	30.0%	47.1%	20.0%	41.4%	16.0%	19.1%	19.4%	15.4%	8.6%	2.3%	16.0%	4.0%
		売春・買春	家庭内・恋人間での男性から女性への暴力(DV・デートDV)	家庭内での決定権が男性に偏っている	女性の家庭内での家事労働	婚姻時の名字の選択	職場や学校、地域、社会でのセクシュアル・ハラスメント	女性の体を使用した広告など	女性の働く風俗営業	容貌を競うミス・コンテスト	その他	特にない	無回答
行橋 今回	全体	26.0%	42.5%	22.4%	41.1%	16.7%	39.8%	9.8%	14.3%	4.8%	2.2%	12.9%	3.2%
	女性	26.8%	40.8%	22.9%	48.7%	16.6%	39.2%	12.7%	14.6%	5.1%	1.6%	11.5%	3.2%
	男性	25.2%	44.8%	21.7%	33.2%	17.1%	40.9%	6.6%	13.6%	4.5%	2.8%	14.7%	2.4%

上位3つに色をつけた。

「DV」と「セクハラ」は前回調査も上位。今回は新たに加わった「家事労働」が上位に入った。

男女差が大きい項目は、前は「セクハラ」が男性より女性の方が6.7ポイント高く、今回は「女性の家庭内での家事労働」が男性より女性の方が15.5ポイント高くなっている。

問14 配偶者や恋人からの暴力に対する考え方

配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次のようなことをした、またはされたことがありますか。また、それぞれについて、あなたは、それは暴力だと思いますか。A～Lの項目ごとに「暴力被害・加害の有無」、「暴力の認識」について、1つずつ選んで○をつけてください。

暴力被害・加害経験の有無

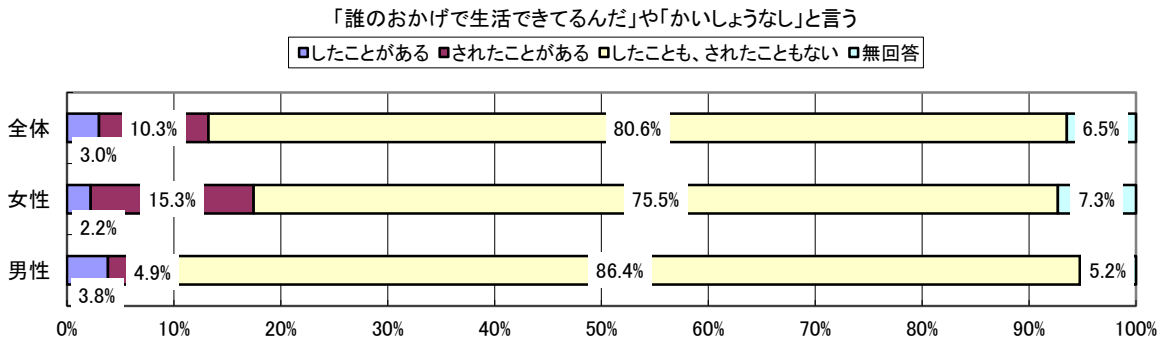
A～Lの12項目について暴力被害・加害経験の有無をたずねたところ、いずれの項目も「したこと、されたこともない」の割合が最も高い。

全体でみると、「したことがある」、「されたことがある」のどちらも最も割合が高いのは、「大声でどなる」、次いで「何をいっても無視して口をきかない」、「ドアをけったり、壁に物を投げたりしておどす」であった。

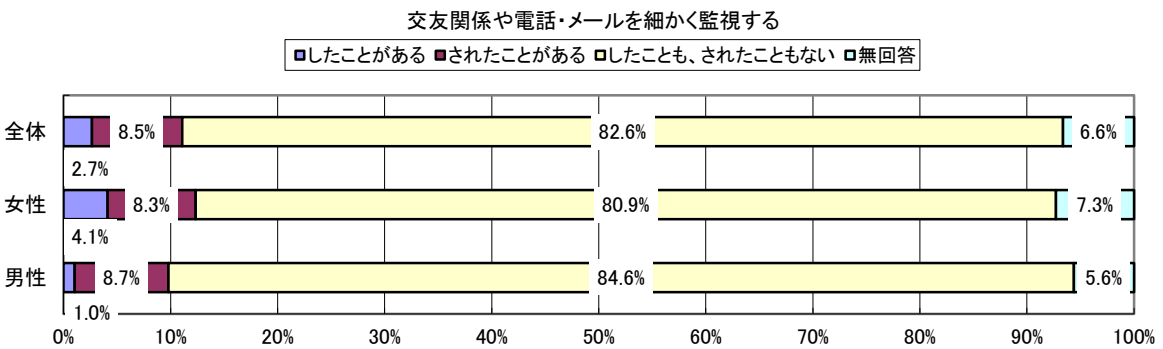
性別にみると、「したことがある」は男女ともに全体の上位3つと同様であった。「されたことがある」は、女性は全体と同様であったが、男性は3位に「交友関係や電話メールを細かく監視する」が加わった。

また、被害経験において「交友関係や電話・メールを細かく監視する」が男性が女性を上回ったのを除き、その他全ての項目で女性のほうが被害経験が多かった。「されたことがある」の男女差が最も大きかったのは、「大声でどなる」(22.6ポイント)で、次いで「ドアをけったり、壁に物を投げたりしておどす」(12.9ポイント)、「いやがっているのに性的な行為を強要する」(12.4ポイント)であった。

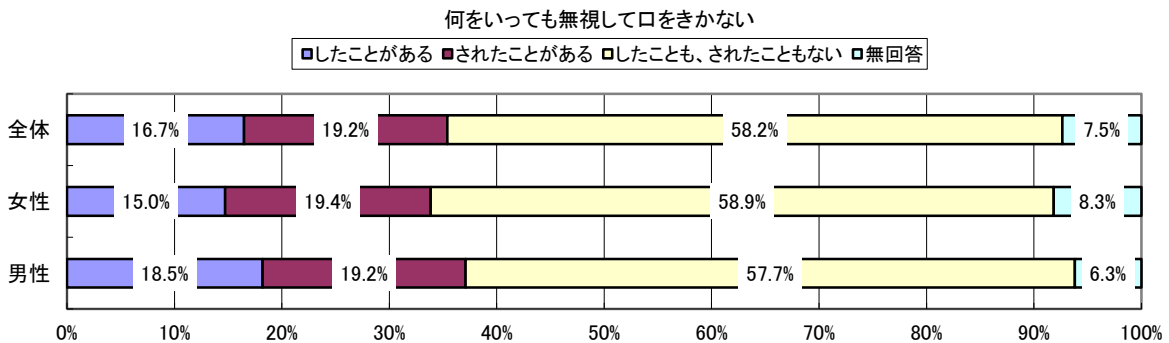
A



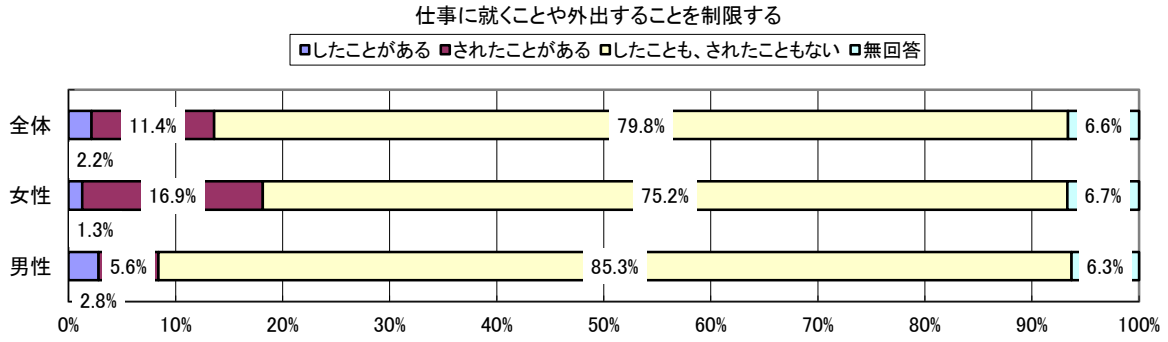
B



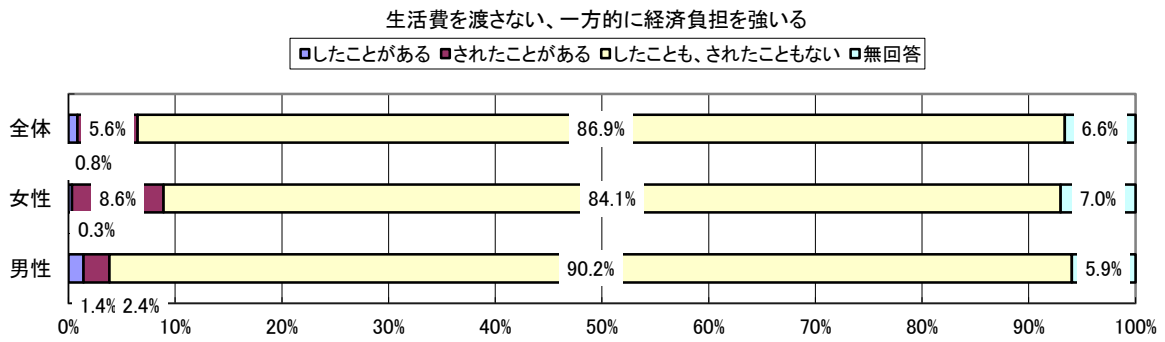
C



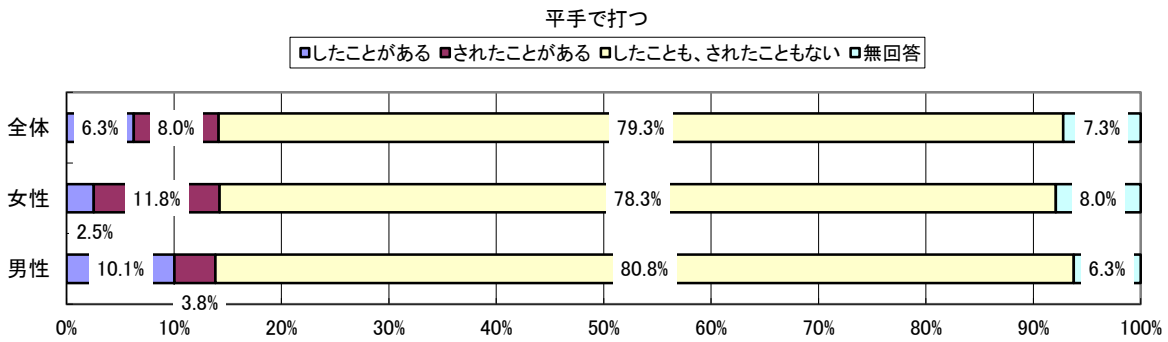
D



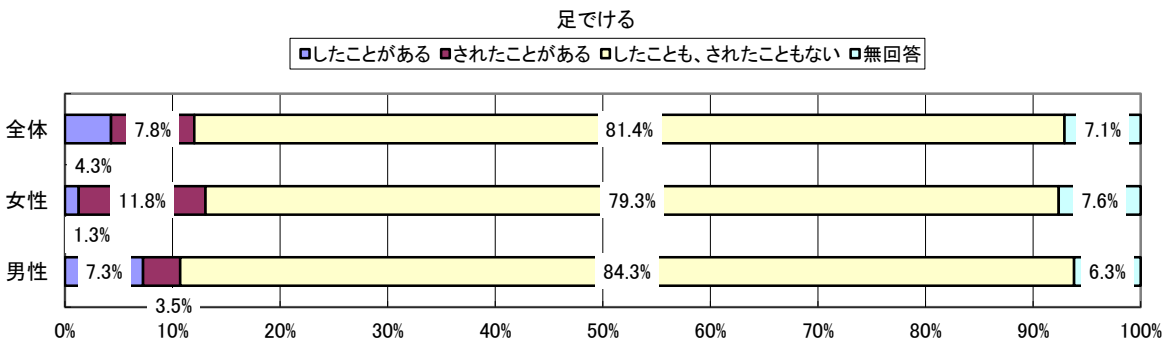
E



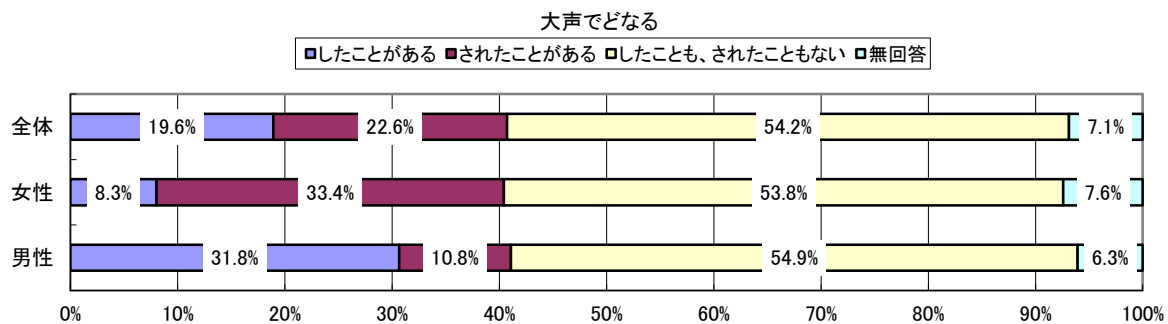
F



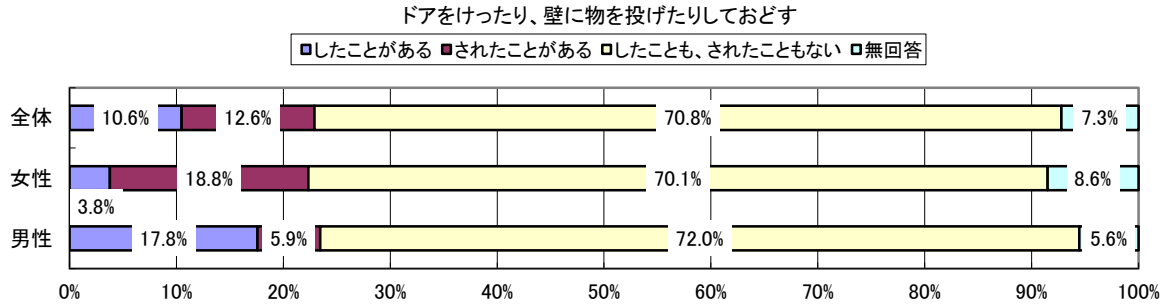
G



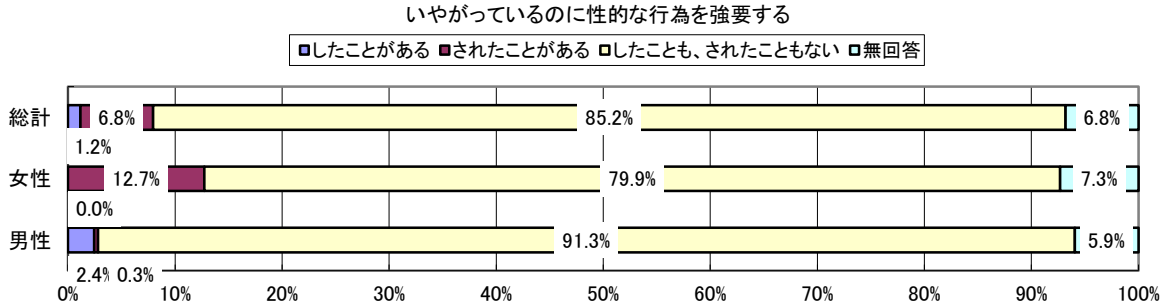
H



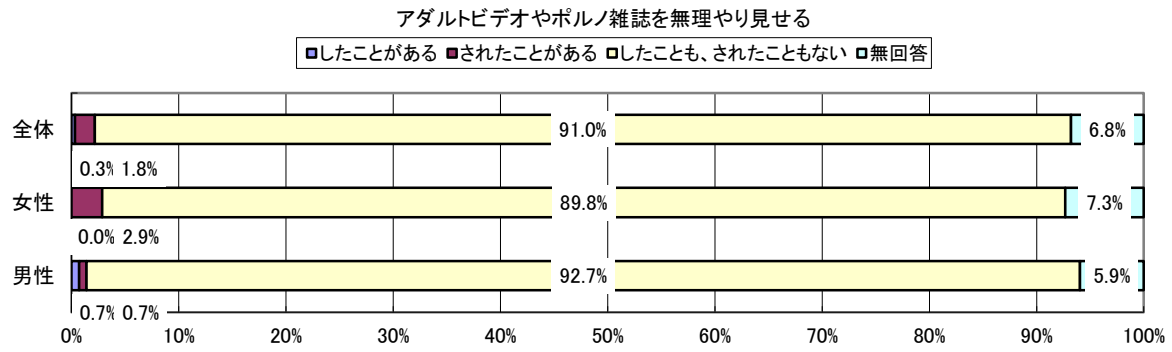
I



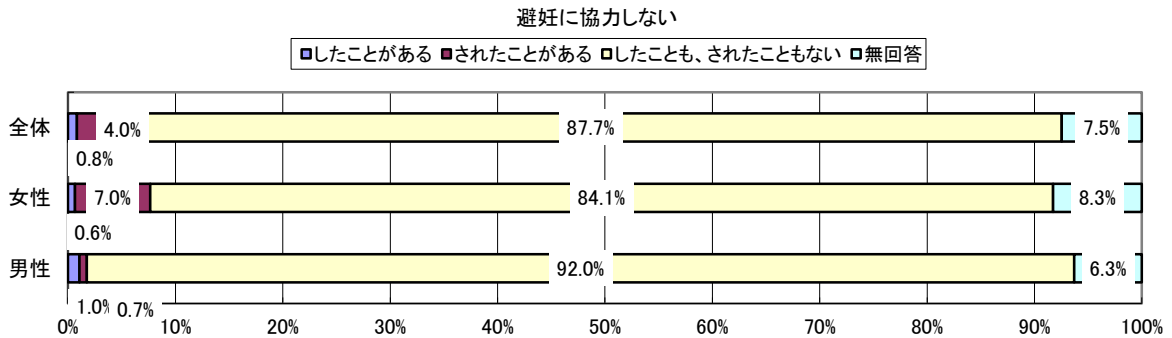
J



K



L



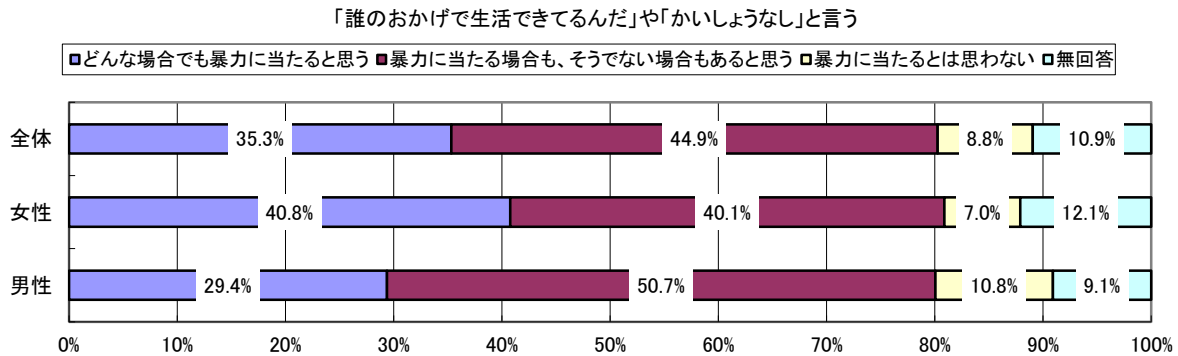
## 暴力に対する考え方

A～Lの12項目について暴力だと思うか尋ねたところ、「どんな場合でも暴力に当たると思う」の割合は、「足でける」(75.0%)が最も高く、次いで「平手で打つ」(69.8%)、「いやがっているのに性的な行為を強要する」(67.8%)、「ドアをけったり、壁に物を投げたりしておどす」(65.2%)が高い。

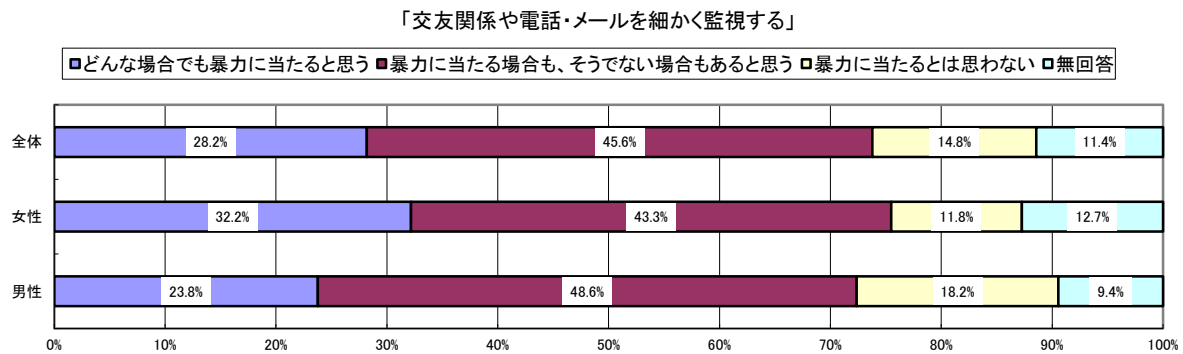
他方、「交友関係や電話・メールを細かく監視する」(28.2%)や「何をいっても無視して口をきかない」(27.2%)といった行為について「どんな場合も暴力に当たると思う」と回答した人は3割に満たない。

性別にみると、男女共に「どんな場合も暴力に当たると思う」の上位の項目は、全体と同様であった。男女の間で認識の差が大きかった項目は、『誰のおかげで生活できてるんだ』や『かいしようなし』と言う(11.4ポイント)、「生活費を渡さない、一方的に経済負担を強いる」(10.6ポイント)、「アダルトビデオやポルノ雑誌を無理やり見せる」(9.9ポイント)、「避妊に協力しない」(9.9ポイント)で、女性のほうが高い割合であった。「平手で打つ」、「足でける」は男女間で「どんな場合も暴力に当たると思う」の割合にあまり差がみられなかった。

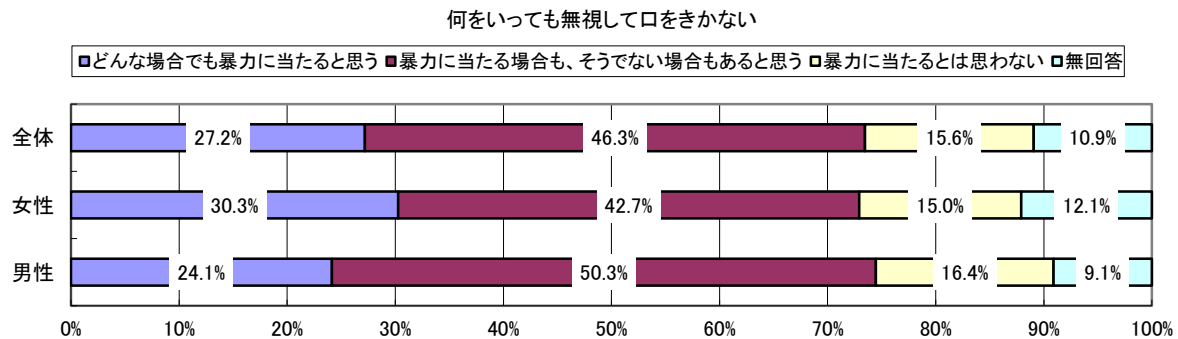
A



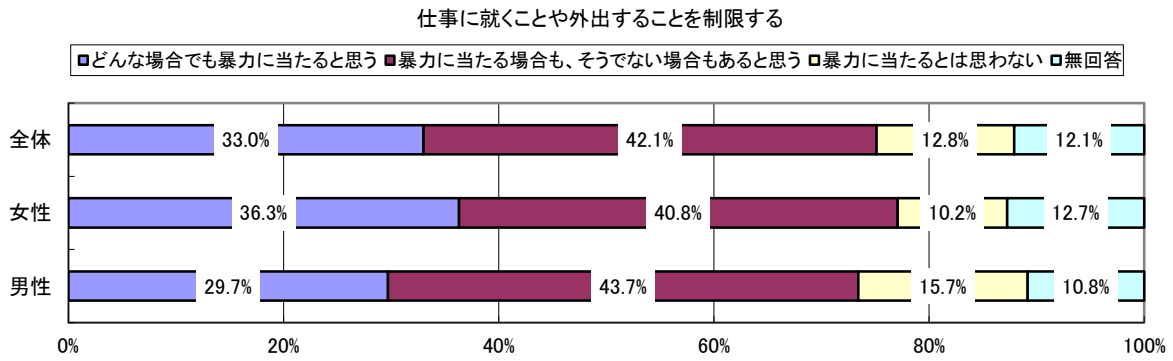
B



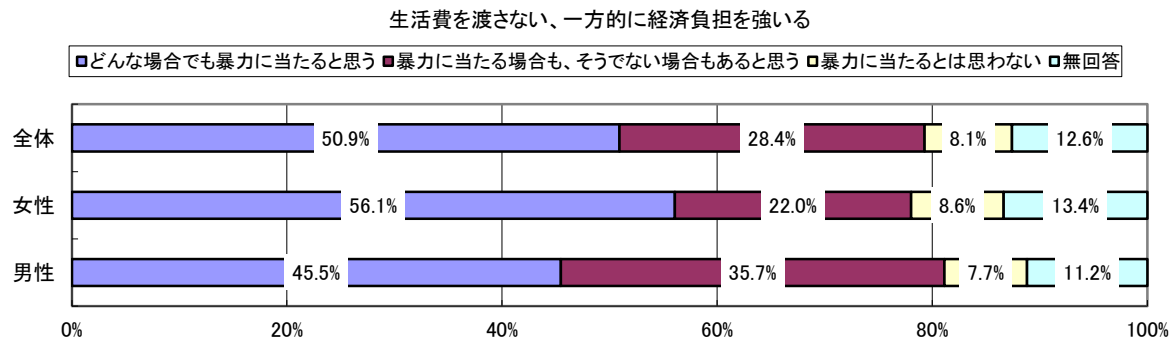
C



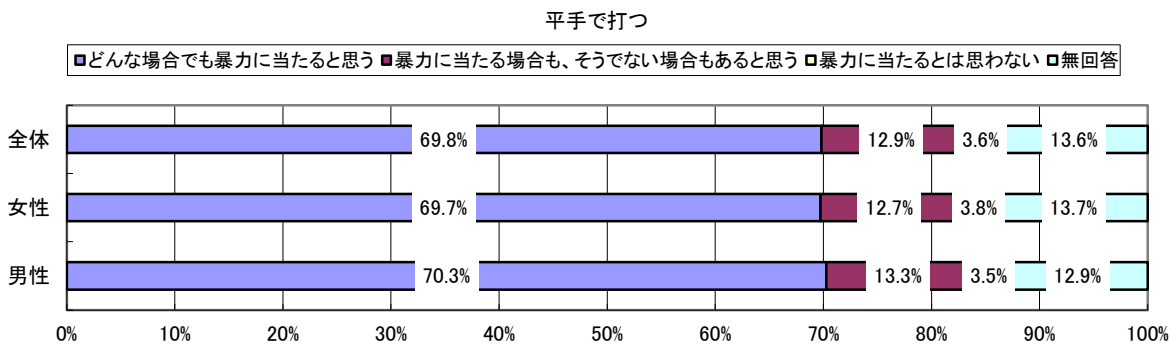
D



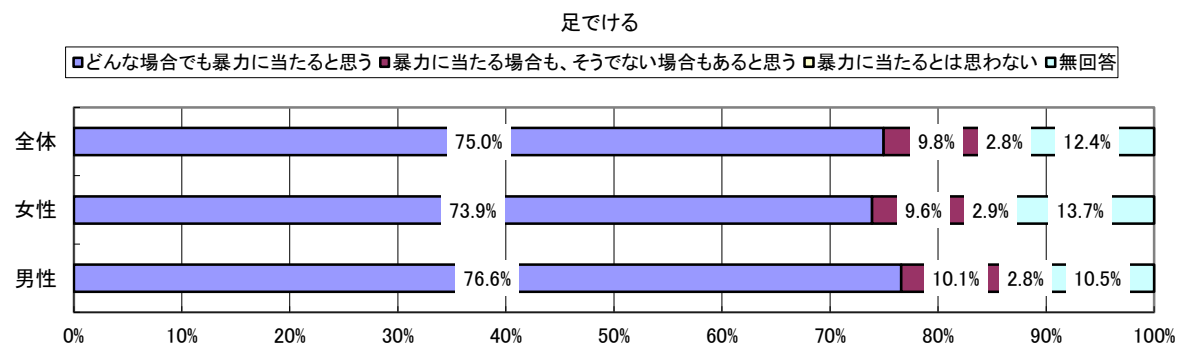
E



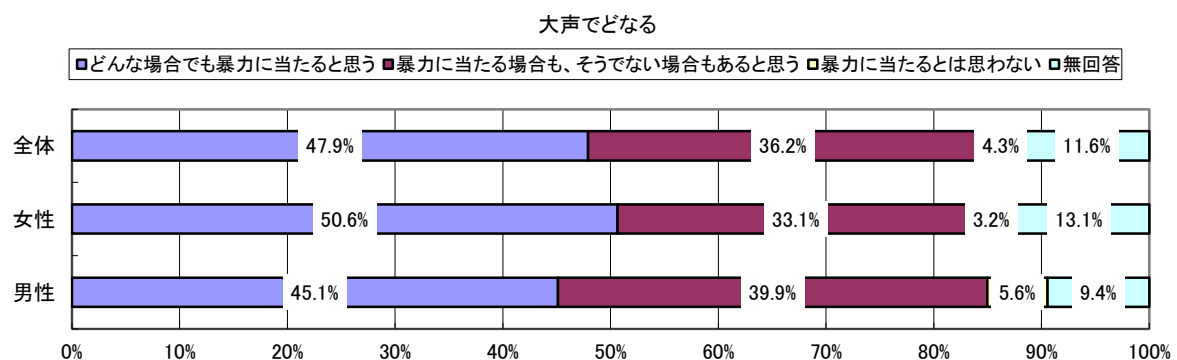
F



G

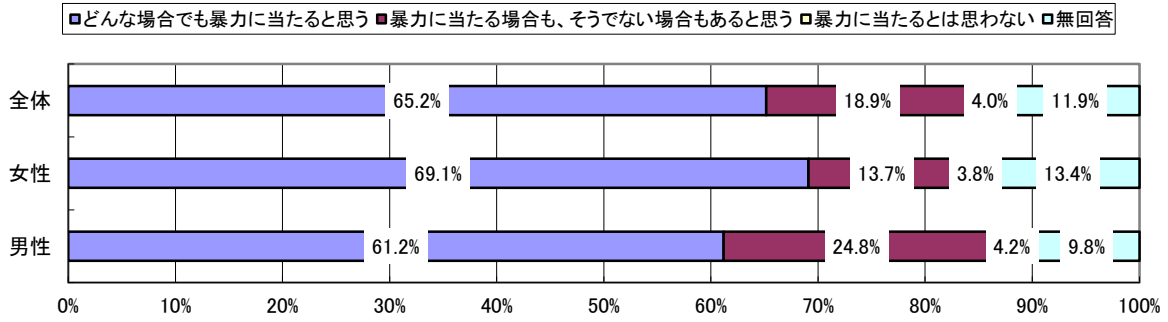


H



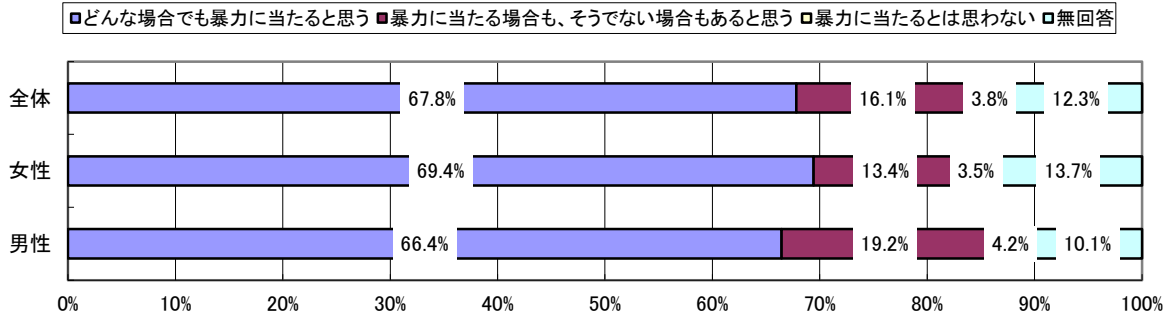
I

## ドアをけったり、壁に物を投げたりしておどす



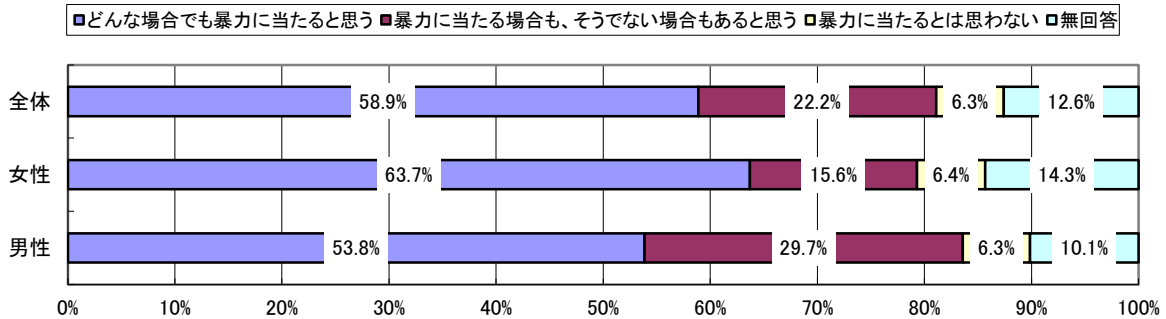
J

## いやがっているのに性的な行為を強要する



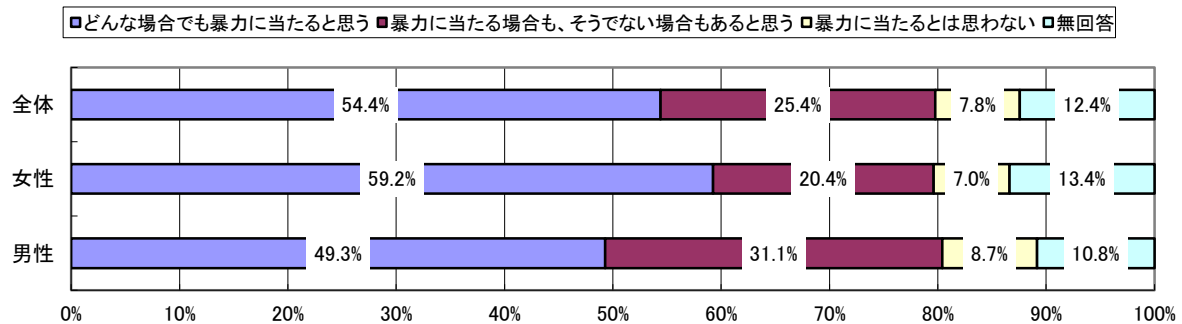
K

## アダルトビデオやポルノ雑誌を無理やり見せる



L

## 避妊に協力しない

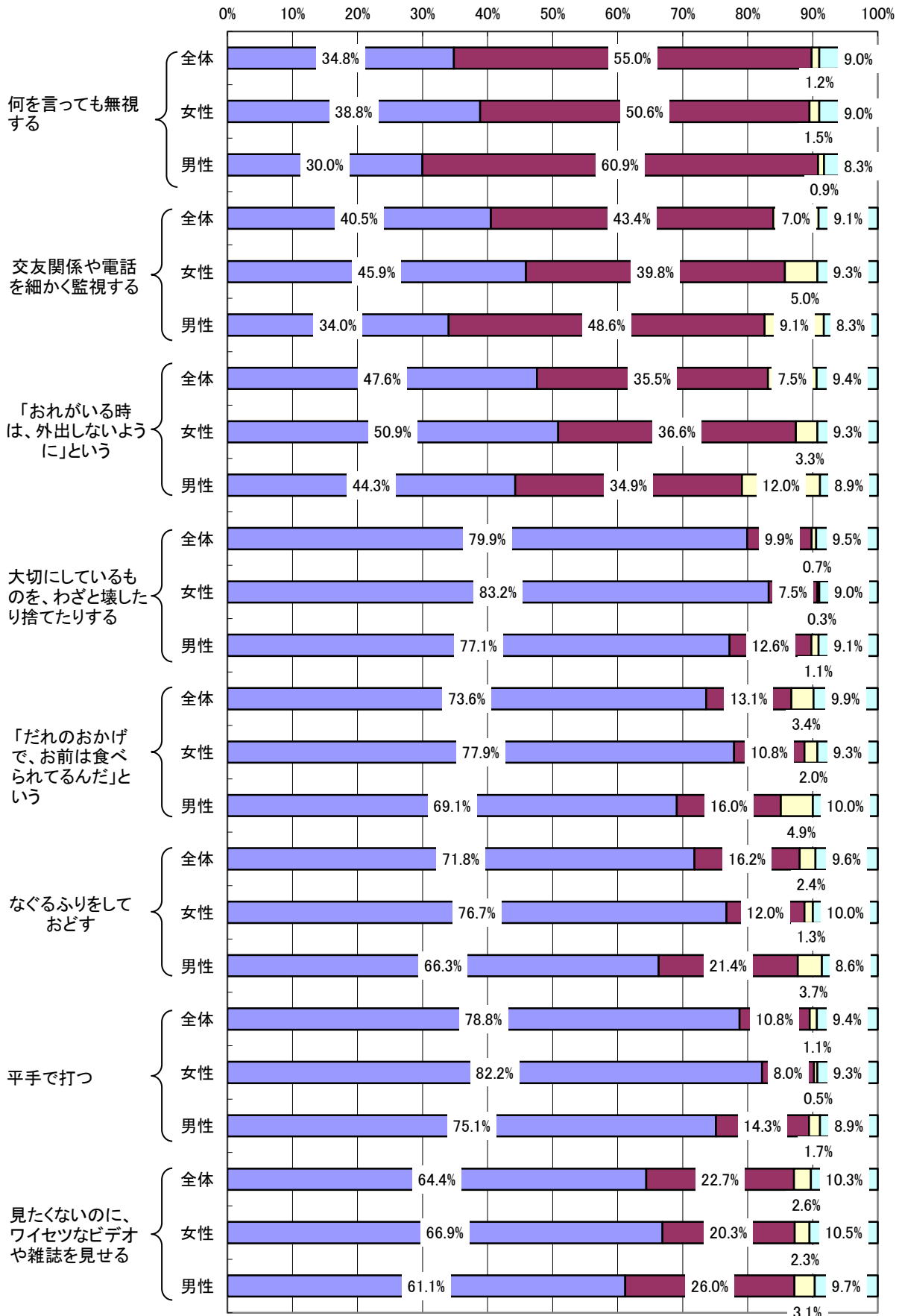


年代別にみると、「何をいっても無視して口をきかない」は、20代と70代で「暴力に当たるとは思わない」の割合が高くなっている。「仕事に就くことや外出することを制限する」では、10～30代で「どんな場合でも暴力に当たると思う」の割合が4割～5割と高いのに対し、40代以上では3割前後となっている。



問14 前回

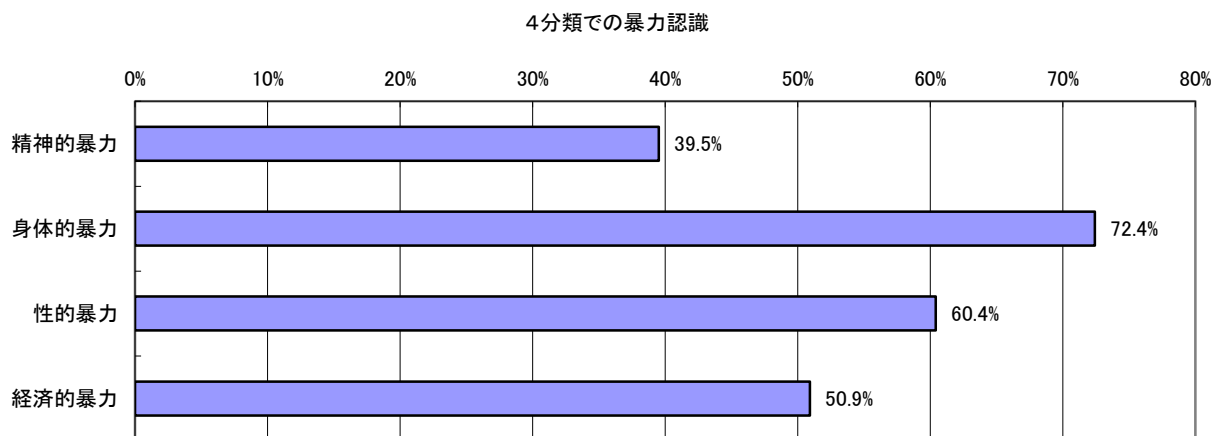
□どんなことがあっても許されない ■場合によっては許される □許される □不明・無回答



A～Lの12項目を、精神的暴力(A～D,H,I)、身体的暴力(F,G)、性的暴力(J～L)、経済的暴力

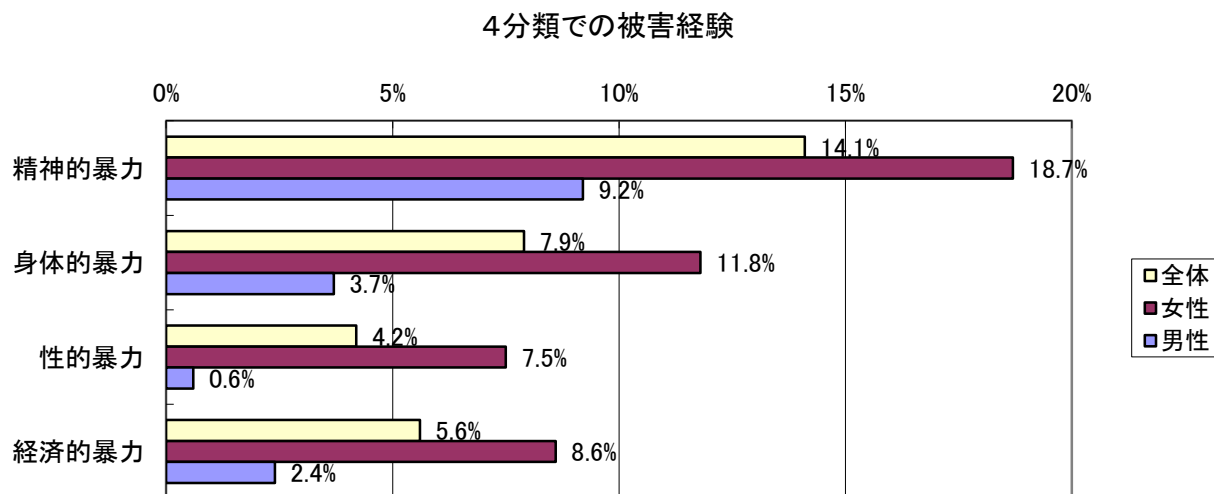
精神的暴力	A 「誰のおかげで生活できてるんだ」や「かいしようなし」と言う
	B 交友関係や電話・メールを細かく監視する
	C 何をいっても無視して口をきかない
	D 仕事に就くことや外出することを制限する
	H 大声でどなる
	I ドアをけったり、壁に物を投げたりしておどす
身体的暴力	F 平手で打つ
	G 足でける
性的暴力	J いやがっているのに性的な行為を強要する
	K アダルトビデオやポルノ雑誌を無理やり見せる
	L 避妊に協力しない
経済的暴力	E 生活費を渡さない、一方的に経済負担を強いる

今回 (「どんな場合でも暴力に当たると思う」)の割合の平均値)



4分類での暴力の認識を比較すると、身体的暴力の割合が72.4%で最も高く、次いで性的暴力(60.4%)、経済的暴力(50.9%)、精神的暴力(39.5%)の順となっている。精神的暴力が最も低くなっており、暴力として認識されにくい傾向が見られる。

今回 (「されたことがある」)の割合の平均値)



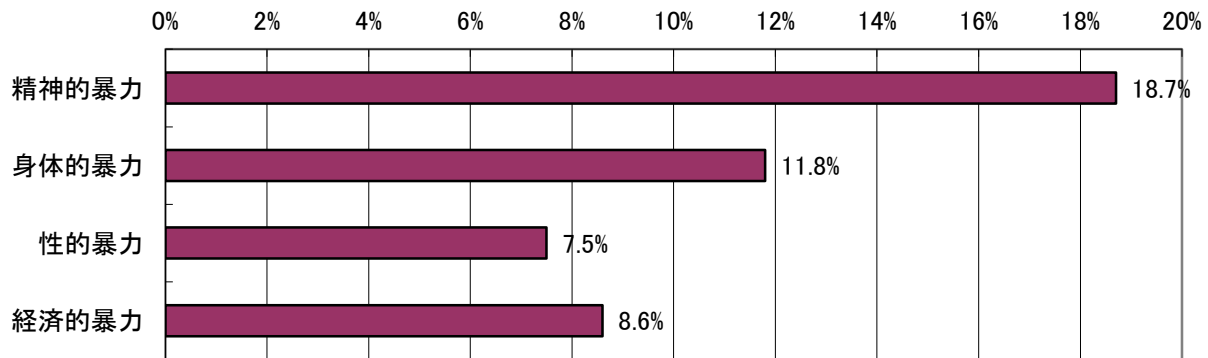
全体でみると、精神的暴力が14.1%と最も高く、次いで身体的暴力が7.9%、経済的暴力が5.6%、性的暴力が4.2%となっている。

性別でみると、いずれの項目も女性の方が大幅に高くなっている。

被害は精神的暴力が最も多いのにも関わらず、認識については精神的暴力は最も低い割合となっている。

今回 (女性のみ)

4分類での被害経験(女性のみ)

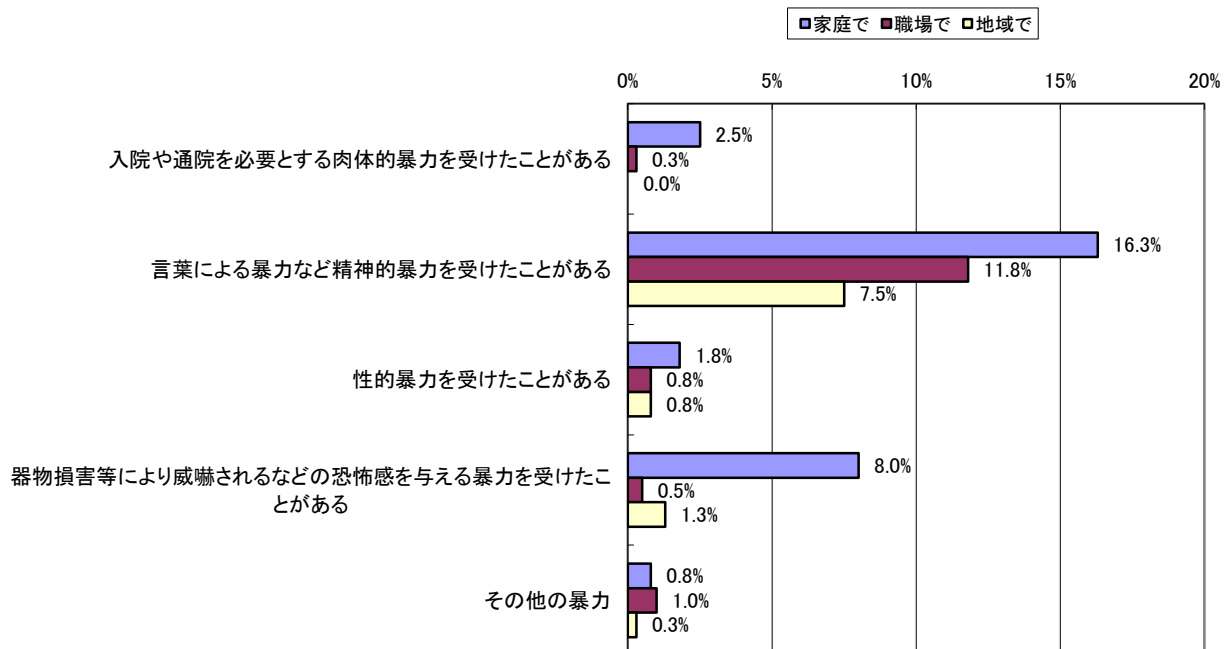


特に女性に着目すると、精神的暴力が18.7%と2割弱と高くなっており、次いで身体的暴力と続いている。

前回

(女性の方におたずねします。家庭、職場、地域での夫や男性からの暴力について、項目ごとにあてはまるものをすべて選んで枠内に○をつけてください。)

夫や男性からの暴力(女性のみ回答)



「精神的暴力」を「家庭で」受けた女性の割合が最も高く16.3%となっている。「その他の暴力」を除いて、すべての暴力が「家庭で」最も高い割合で起きている。

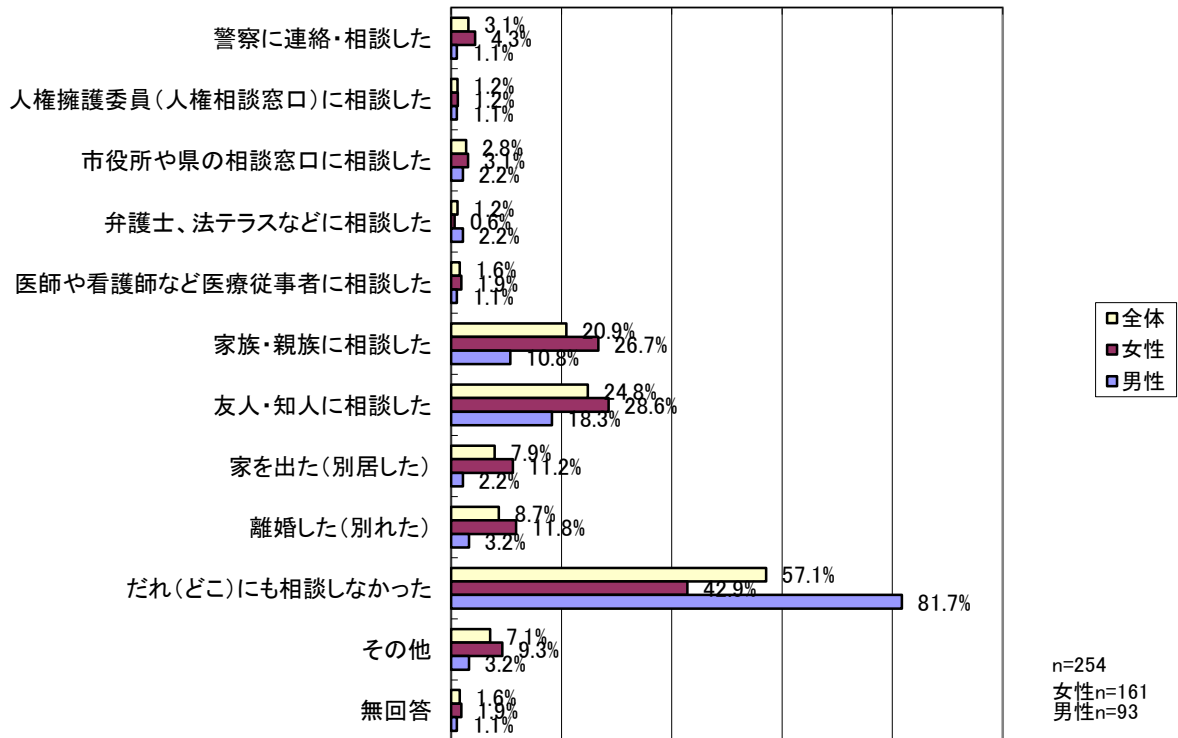
※ 不明・無回答はグラフから除外した

前回調査と今回調査の「女性の被害経験」を比較すると、どちらも精神的暴力が最も高い割合となっている(前回は場所別になっているが、今回が「配偶者や恋人など親しい関係にある人」と限定しているため、「家庭で」の割合に着目する)。前回調査は次いで「器物損害等により威嚇されるなどの恐怖感を与える暴力を受けたことがある」(8.0%)と、精神的暴力と身体的暴力が混交した暴力が高い割合となっている。

問14の「暴力被害・加害の有無」でA～Lの項目のうちひとつでも「されたことがある」と回答された方におたずねします。

### 問14 暴力被害にあった時の相談先

副1 あなたはこれまで問14のような行為を受けたとき、どのように対応しましたか。すべて選んで○をつけてください。



問14の『暴力被害・加害の有無』で、A～Lの項目のうちひとつでも「されたことがある」と回答した人の暴力被害にあったときの対処法をたずねたところ、「だれ(どこ)にも相談しなかった」が57.1%と半数を超えていた。次いで、「友人・知人に相談した」(24.8%)、「家族・親族に相談した」(20.9%)が高くなっている。

性別にみると、男性では約8割が「だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答し、女性は「家族・親族に相談した」、「友人・知人に相談した」が男性よりも高い割合となっている。外部機関に相談した割合は男女共に極めて低い。

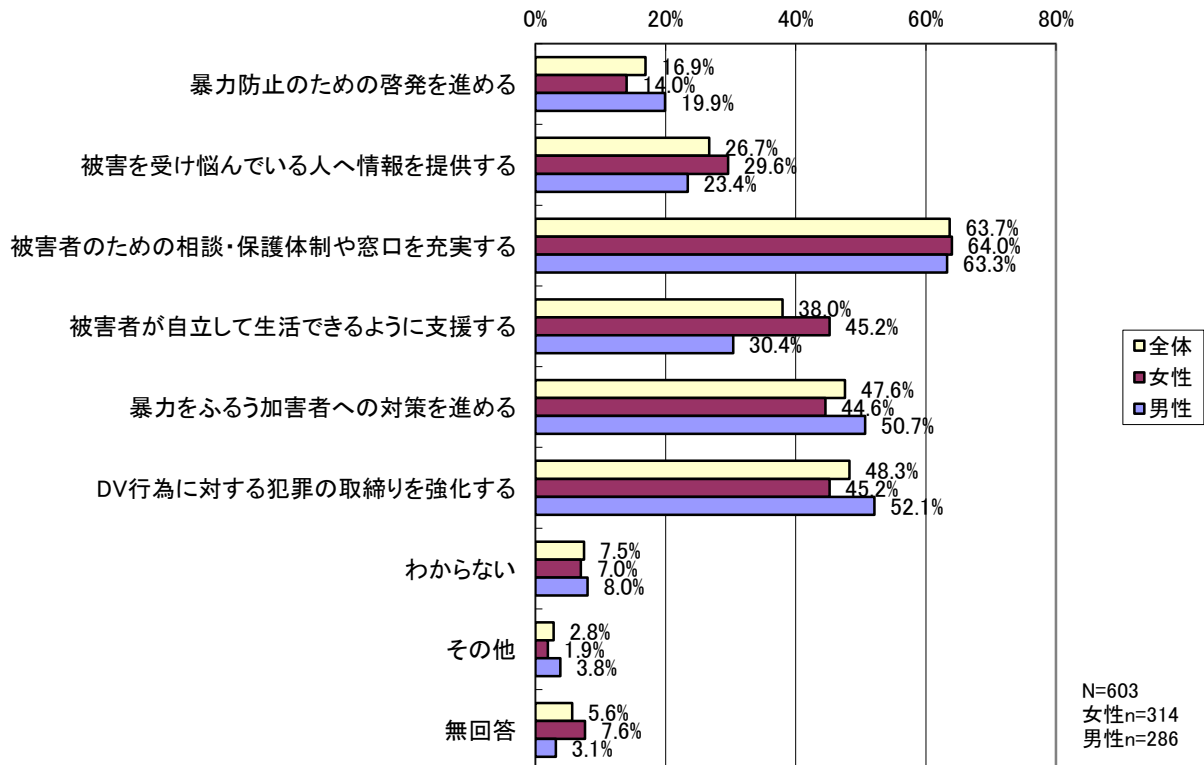
### 配偶関係別

	警察に連絡・相談した	人権擁護委員(人権相談窓口)に相談した	市役所や県の相談窓口に相談した	弁護士、法テラスなどに相談した	医師や看護師など医療従事者に相談した	家族・親族に相談した	友人・知人に相談した	家を出た(別居した)	離婚した(別れた)	だれ(どこ)にも相談しなかった	その他	無回答
未婚	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	21.6%	35.1%	5.4%	10.8%	54.1%	0.0%	10.8%
結婚している(配偶者がいる)	3.4%	0.6%	1.1%	0.0%	1.1%	15.3%	19.3%	7.4%	2.8%	51.1%	7.4%	13.1%
配偶者と死別した	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	6.7%	6.7%	0.0%	40.0%	6.7%	26.7%
配偶者と離別した	3.8%	3.8%	7.7%	7.7%	0.0%	46.2%	46.2%	15.4%	50.0%	19.2%	7.7%	15.4%

配偶関係別にみると、未婚者の方が既婚者よりも相談している割合が高くなっている。

## 問15 DV(ドメスティック・バイオレンス)防止のための取り組み

問15 DV(ドメスティック・バイオレンス)防止のために、どのようなことを優先的に取り組むべきだと思いますか。優先度が高いと思うものから3つまで選んで○をつけてください。



DV(ドメスティック・バイオレンス)防止のために、どのようなことを優先的に取り組むべきだと思うかたずねたところ、男女共に「被害者のための相談・保護体制や窓口を充実する」が63.7%と最も高く、次いで「DV行為に対する犯罪の取締りを強化する」が48.3%、「暴力をふるう加害者への対策を進める」が47.6%となっている。

性別にみると、「被害を受け悩んでいる人への情報を提供する」、「被害者が自立して生活できるように支援する」では女性の方が男性よりも5.0ポイント以上高く、「暴力防止のための啓発を進める」、「暴力をふるう加害者への対策を進める」、「DV行為に対する犯罪の取締りを強化する」では男性のほうが女性よりも5.0ポイント高くなっている。

問16 セクハラに対する考え方

職場や学校、地域活動の場で次のようなことをした、またはされたことがありますか。また、それぞれについて、あなたは、それはセクハラだと思いますか。A~Kの項目ごとに「セクハラ被害・加害の有無」、「セクハラの認識」について、1つずつ選んで○をつけてください。

セクハラ被害・加害経験の有無

A~Kの11項目についてセクハラ被害・加害経験の有無をたずねたところ、いずれの項目も「したことも、されたこともない」の割合が最も高い。

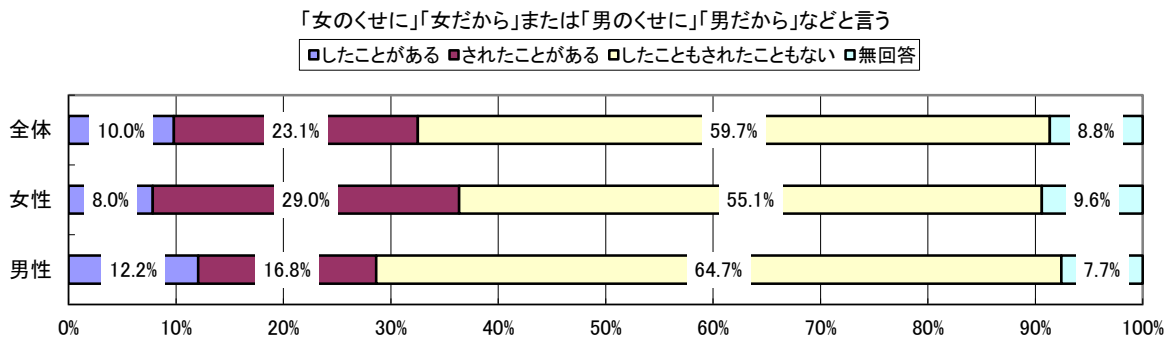
全体で見ると、「したことがある」で最も高い割合だった項目は、「容姿や年齢について話題にする」(17.2%)で、次いで「『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言う」(10.0%)、「性的な話や冗談を聞かせる」(9.8%)となっている。「されたことがある」で最も高い割合だった項目は、「容姿や年齢について話題にする」(26.2%)で、次いで「性的な話や冗談を聞かせる」(24.7%)、「『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言う」(23.1%)、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」(23.7%)となっている。

性別にみると、「したことがある」では、A~Kのすべての項目において男性のほうが高い割合となっている。逆に、「されたことがある」では、A~Kのすべての項目において女性の方が高い割合となっている。

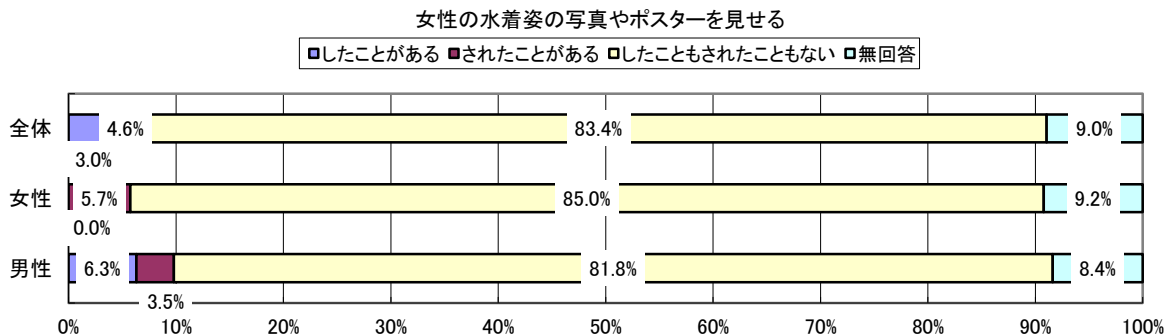
加害経験について上位3つを性別にみると、女性は「容姿や年齢について話題にする」(8.6%)、「『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言う」(8.0%)、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」・「性的な話や冗談を聞かせる」(1.6%)の順、男性は「容姿や年齢について話題にする」(26.2%)、「性的な話や冗談を聞かせる」(18.5%)、「『女のくせに』『女だから』または『男のくせに』『男だから』などと言う」(12.2%)の順となっている。

被害経験について上位3つを性別にみると、女性は「容姿や年齢について話題にする」(40.1%)、「性的な話や冗談について話題にする」(37.6%)、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」(36.3%)の順、男性は「『女のくせに』『女だから』または『男子のくせに』『男だから』などと言う」(16.8%)、「容姿や年齢について話題にする」(11.2%)、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」(10.1%)の順となっている。

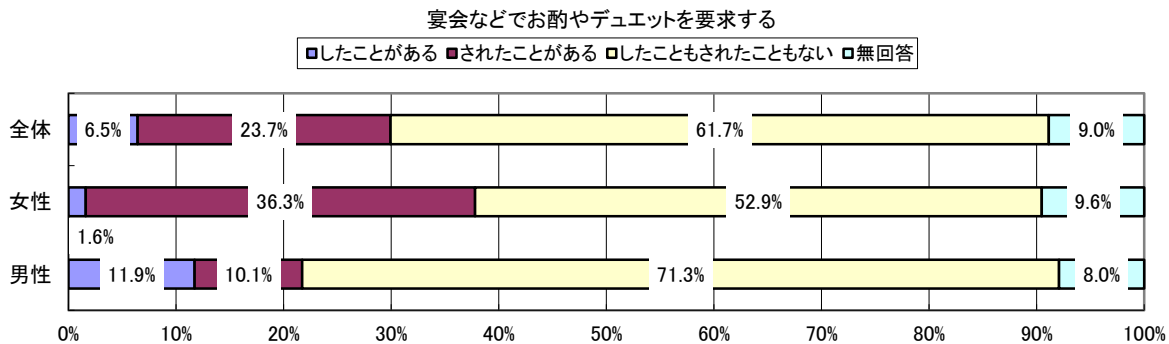
A



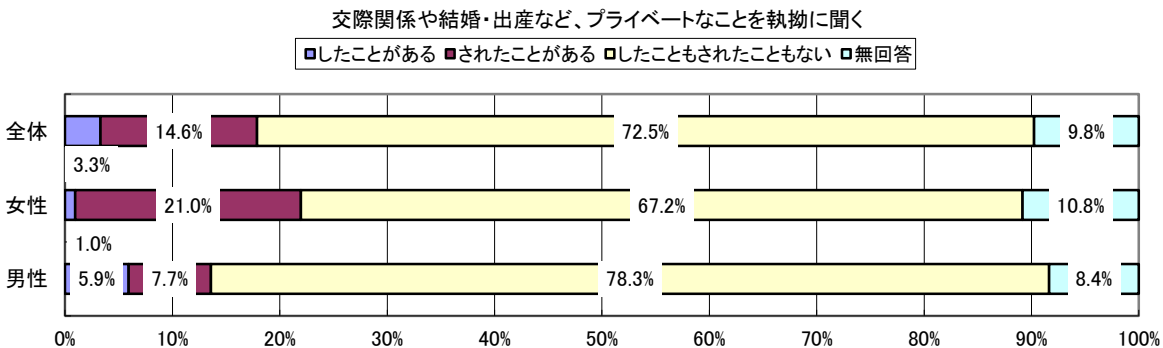
B



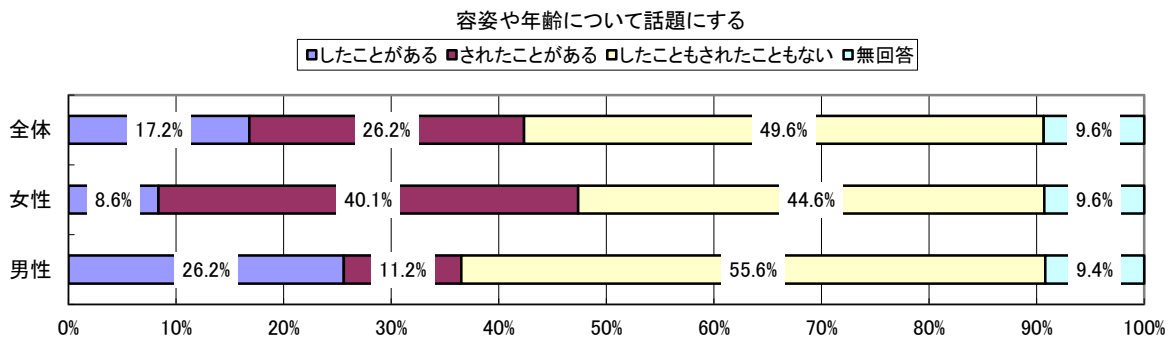
C



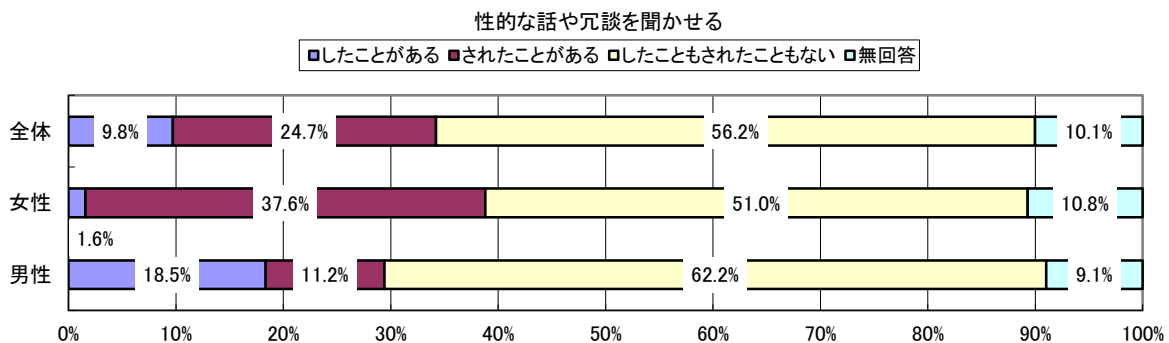
D



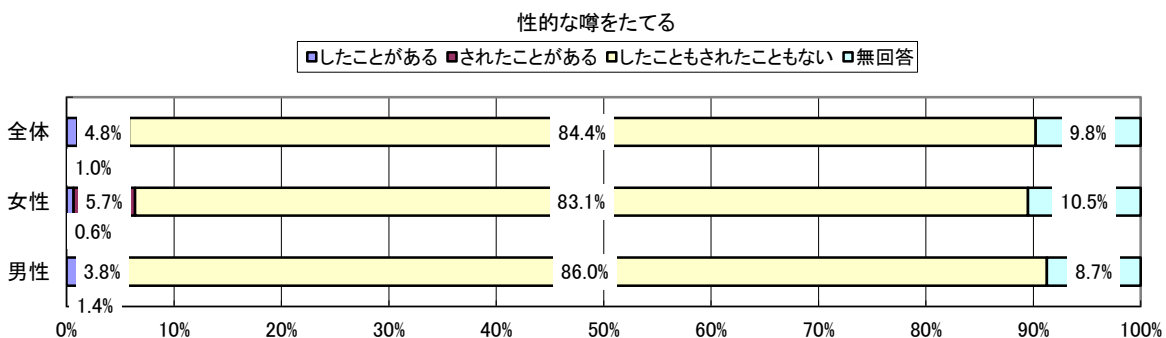
E



F

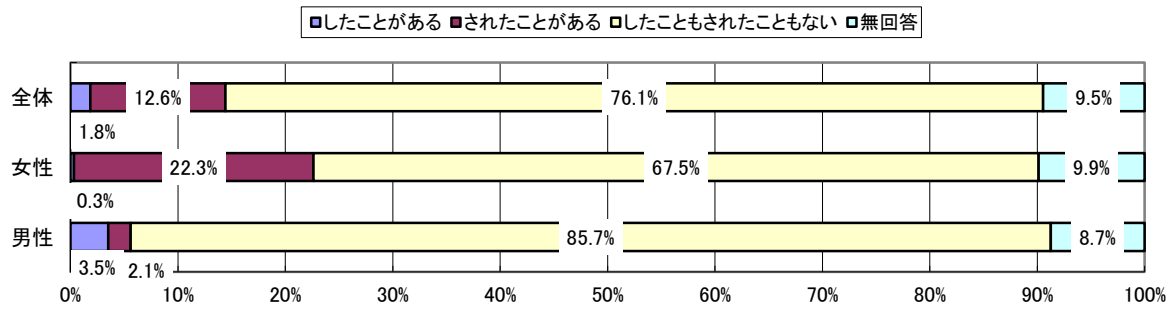


G



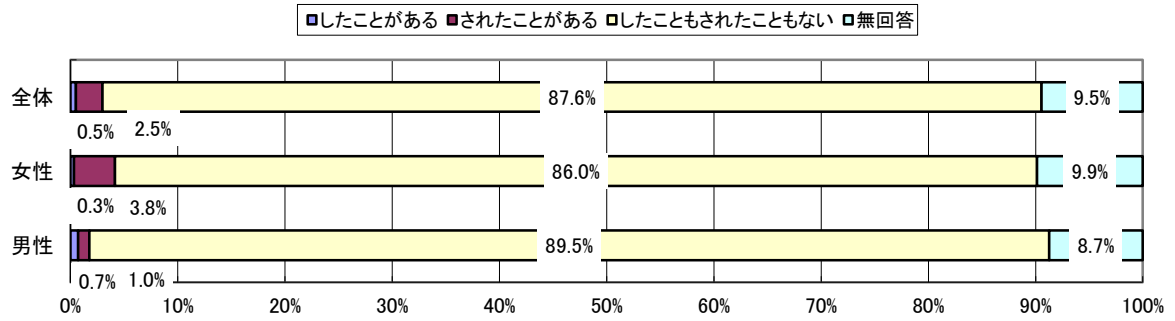
H

不必要に身体をさわる



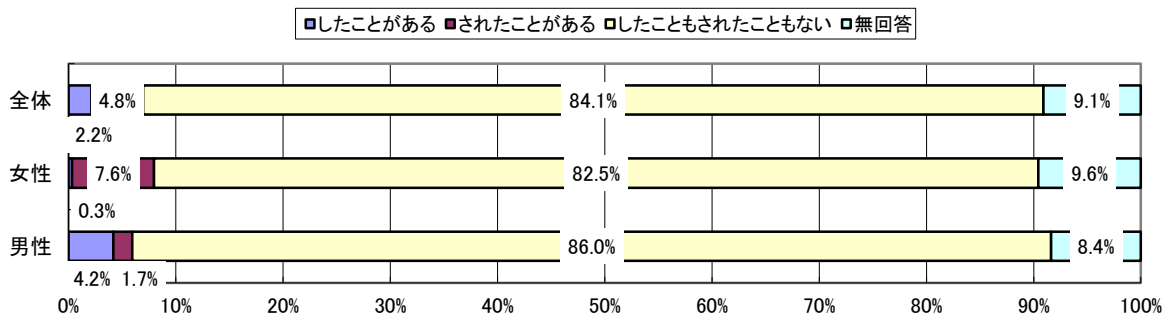
I

性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけた



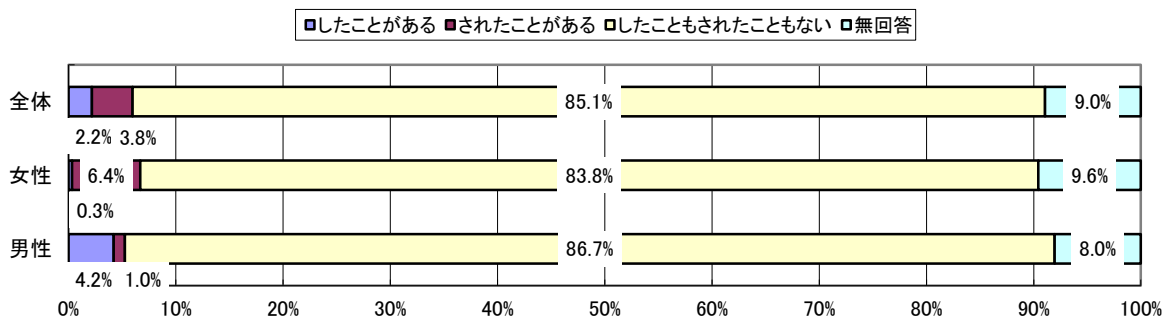
J

交際をせまる



K

性的な関係をせまる





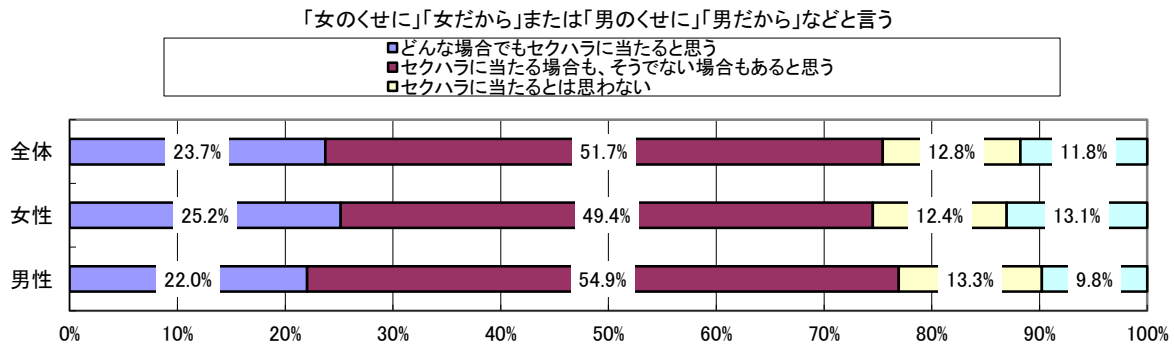
## セクハラに対する考え方

A～Kの11項目についてセクハラだと思うかたずねたところ、「どんな場合でもセクハラに当たると思う」の割合は、「性的な内容の手紙やメールを送ったり、電話をかけたりする」(68.5%)が最も高く、次いで「性的な関係をせまる」(68.0%)、「不必要に身体をさわる」(67.5%)が高くなっている。

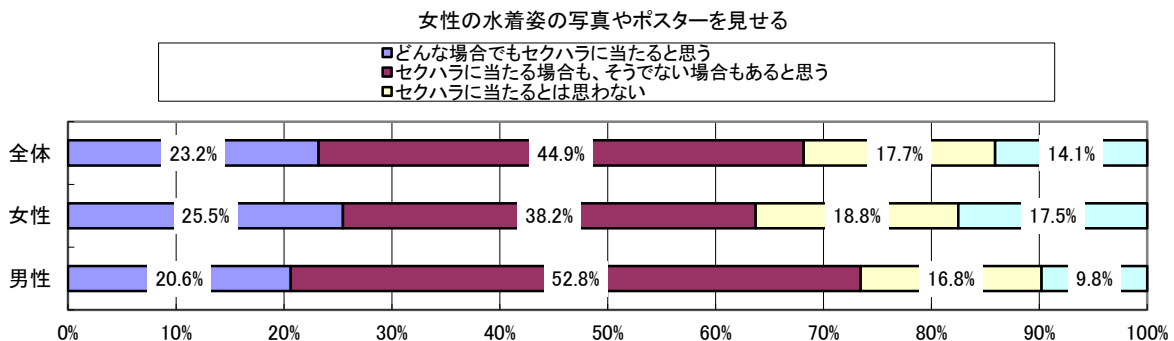
他方、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」(18.2%)や「容姿や年齢について話題にする」(18.4%)といった行為について「どんな場合も暴力に当たると思う」と回答した人は2割に満たない。

性別にみると、男女の上位の項目は、全体と同様であった。男女の間で認識の差が大きかった項目は、「性的な話や冗談を聞かせる」(7.6ポイント)、「性的な関係をせまる」(5.3ポイント)、「女性の水着姿の写真やポスターを見せる」(4.9ポイント)で、女性のほうが「どんな場合でもセクハラに当たると思う」の割合が高かった。逆に、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」、「交際関係や結婚・出産など、プライベートな事を執拗に聞く」は男性のほうが「どんな場合でもセクハラに当たると思う」と回答した割合が高かった。

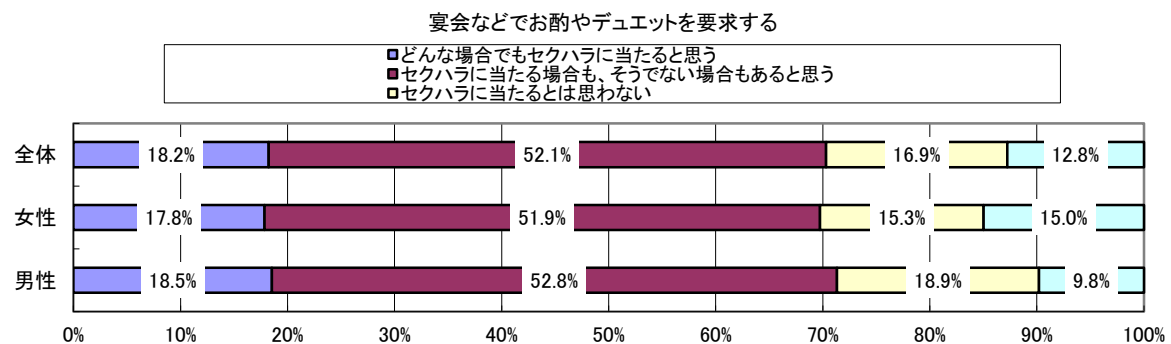
A



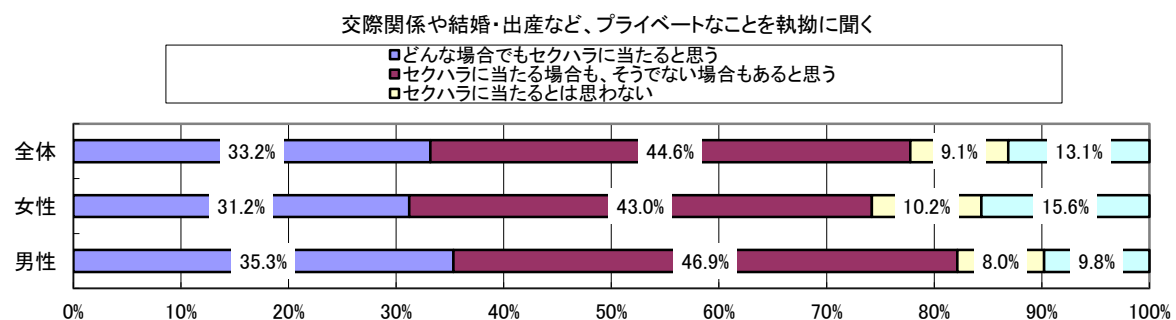
B



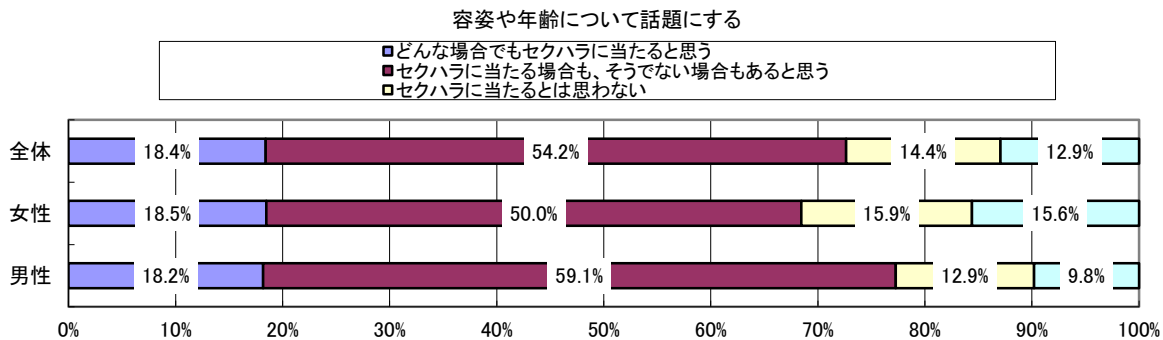
C



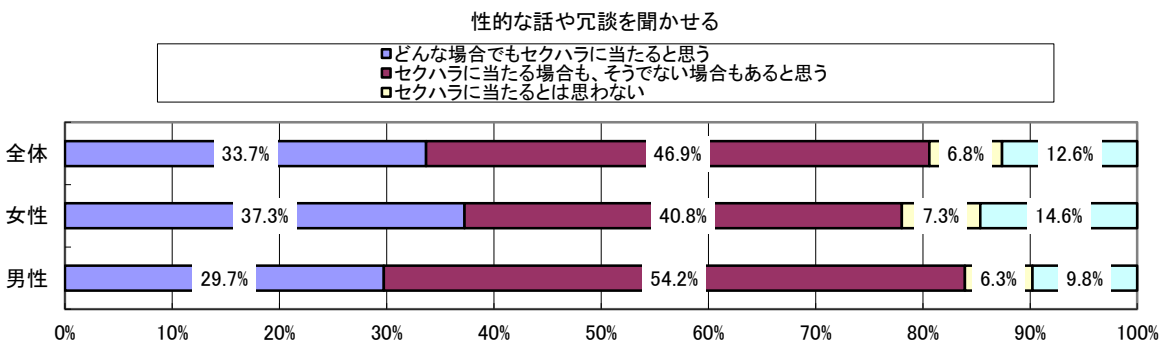
D



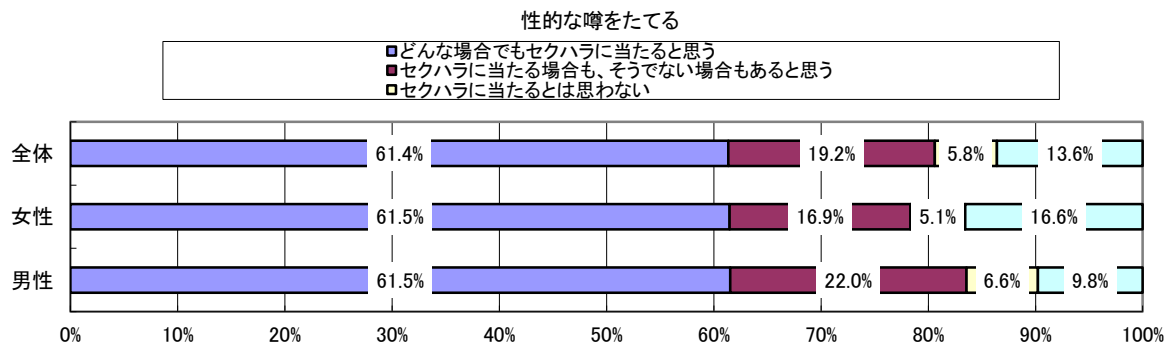
E



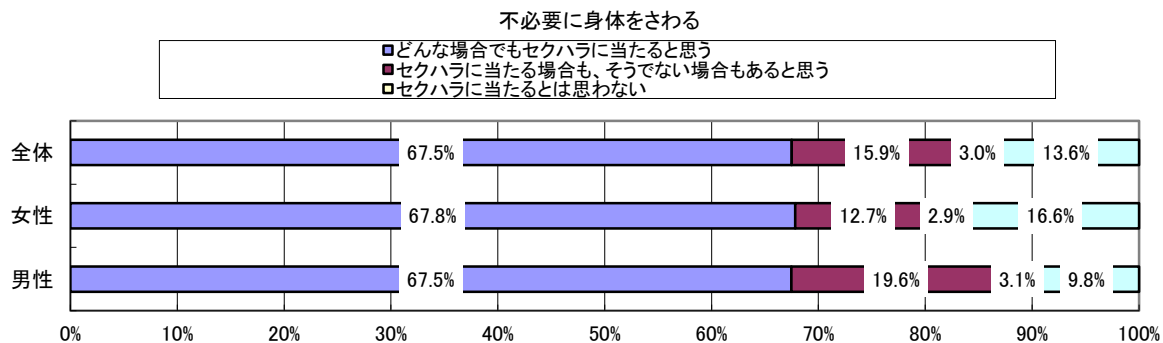
F



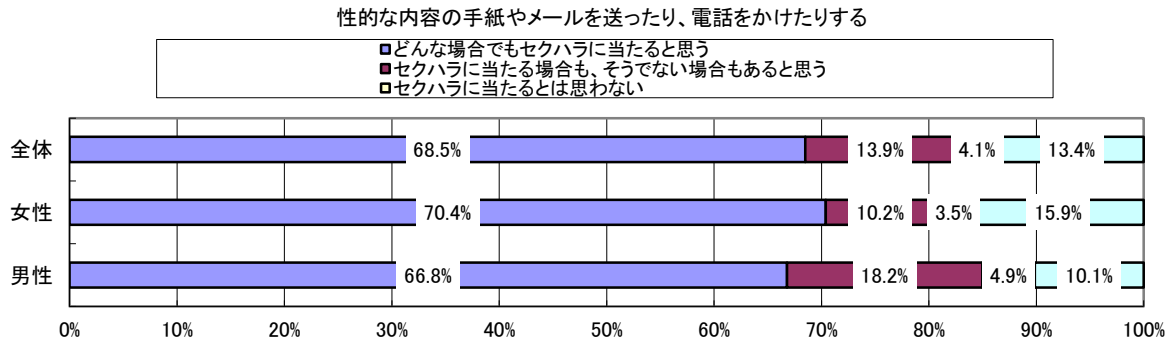
G



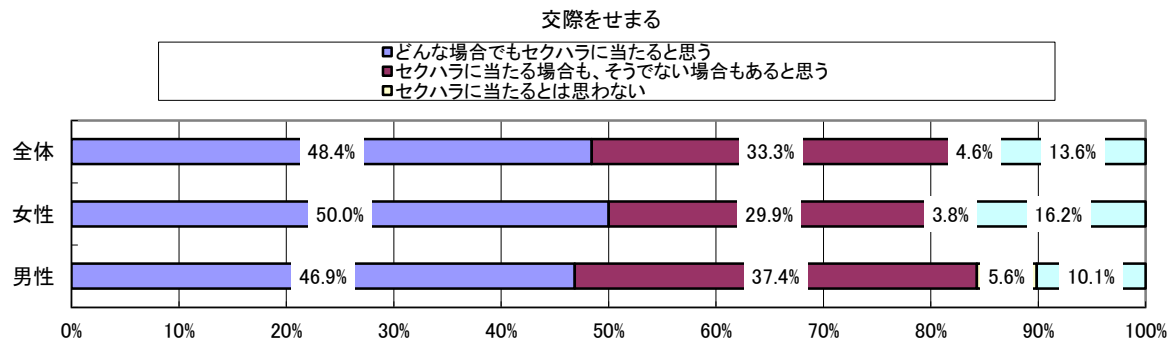
H



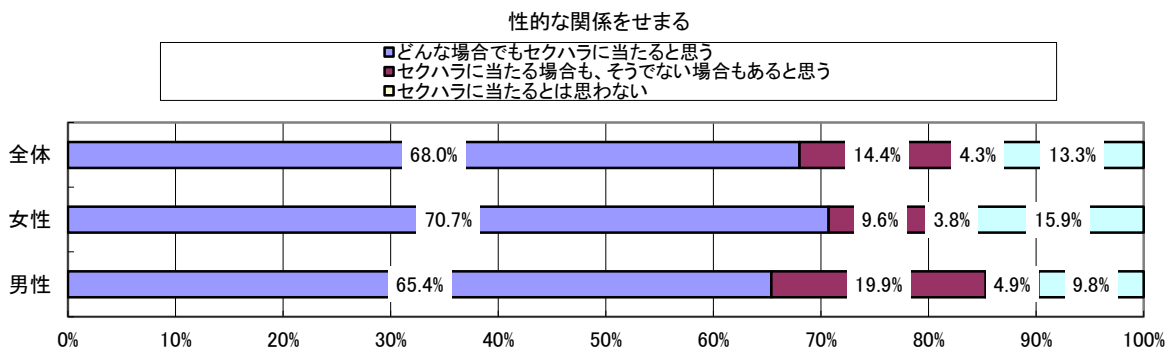
I



J



K



年代・性別にみると、被害経験については、40代女性が比較的高い割合となっている。特に、「宴会などでお酌やデュエットを要求する」では40代女性の半数以上が被害経験があったことになる。「容姿や年齢について話題にする」では30代の6割、「性的な話や冗談を聞かせる」では30、40代の半数が被害経験がある。

加害経験については、30代男性が比較的高い割合となっている。「容姿や年齢について話題にする」、「性的な話や冗談を聞かせる」では、30代男性の約半数が加害経験があることになる。

# 家庭生活について

## 問17 結婚観

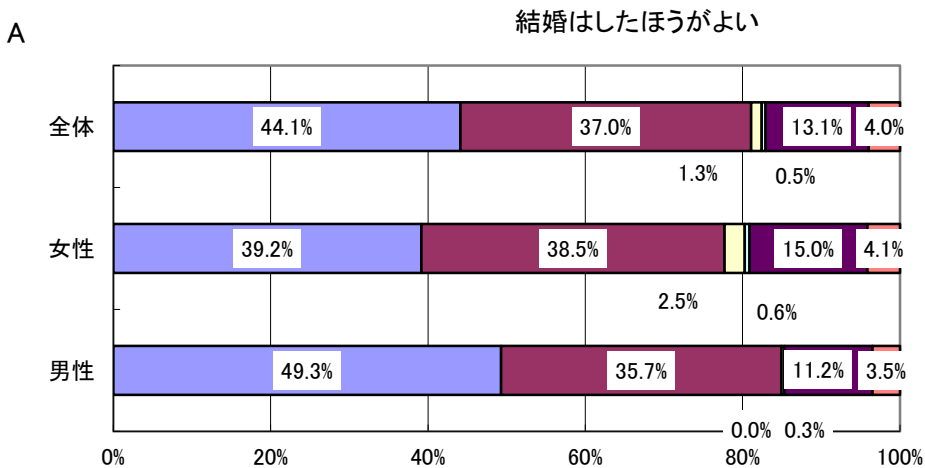
あなたは、結婚についてどのような考え方をもちですか。A～Fの項目ごとに1つずつ選んで○をつけてください。

肯定派(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)と否定派(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)の2つに区分して比較した。

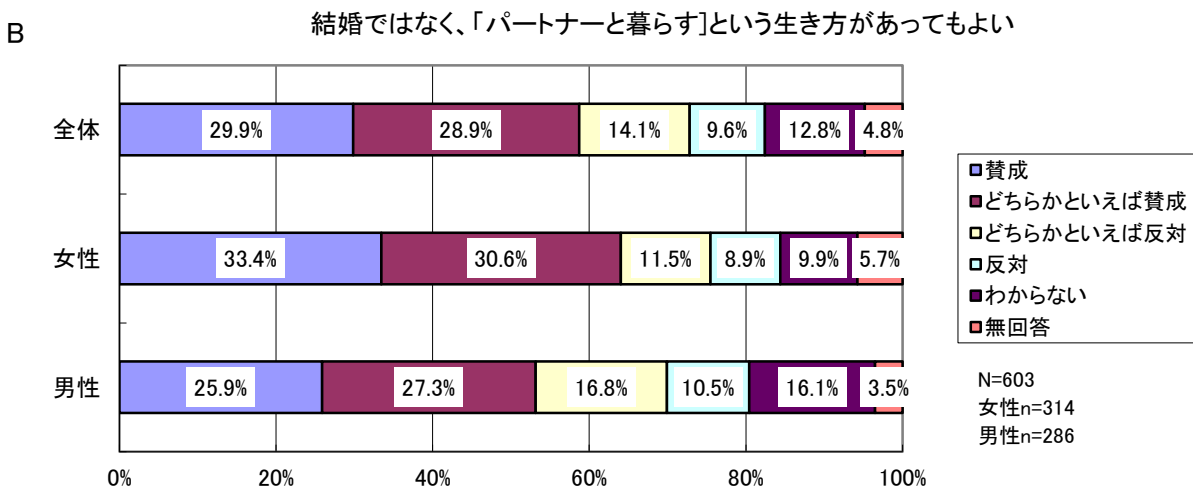
「結婚はしたほうがよい」(肯定派81.1%、否定派1.8%)、「結婚ではなく、『パートナーと暮らす』という生き方があってもよい」(肯定派58.8%、否定派23.7%)、「結婚したら、夫の姓を名乗るほうがよい」(肯定派48.6%、否定派10.6%)、「夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚すべきである」(肯定派41.5%、否定派21.3%)の4項目では、肯定派が否定派を大きく上回っている。ただし、「結婚したら、夫の姓を名乗るほうがよい」と「夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚すべきである」の2項目では、「わからない」と回答した割合がそれぞれ36.5%、32.8%と高くなっている。

「結婚しないで、『子どもを育てる』という生き方があってもよい」(肯定派35.9%、否定派40.5%)では、否定派が肯定派を上回っている。また、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」(肯定派37.5%、否定派35.0%)は、賛成派が若干上回っているものの、ほぼ拮抗している。

性別で見ると、「結婚はしたほうがよい」では男性の肯定派が女性の肯定派を7.3ポイント上回っており、「結婚ではなく、『パートナーと暮らす』という生き方があってもよい」10.8ポイント、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」6.2ポイント、「結婚をしないで、『子どもを育てる』という生き方があってもよい」7.1ポイント、女性の肯定派が男性の肯定派を大きく上回っている。



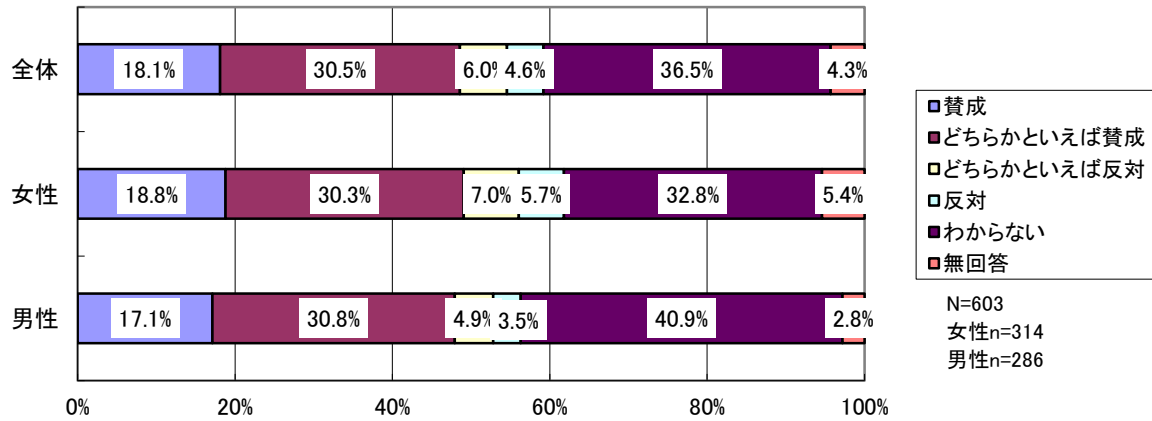
男女共に賛成が最も高くなった。男性では賛成派(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が8割を超えた。



賛成派が約6割となっている。女性のほうが賛成派が10.8ポイント高い。

C

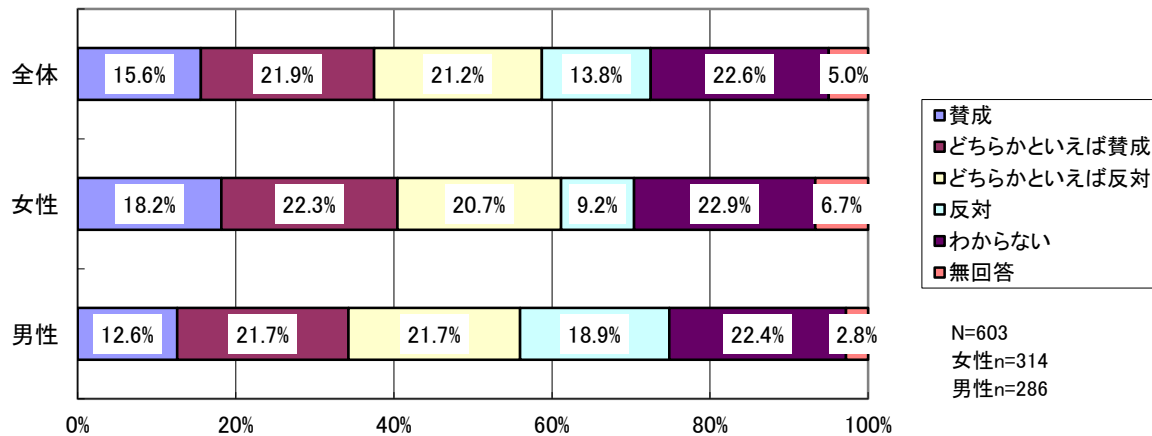
結婚したら、夫の姓を名乗るほうがよい



賛成派が約半数を占めている。「わからない」と回答した割合が36.5%と高くなっている。男女の差はほとんど見られない。

D

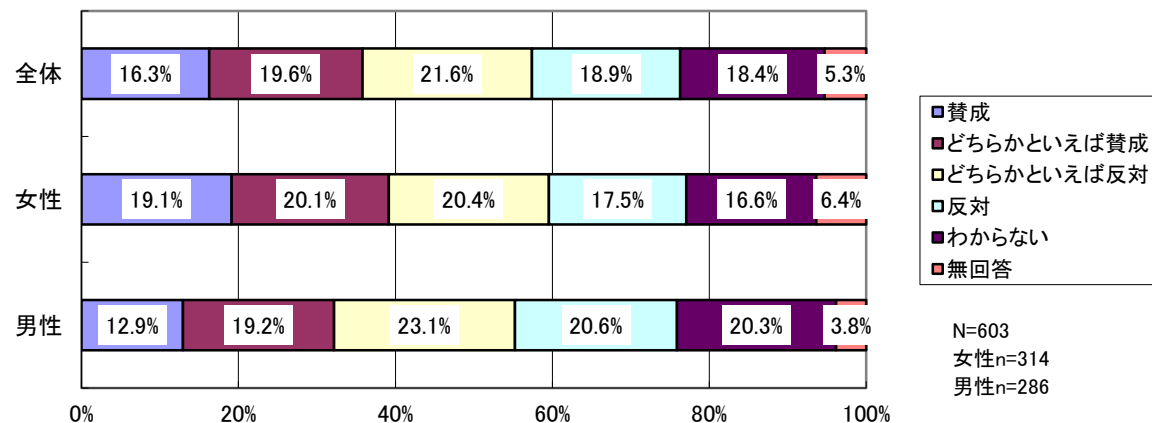
結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



賛成派と反対派（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が同程度になっている。女性のほうが賛成派の割合が6.2ポイント高くなっている。

E

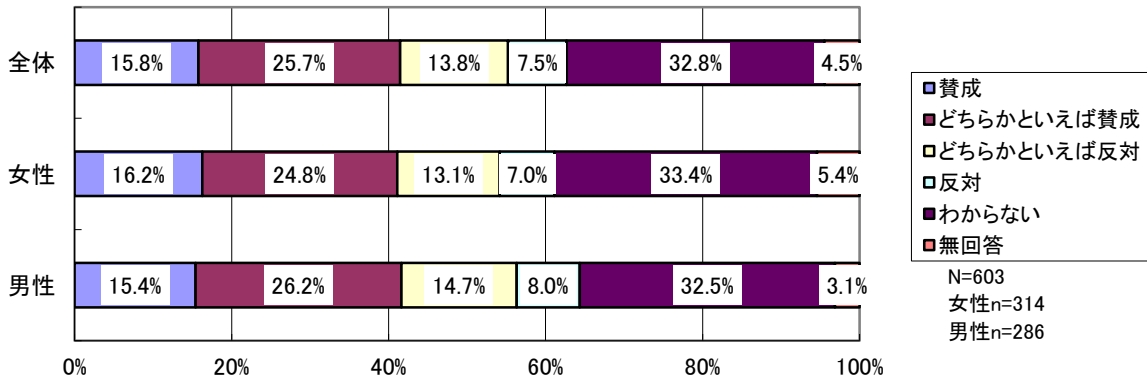
結婚をしないで、「子どもを生み育てる」という生き方があってもよい



反対派が賛成派を4.6ポイント上回っている。女性より男性のほうが反対派の割合が高くなっている。

F

夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚すべきである

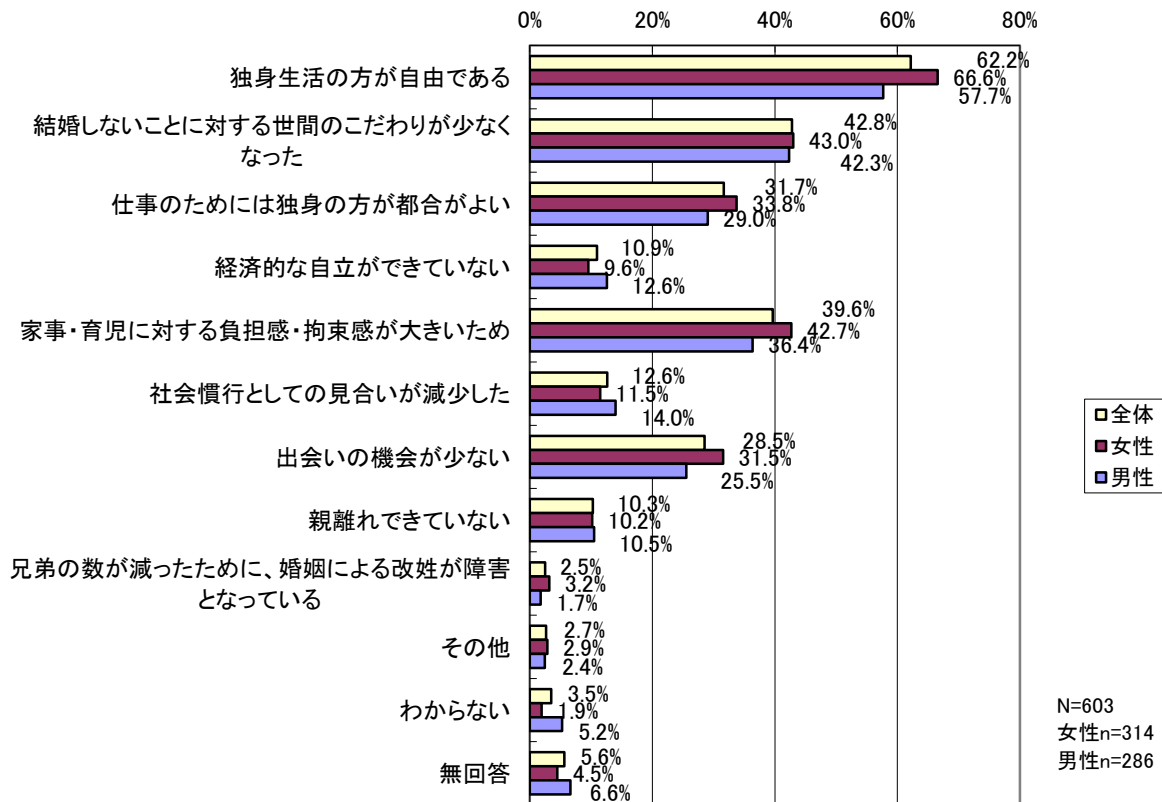


「わからない」と回答した人の割合が約3割と最も高くなっている。賛成派が反対派を20.2ポイント上回っている。男女の差はほとんど見られない。

問18 女性・男性の晩婚化の理由

日本では晩婚化が進んでいますが、「1. 女性の晩婚化の理由」についてあなたはどのように思いますか。また、「2. 男性の晩婚化の理由」についてはどうですか。それぞれの項目について、3つまで選んで○をつけてください。

女性の晩婚化の理由

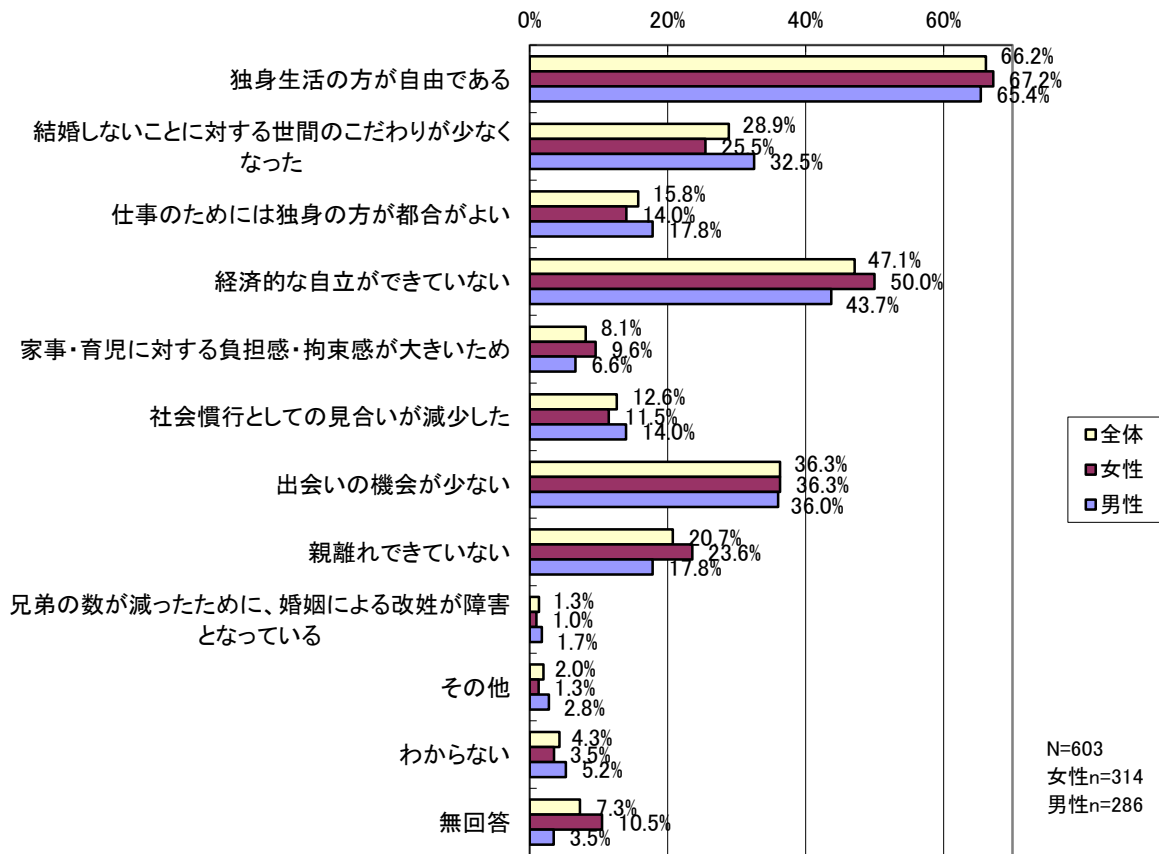


全体で見ると、「独身生活の方が自由である」が62.2%と最も高く、次いで「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」が42.8%、「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」が39.6%となっている。

性別で見ると、「独身生活の方が自由である」(女性66.6%、男性57.7%)、「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」(女性42.7%、男性36.4%)、「出会いの機会が少ない」(女性31.5%、男性25.5%)については、それぞれ女性の方が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別にみると、20代～50代の女性では、半数以上が「家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい」と回答している。10代以外は、「独身生活の方が自由である」が最も高くなっている。10代男性は「仕事のためには独身の方が都合がよい」、10代女性は「出会いの機会が少ない」が最も高くなっている。

## 男性の晩婚化の理由



全体で見ると、「独身生活の方が自由である」が66.2%と最も高く、次いで、「経済的な自立ができていない」が47.1%、「出会いの機会が少ない」が36.3%となっている。

性別で見ると、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(女性25.5%、男性32.5%)では女性より男性の方が、「経済的な自立ができていない」(女性50.0%、男性43.7%)、「親離れできていない」(女性23.6%、男性17.8%)では男性より女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年代別にみると、どの年代でも「独身生活の方が自由である」が最も高くなっている。「社会慣行としての見合いが減少した」、「出会いの機会が少ない」は60代、70代で高い割合となっている。「経済的な自立ができていない」は、30代、50代の半数が理由としてあげている。

女性の晩婚化の理由、男性の晩婚化の理由ともに最も高い割合を占めているのは「独身生活の方が自由である」であった。2位、3位には男女それぞれ特徴的な理由が挙げられた。女性に対しては、結婚観や家事・育児を連想させる回答が、男性には経済力や出会いの機会の少なさなどの回答がみられた。

問18 晩婚化の理由についてどう思いますか。

前回は橋本市(P31)と比較

女性の晩婚化の理由

		独身生活の方が自由である	結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった	仕事のためには独身の方が都合がよい	仕事を増やした女性経済力が向上した	家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい	相手に高望みをしている	社会慣行としての見合いが減少した	親離れできていない	が増えたために、離婚による改姓が障害	とや一人っ子どうし	その他	わからない	無回答
行橋前	全体	60.0%	43.3%	28.8%	72.2%	42.1%	30.1%	16.5%	17.5%	8.4%	2.5%	3.7%	6.7%	
	女性	65.2%	46.4%	31.1%	75.2%	44.6%	28.8%	17.8%	20.3%	8.5%	2.0%	2.8%	5.5%	
	男性	55.1%	40.0%	26.6%	69.7%	40.3%	31.1%	15.4%	14.9%	8.3%	3.1%	4.9%	7.4%	
行橋今	全体	62.2%	42.8%	31.7%	10.9%	39.6%	12.6%	28.5%	10.3%	2.5%	2.7%	3.5%	5.6%	
	女性	66.6%	43.0%	33.8%	9.6%	42.7%	11.5%	31.5%	10.2%	3.2%	2.9%	1.9%	4.5%	
	男性	57.7%	42.3%	29.0%	12.6%	36.4%	14.0%	25.5%	10.5%	1.7%	2.4%	5.2%	6.6%	

前回調査では、「女性の経済力の向上」が最も高かったが、今回は「独身生活の自由さ」が最も高くなった。女性の経済的自立不足や、見合い、親離れ、改姓等の理由は大きく減少した。

新たに加わった、「出会いの機会不足」が約3割と高くなっている。

男性の晩婚化の理由

		独身生活の方が自由である	結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった	仕事のためには独身の方が都合がよい	仕事を増やした女性経済力が向上した	家事・育児に対する負担感・拘束感が大きい	相手に高望みをしている	社会慣行としての見合いが減少した	親離れできていない	が増えたために、離婚による改姓が障害	とや一人っ子どうし	その他	わからない	無回答
行橋前	全体	66.2%	36.8%	18.5%	15.3%	9.9%	13.3%	22.8%	36.1%	9.0%	3.2%	4.7%	10.2%	
	女性	66.2%	35.3%	20.6%	15.3%	7.8%	15.5%	21.8%	41.1%	9.8%	2.0%	3.3%	13.3%	
	男性	67.7%	38.3%	16.6%	15.4%	12.6%	11.1%	23.7%	31.1%	8.0%	4.6%	6.6%	6.0%	
行橋今	全体	66.2%	28.9%	15.8%	47.1%	8.1%	12.6%	36.3%	20.7%	1.3%	2.0%	4.3%	7.3%	
	女性	67.2%	25.5%	14.0%	50.0%	9.6%	11.5%	36.3%	23.6%	1.0%	1.3%	3.5%	10.5%	
	男性	65.4%	32.5%	17.8%	43.7%	6.6%	14.0%	36.0%	17.8%	1.7%	2.8%	5.2%	3.5%	

前回は橋本市(P31)と比較

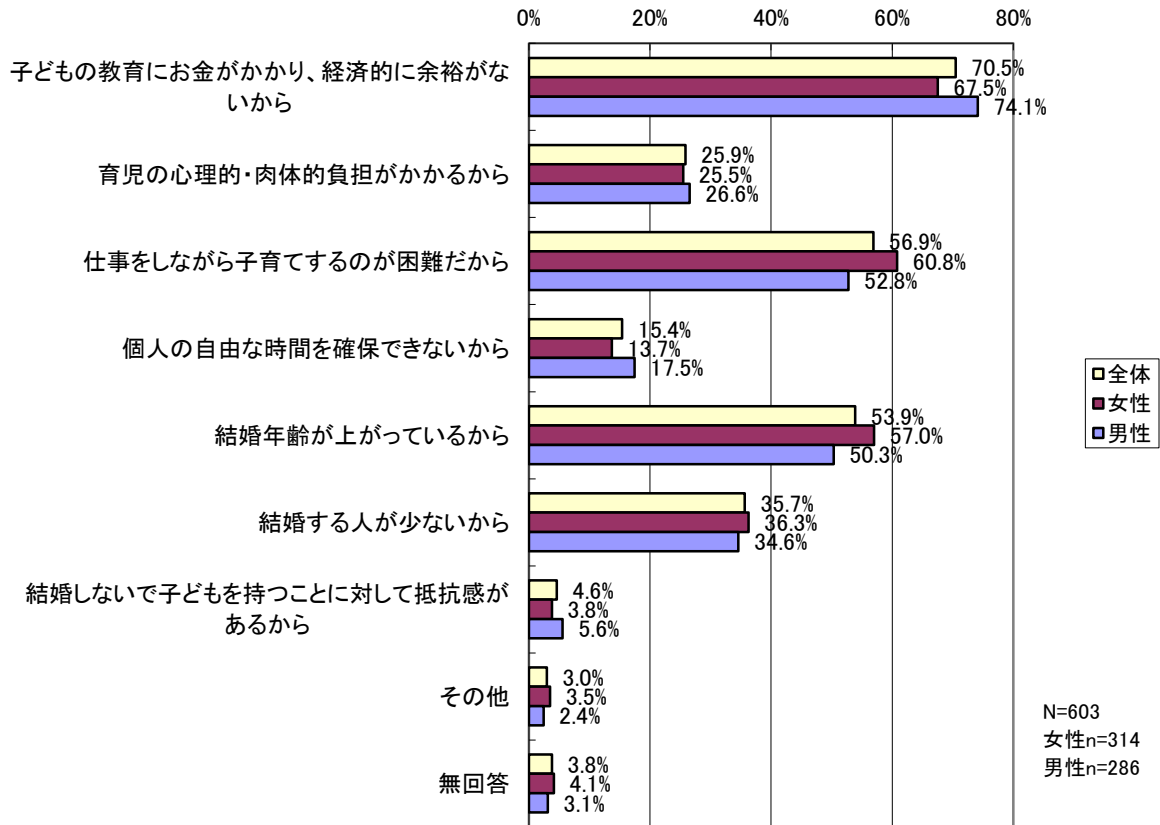
前回は橋本市(P31)と比較

前回は橋本市(P31)と比較



## 問19 子どもの数の減少について

問19 近年、子どもの数が減少傾向にあります。その理由は何であると思いますか。3つまで選んで○をつけてください。



全体で見ると、「子どもの教育にお金がかかり、経済的に余裕がないから」が70.5%と最も高く、次いで「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が56.9%、「結婚年齢が上がっているから」が53.9%となっている。

性別で見ると、「子どもの教育にお金がかかり、経済的に余裕がないから」では女性より男性のほうが、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」、「結婚年齢が上がっているから」では男性より女性のほうが5ポイント以上高い割合を占めている。

問20 子どものしつけや教育についての考え方

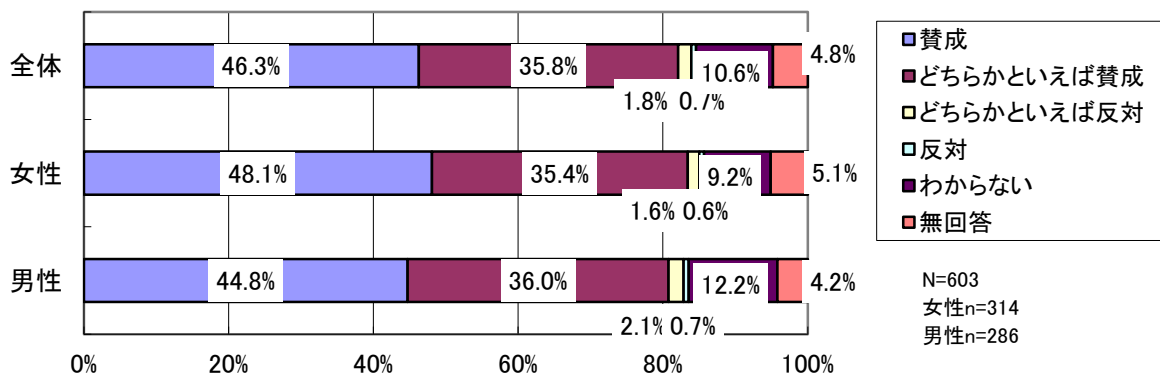
あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。A～Dの項目ごとに1つずつ選んで○をつけてください。(子どもがいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。)

肯定派(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)と否定派(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)の2つに区分して比較した。

全体でみると、「男女平等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」(賛成派82.1%、反対派2.5%)、「男女ともに、子どもの頃から炊事・洗濯・掃除など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(賛成派88.9%、反対派3.9%)、「性別に関わらず、自分の得意な分野に進んだ方がよい」(賛成派90.6%、反対派1.2%)では、賛成派が圧倒的に高い割合となっている。「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」(賛成派47.6%、反対派33.8%)では、反対派も比較的高い割合となっている。

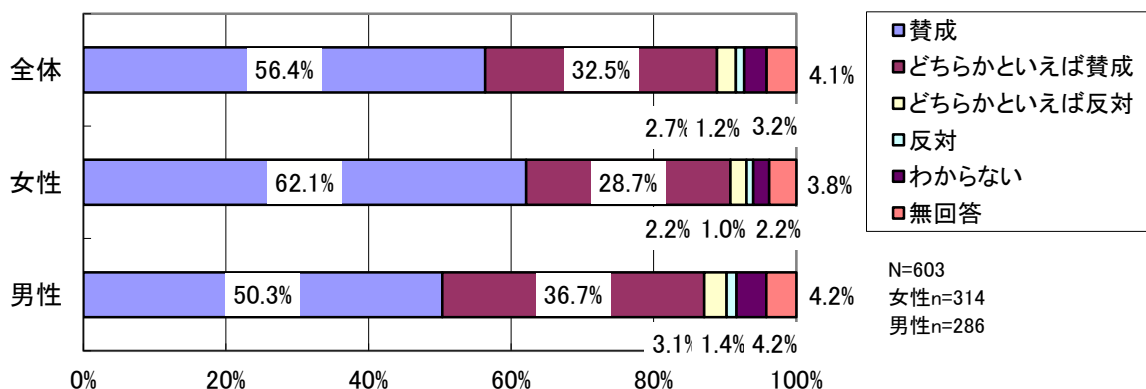
性別でみると、「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」では、女性の肯定派(44.9%)より男性の肯定派(51.1%)のほうが高い割合となっている。

A 男女平等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ



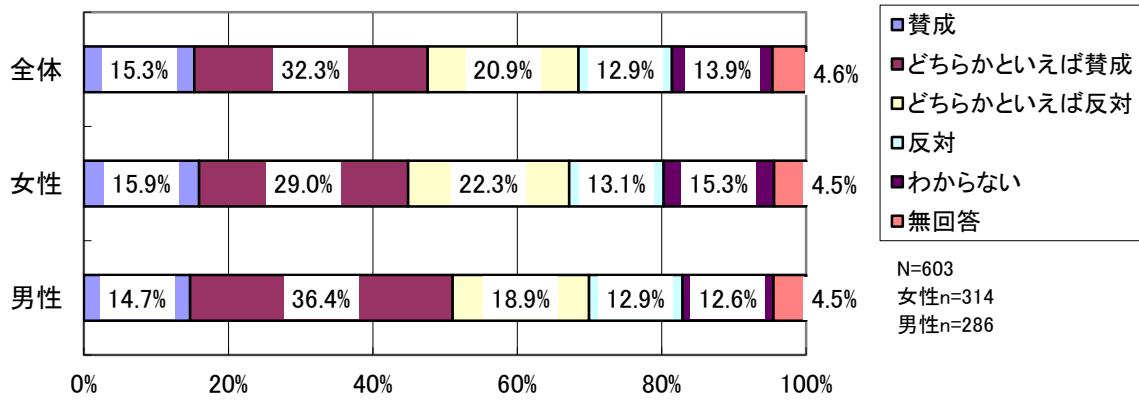
賛成派(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が8割を超えている。

B 男女ともに、子どもの頃から炊事・洗濯・掃除など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい



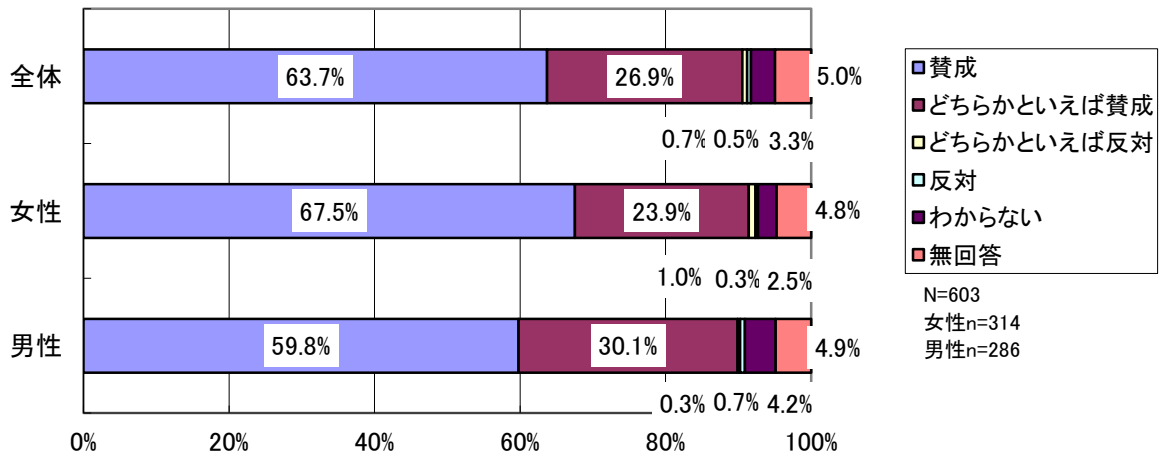
賛成派が9割弱と高い割合である。女性のほうが積極的「賛成」の割合が高くなっている。

C 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい



賛成派(47.6%)が反対派(33.8%)を上回っている。男性のほうが賛成派の割合が高い。

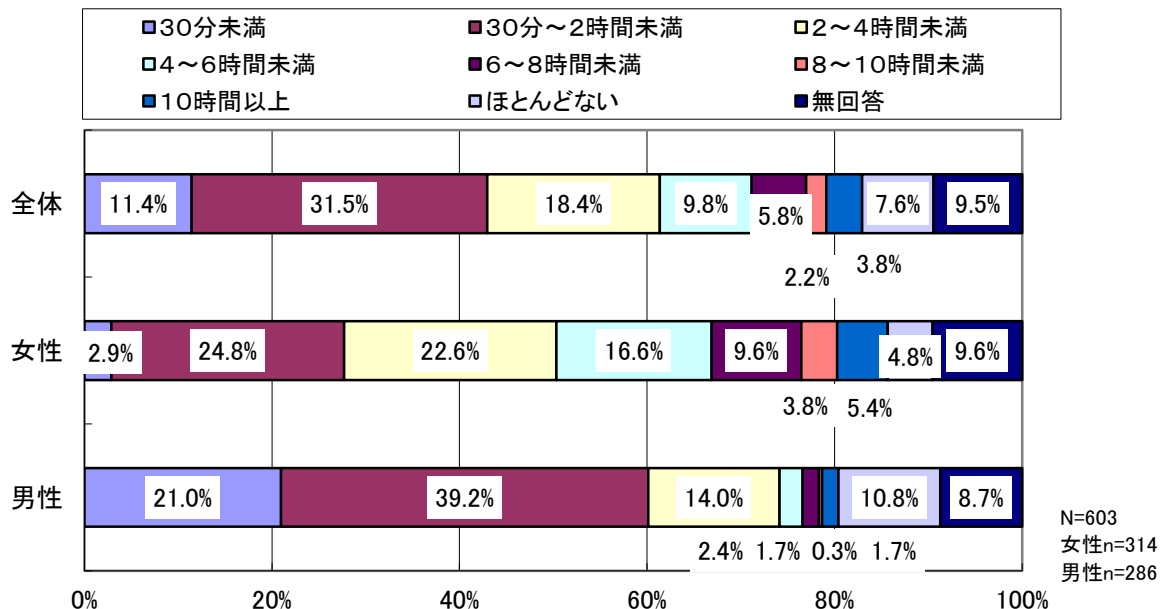
D 性別に関わらず、自分の得意な分野に進んだ方がよい



賛成派が9割を超えた。女性のほうが積極的「賛成」の割合が高い。

## 問21 平日の状況について

問21 休日以外の平日に、家事・育児・介護に携わる時間は平均してどれくらいありますか。一つだけ選んで○をつけてください。

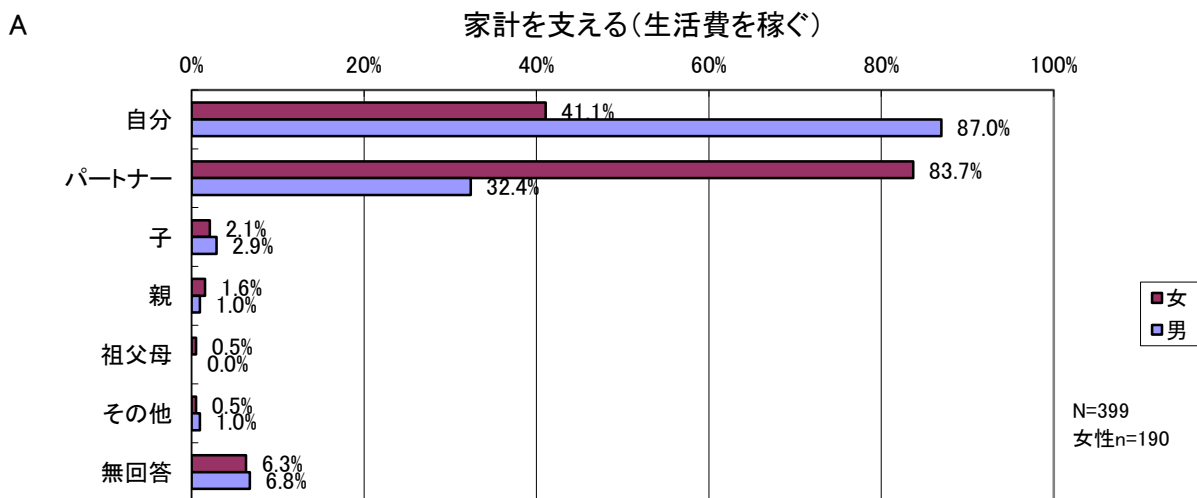


全体で見ると、「30分～2時間未満」の割合が31.5%と最も高くなっている。性別で見ると、女性は「30分～2時間未満」と「2～4時間未満」が同程度で高い割合となっている。男性は「30分～2時間未満」が39.2%と圧倒的に高く、次いで「30分未満」と続いている。男性は2時間未満が約6割を占めている。

## 問22 家庭内の家事分担

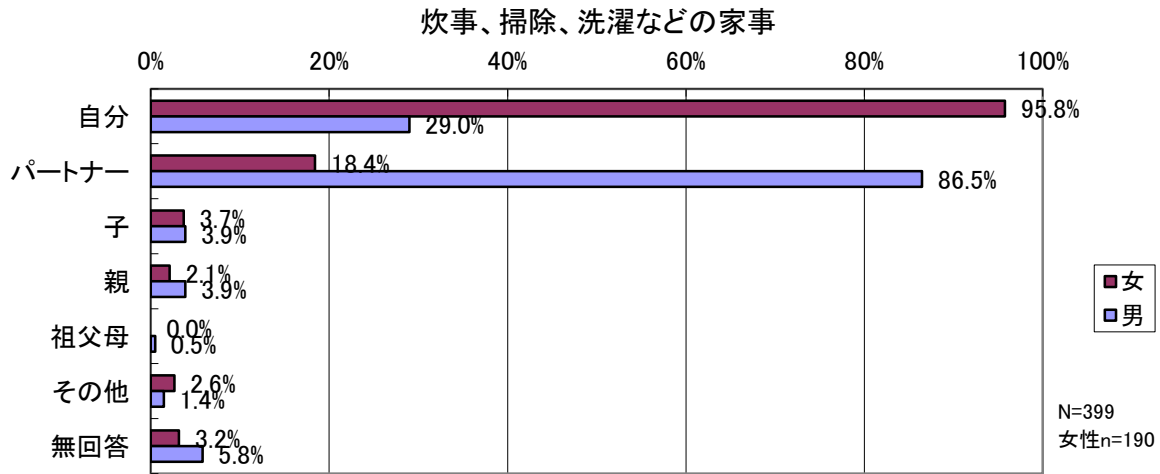
あなたのご家庭では、次の家庭内の仕事を、おもにどなたが担当していますか。A～Iの項目ごとにすべて選んで○をつけてください。（分担している場合は複数○をつけてください。）

※ 回答者の中から、既婚者のみを抽出して結果をまとめた。



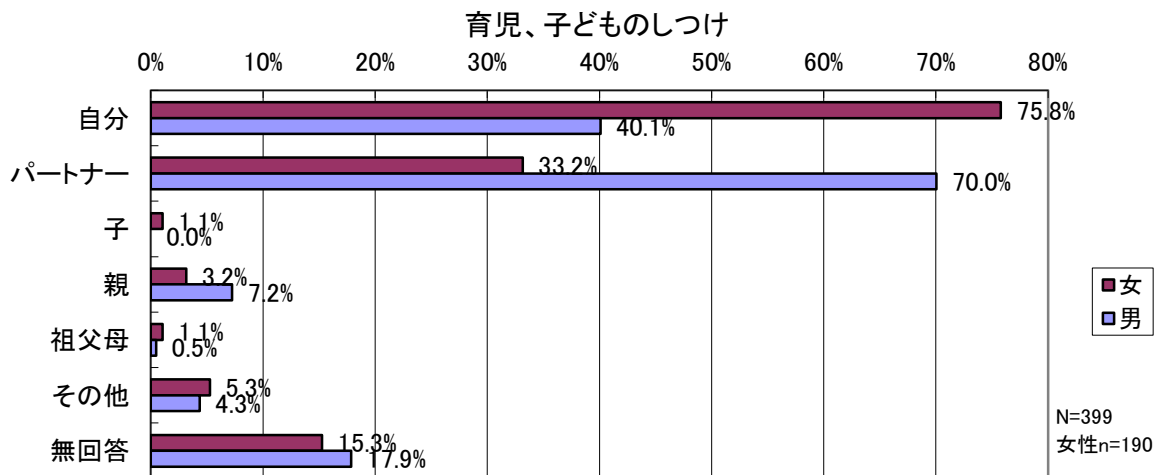
自分と回答した男性は87.0%と女性の2倍以上の割合となっており、パートナーと答えた女性も8割を超えた。女性の41.1%が「家計を支える」ことに携わっている。

B



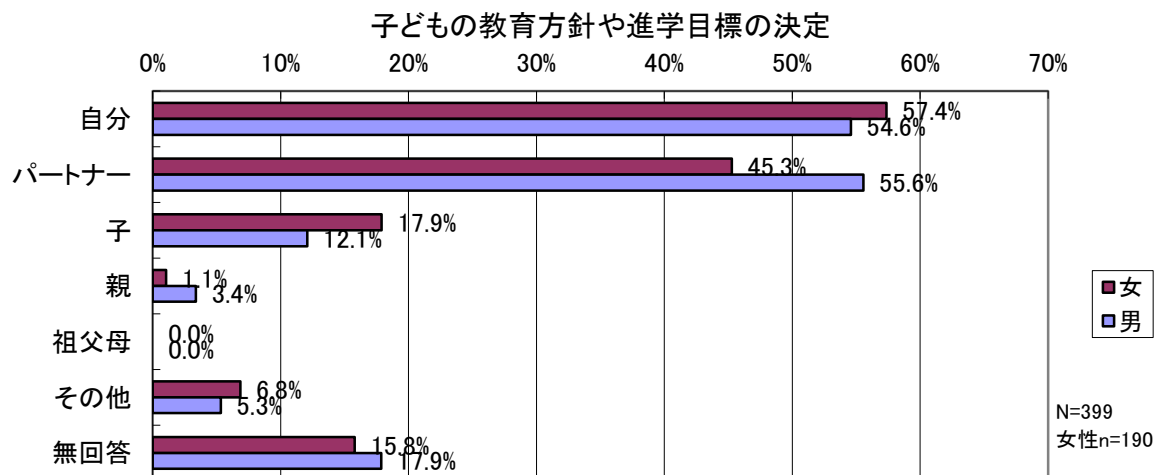
自分と回答した女性が95.8%と非常に高い割合となっている。男性は約3割と男女の差が大きくなっている。パートナーと答えた男性は86.5%、女性は18.4%とこちらも男女の差が大きくなっている。

C



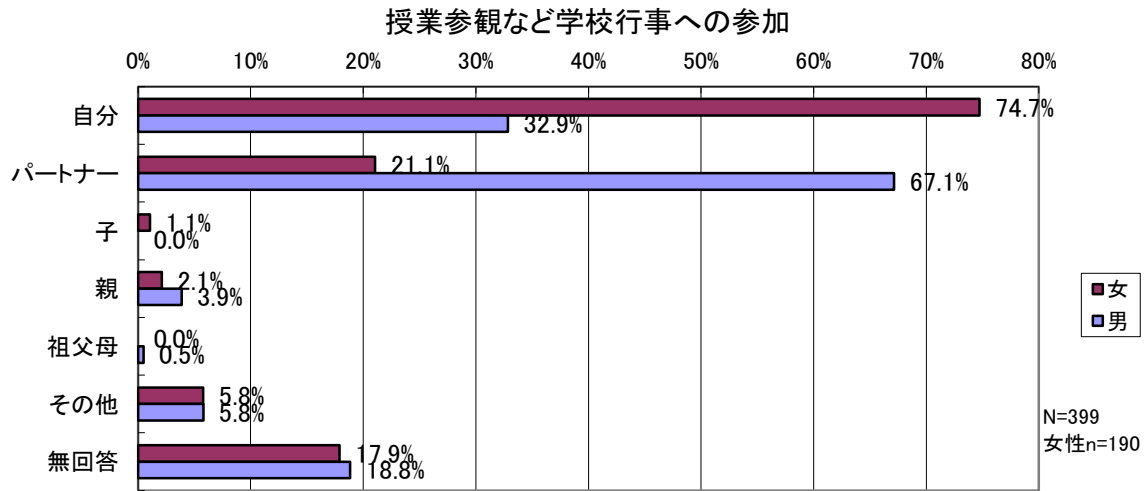
自分と回答した女性が75.8%、男性が40.1%と女性のほうが育児に関与している割合が高くなっている。

D



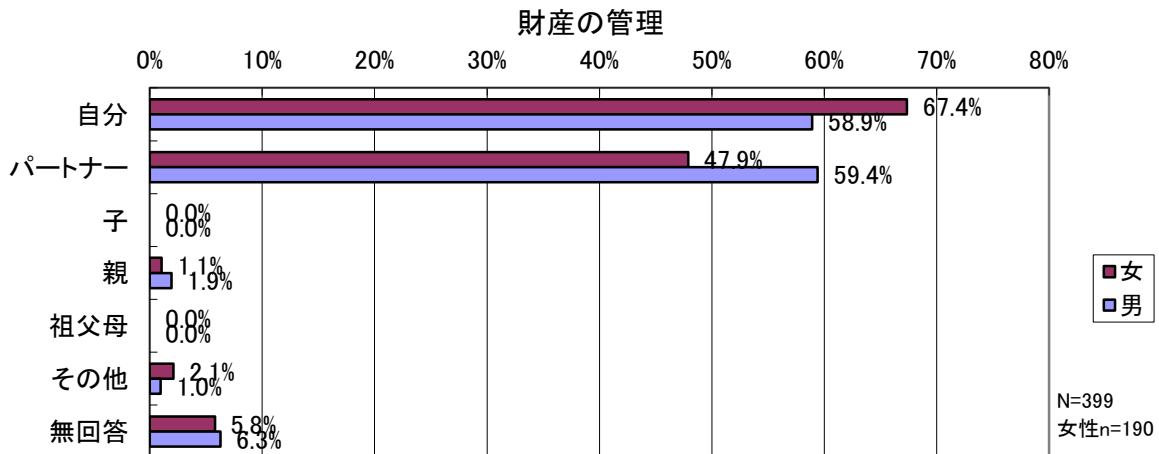
自分と回答した女性は男性より若干高くなっている。また、パートナーと回答した男性も女性より若干高いため、女性の方が子どもの教育方針等の決定に参加している割合が高くなっている。子の割合も他の項目と比べて高いことから、子ども自身に決定を委ねていることがわかる。

E



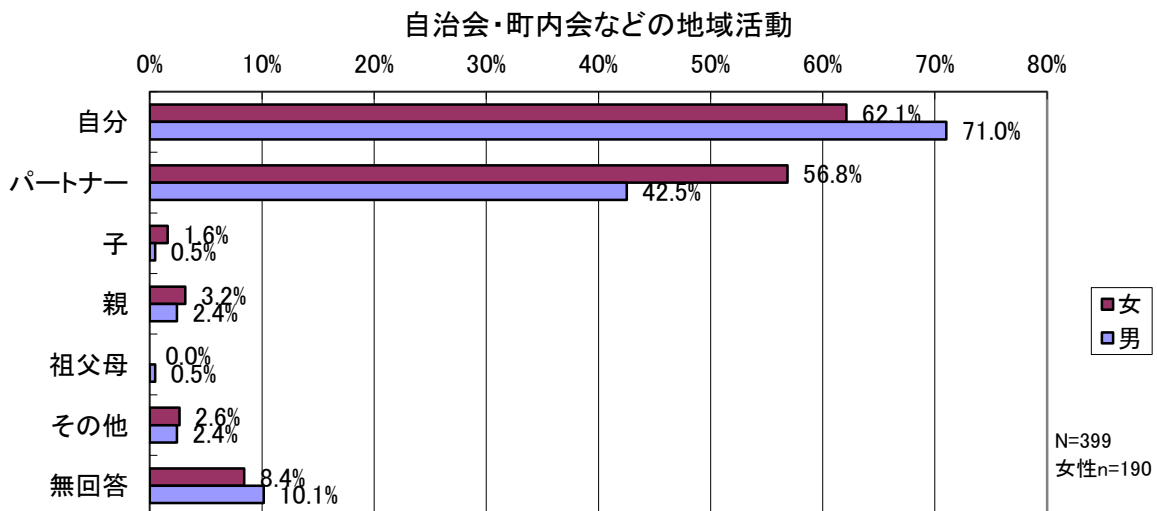
自分と回答した女性が74.7%と高くなっている。同様にパートナーと回答した男性も67.1%と高いことから、女性が中心となって学校行事には参加していると考えられる。

F



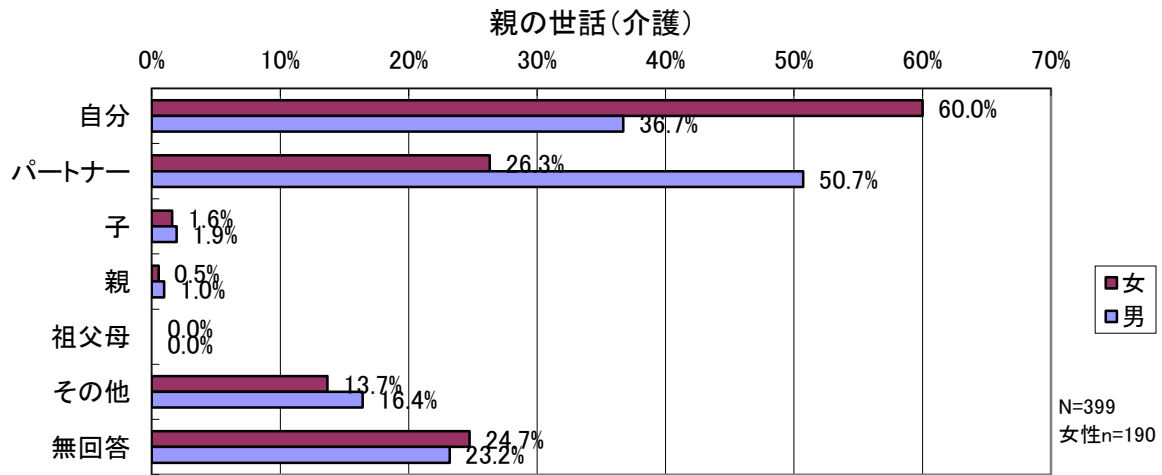
自分と回答したのは男性より女性のほうが高い割合を占めている。また、パートナーと回答したのも男性の方がより高くなっている。

G



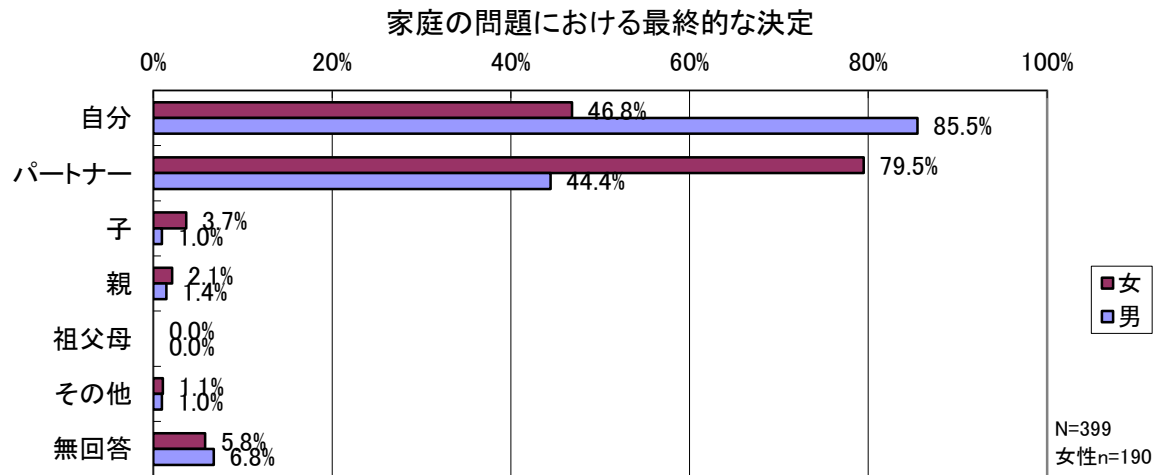
自分と回答した男性は70.0%と女性よりも高くなっていることから、地域活動には女性より男性のほうが中心となって参加していると考えられる。

H



自分と回答した女性は60.0%と男性よりも高い割合となっている。パートナーと回答した男性も50.7%と半数を超えている。

I

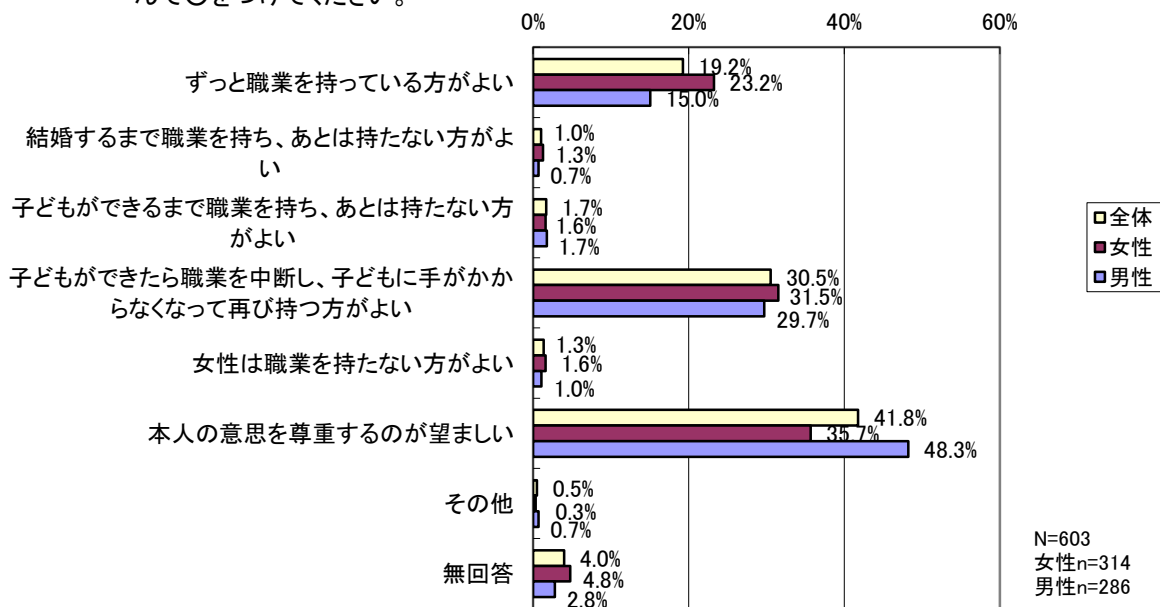


自分と回答した男性は85.5%と高い割合となっている。また、パートナーと回答した女性も8割近くになっている。

# 女性の働き方について

## 問23 女性が職業を持つことについての考え方

問23 「女性が職業を持つこと」について、どのような形が最も望ましいと思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。

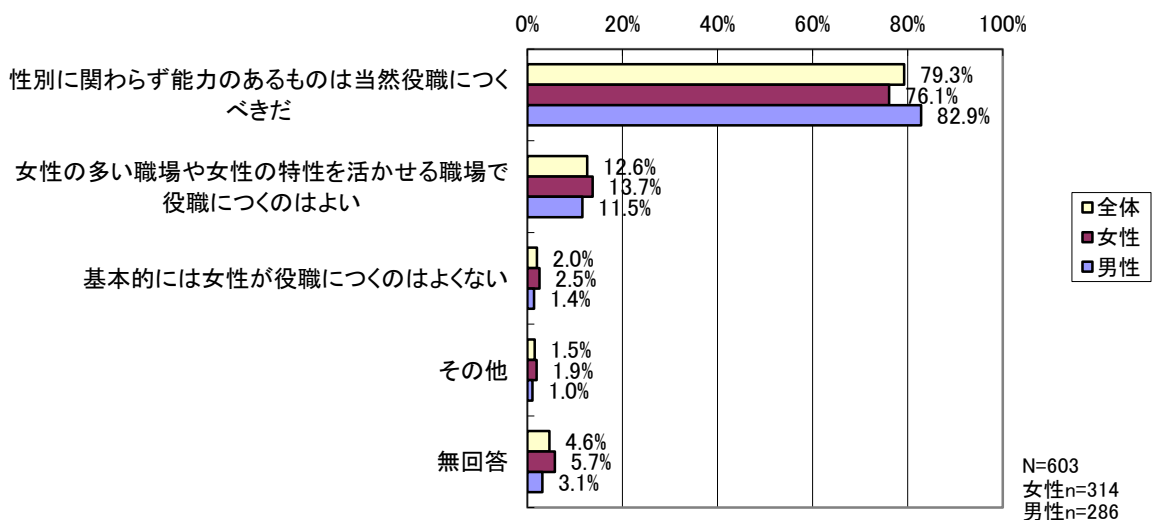


全体で見ると、「本人の意思を尊重するのが望ましい」が41.8%と最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子供に手がかからなくなって再び持つ方がよい」が30.5%、「ずっと職業を持っている方がよい」が19.2%となっている。

性別で見ると、「ずっと職業を持っている方がよい」と回答している女性は男性より8.2ポイント高くなっている。

## 問24 女性が役職につくことについての考え方

問24 あなたは女性が職場で役職につくことをどう思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。



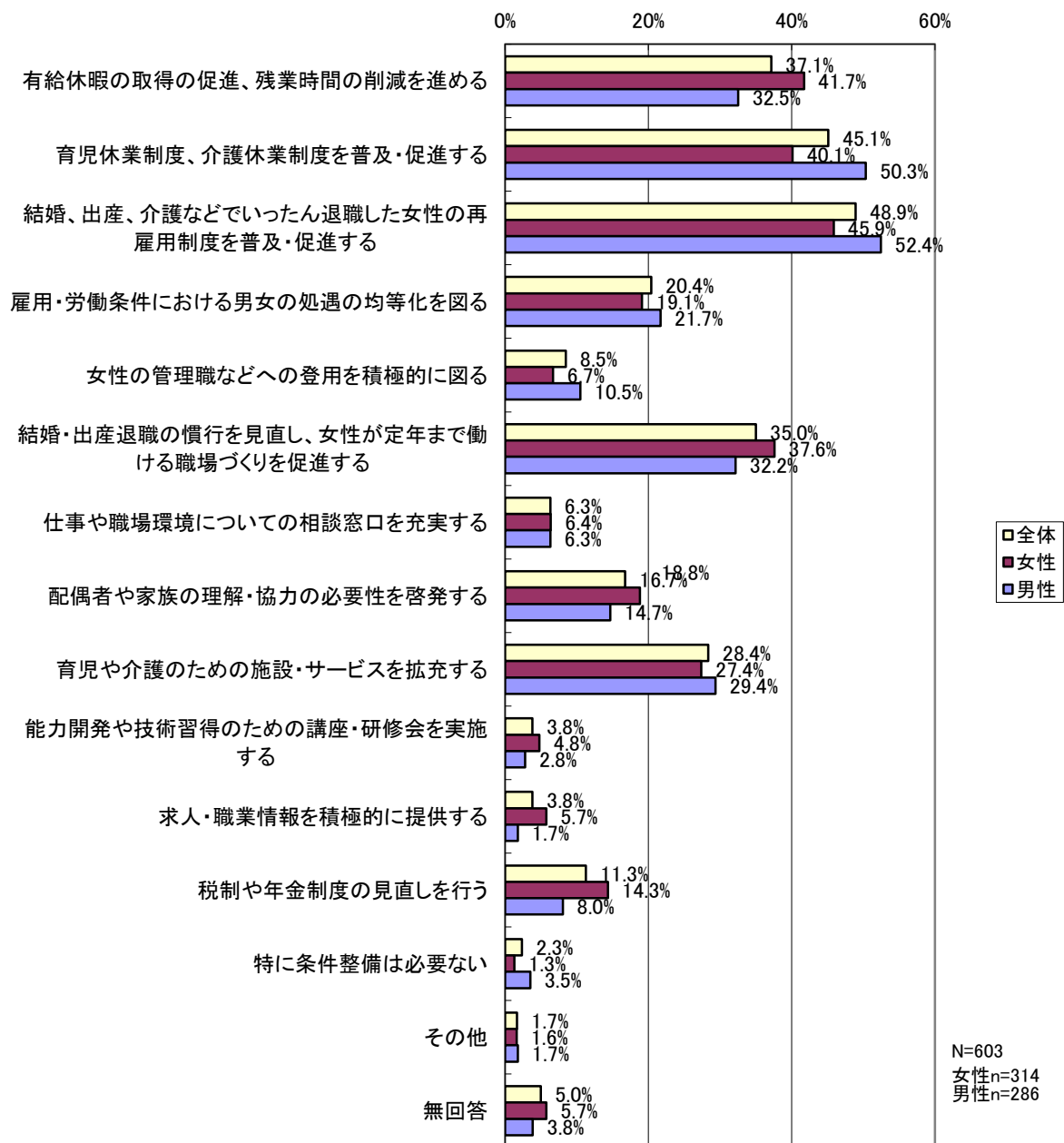
全体で見ると、「性別に関わらず能力のあるものは当然役職につくべきだ」が79.3%と圧倒的に高い割合を占めている。次いで、「女性の多い職場や女性の特性を活かせる職場で役職につくのはよい」が12.6%となっている。

性別で見ると、「性別に関わらず能力のあるものは当然役職につくべきだ」では男性のほうが、「女性の多い職場や女性の特性を活かせる職場で役職につくのはよい」では女性のほうが若干高い割合となっている。



## 問25 女性の職場進出を促進するための条件整備

問25 あなたは、女性が働く上で、どのような条件整備が必要だと思いますか。優先度が高いと思うものから3つまで○をつけてください。



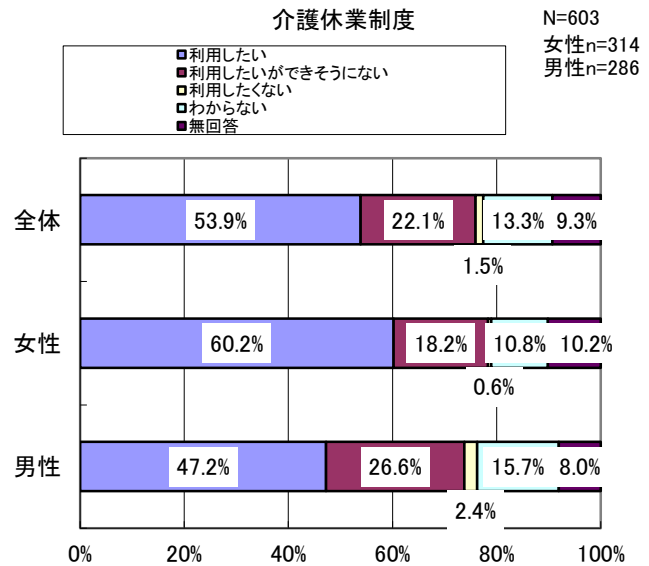
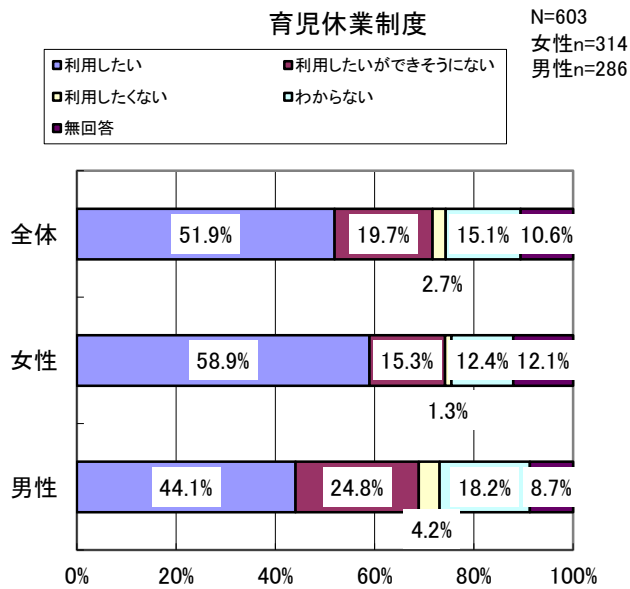
全体で見ると、「結婚、出産、介護などでいったん退職した女性の再雇用制度を普及・促進する」が48.9%と最も高く、次いで「育児休業制度、介護休業制度を普及・促進する」が45.1%、「有給休暇の取得の促進、残業時間の削減を進める」が37.1%となっている。

性別で見ると、男女ともに上位3つは全体と同様である。「有給休暇の取得の促進、残業時間の削減を進める」(女性41.7%、男性32.5%)は女性のほうが、「育児休業制度、介護休業制度を普及・促進する」(女性40.1%、男性50.3%)、「結婚、出産、介護などでいったん退職した女性の再雇用制度を普及・促進する」(女性45.9%、男性52.4%)は男性のほうが高い割合となっている。

その他では、「結婚・出産退職の慣行を見直し、女性が定年まで働ける環境づくりを促進する」、「配偶者や家族の理解・協力の必要性を啓発する」、「税制や年金制度の見直しを行う」では女性のほうが、「雇用条件における男女の処遇の均等化を図る」、「育児や介護のための施設・サービスを拡充する」では男性のほうが高い割合となっている。

問26 育児休業・介護休業の利用についての考え方

あなたは「1. 育児休業制度」や「2. 介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。それぞれの項目について1つずつ選んで○をつけてください。



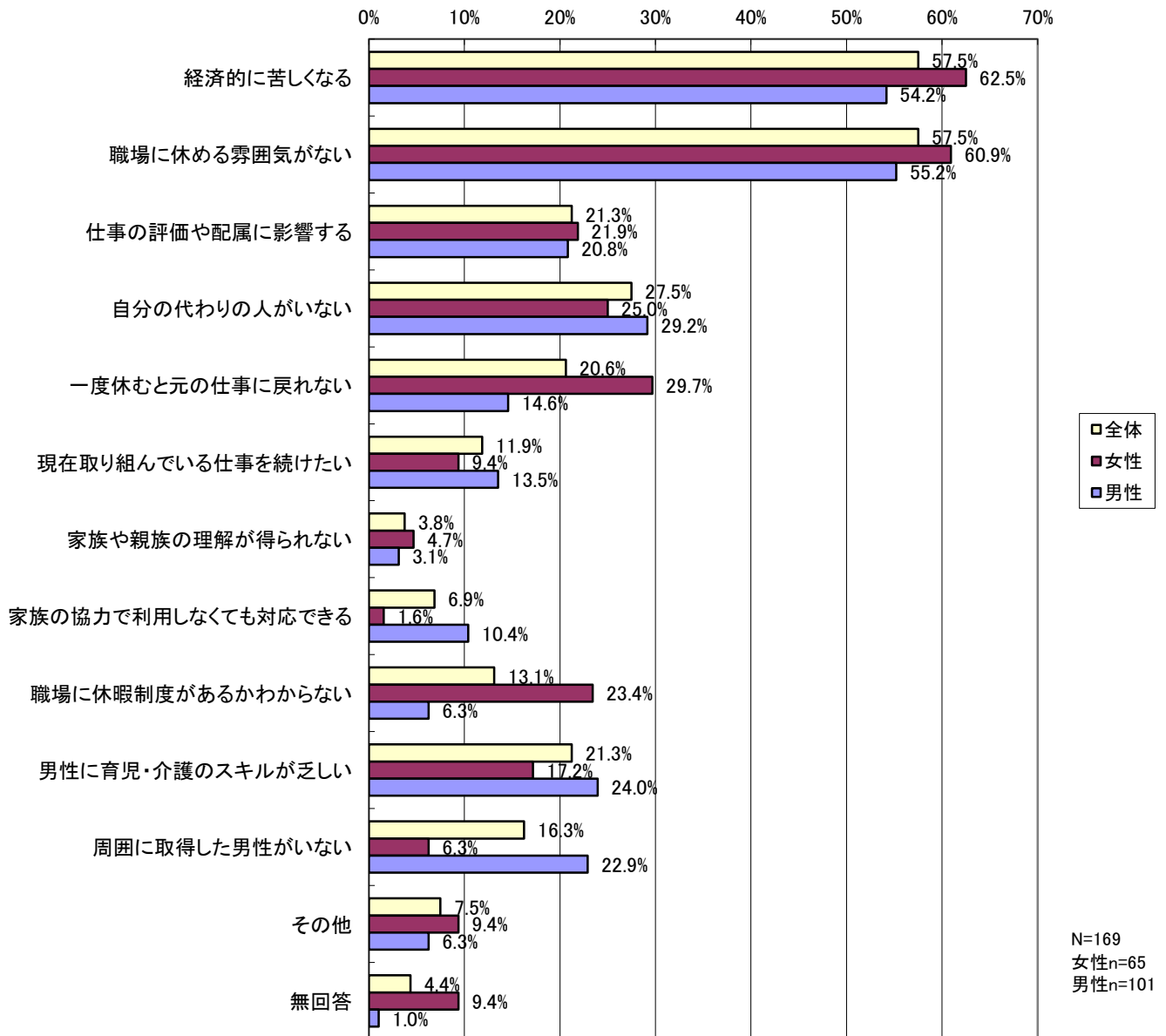
全体で見ると、育児休業制度、介護休業制度ともに、「利用したい」が半数を超えており、「利用したいができそうにない」と「利用したくない」をあわせて2割程度となった。

性別で見ると、どちらも、女性のほうが「利用したい」の割合が高く、男性のほうが「利用したいができそうにない」の割合が高くなっている。

問26で「利用したいができそうにない」「利用したくない」と回答された方におたずねします。

問26 副1 育児休業や介護休業を利用できない(したくない)理由

副1 あなたがそのように考えるのはどのような理由からですか。3つまで選んで○をつけてください。



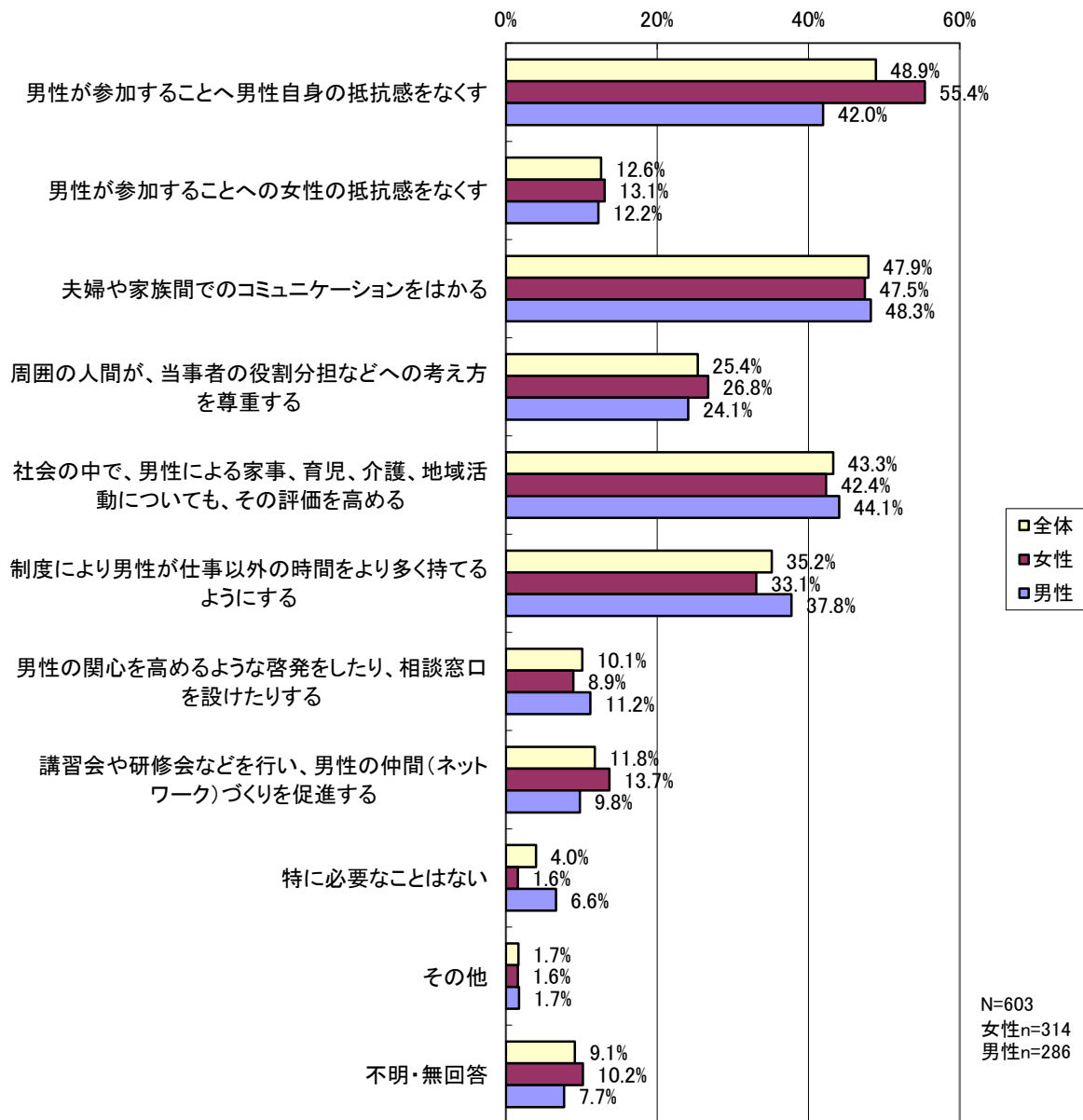
問26で「利用したいができそうにない」、「利用したくない」と回答した人に、そのように答えた理由についてたずねた。

全体で見ると、「経済的に苦しくなる」、「職場に休める雰囲気がない」がともに57.5%と最も高く、次いで「自分の代わりの人がいない」が27.5%となっている。

性別で見ると、女性は「一度休むと元の仕事に戻れない」、「職場に休暇制度があるかわからない」、男性は「家族の協力で利用しなくても対応できる」、「男性に育児・介護のスキルが乏しい」、「周囲に取得した男性がいない」が高い割合となっている。

問27 男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するための条件整備

問27 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。優先度が高いと思うものから3つまで選んで○をつけてください。



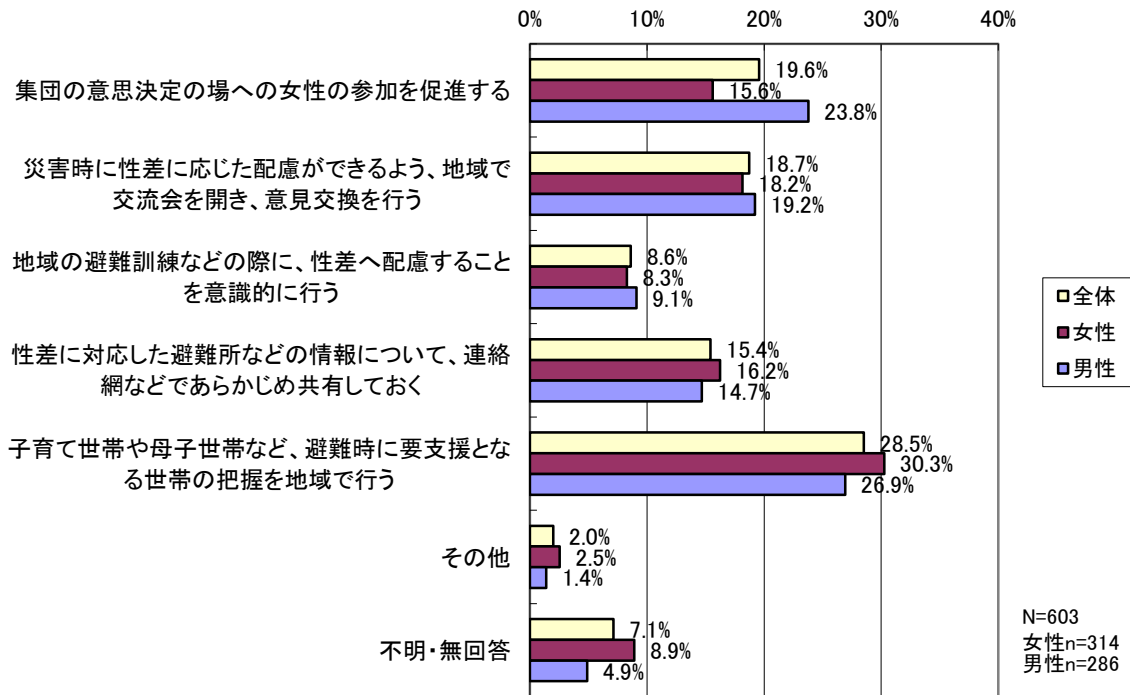
全体で見ると、「男性が参加することへ男性自身の抵抗感をなくす」が48.9%と最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかる」が47.9%、「社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても、その評価を高める」が43.3%となっている。

性別で見ると、「男性が参加することへ男性自身の抵抗感をなくす」の割合は、女性(55.4%)のほうが男性(42.0%)よりも13.4ポイント高い。また、「特に必要なことはない」も割合は男性のほうが高くなっている。

# 防災対策について

## 問28 防災に関するまちづくりについて

問28 男女共同参画の視点から防災に関するまちづくりを地域で行う場合、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。1つだけ○をつけてください。

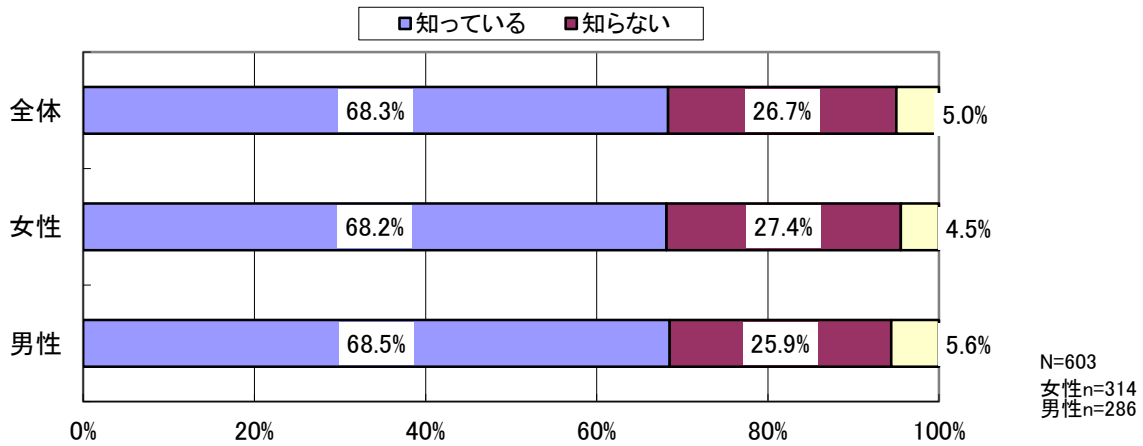


全体で見ると、「子育て世帯や母子世帯など、避難時に要支援となる世帯の把握を地域で行う」が28.5%と最も高く、次いで「集団の意思決定の場への女性の参加を促進する」が19.6%、「災害時に性差に応じた配慮ができるよう、地域で交流会を開き、意見交換を行う」が18.7%となっている。

性別で見ると、「集団の意思決定の場への女性の参加を促進する」は女性より男性のほうが8.2ポイント高くなっている。

問29 避難所の認知度

問29 お住まいの地区の災害時における避難所がどこか知っていますか。○をつけてください。



全体で見ると、「知っている」と回答した割合は68.3%、「知らない」と回答した割合は26.7%となった。男女間で差はほとんど見られない。

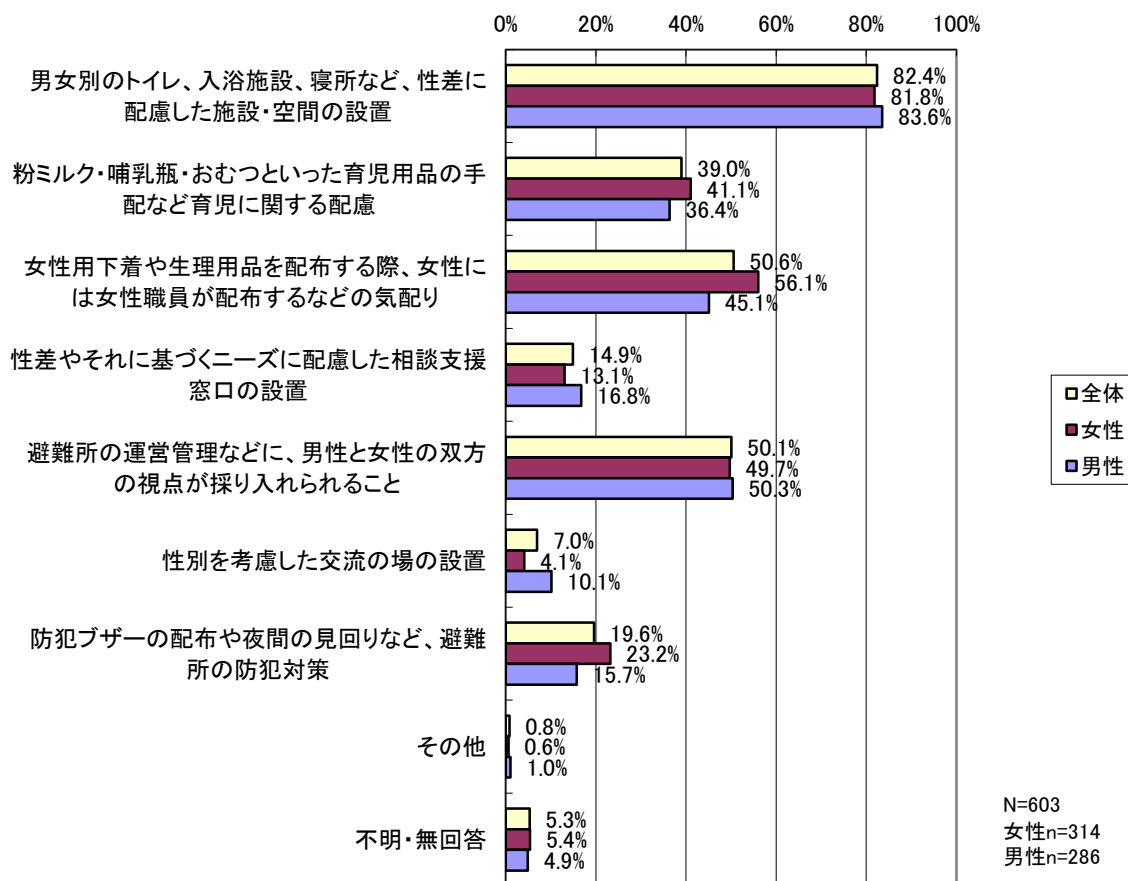
問29 世帯形態別避難所の認知度

	知っている	知らない	不明・無回答
1人世帯	42.4%	47.5%	10.2%
1世代世帯	76.6%	19.5%	3.9%
2世代世帯	69.3%	26.8%	3.8%
3世代世帯	69.4%	20.4%	10.2%
その他の世帯	66.7%	33.3%	0.0%
不明・無回答	57.1%	28.6%	14.3%

世帯別にみると、1人世帯の「知らない」割合が47.5%と約半数を占めている。

問30 避難所において必要な民間及び行政の支援について

問30 避難所において、男女共同参画の視点から望ましいと思われる民間及び行政の支援は何であると思いますか。優先度が高いと思うものから3つまで選んで○をつけてください。



全体で見ると、「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性差に配慮した施設・空間の設置」が82.4%と最も高く、次いで、「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの気配り」が50.6%、「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」が50.1%となっている。

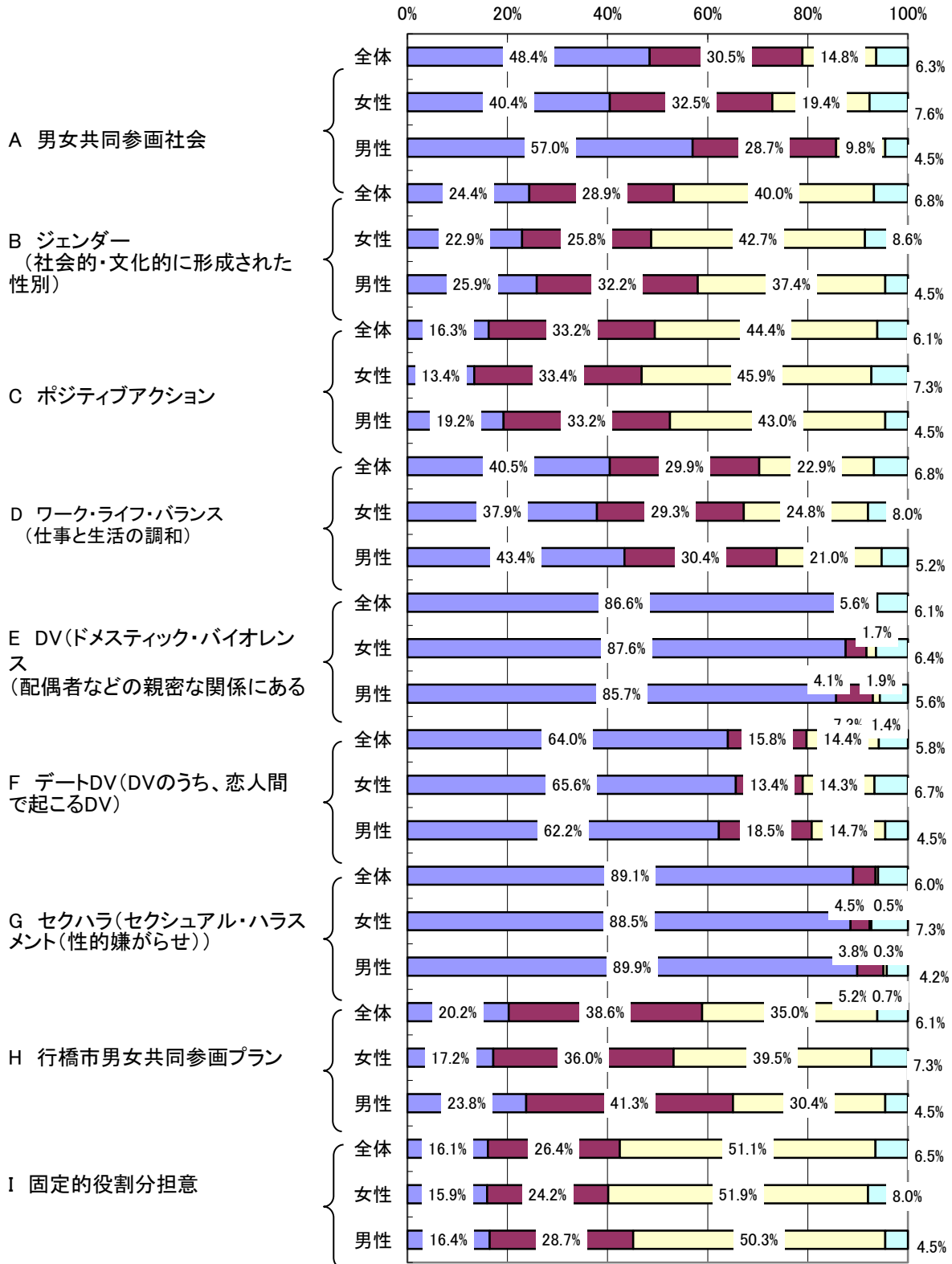
性別で見ると、男女ともに上位3つは全体と同様であるが、「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの気配り」、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」では男性より女性のほうが5ポイント以上高く、「性別を考慮した交流の場の設置」では女性より男性のほうが5ポイント以上高い割合となった。

# 男女共同参画社会の実現について

## 問31 男女共同参画社会等に関する言葉の認知度

問31 あなたは、次の言葉を知っていましたか。A～Iの項目ごとに1つずつ選んで○をつけてください。

N=603  
女性n=314  
男性n=286

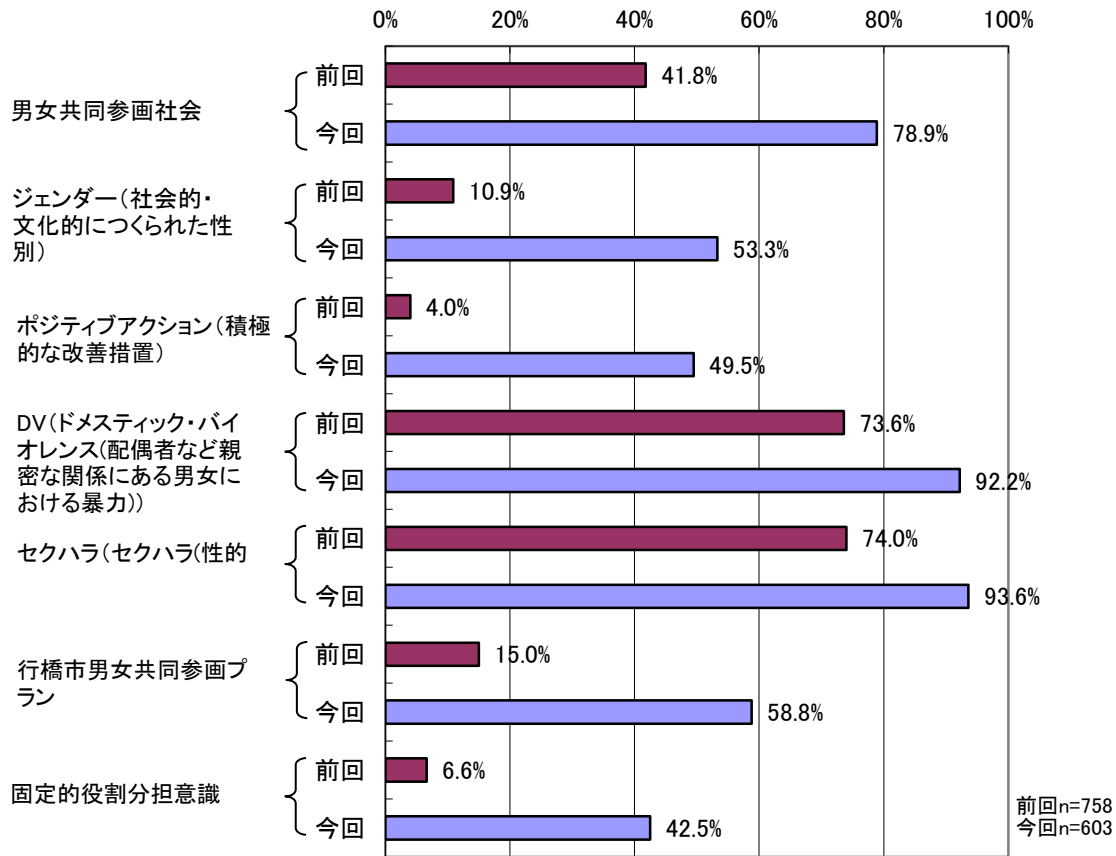




全体で見ると、「ことばも内容も知っている」の割合が最も高い項目は、「セクハラ」(89.1%)で、次いで「DV」(86.6%)、「デートDV」(64.0%)となっている。また、「ことばも内容も知らない」の割合が最も高い項目は、「固定的役割分担意識」(51.1%)で、次いで「ポジティブアクション」(44.4%)、「ジェンダー」(40.0%)となっている。

性別で見ると、「DV」、「デートDV」以外の項目では、女性より男性のほうが「ことばも内容も知っている」の割合が高くなっており、「男女共同参画社会」(女性40.4%、男性57.0%)、「ポジティブアクション」(女性13.4%、男性19.2%)、「ワーク・ライフ・バランス」(女性37.9%、男性43.4%)、「行橋市男女共同参画プラン」(女性17.2%、男性23.8%)では、男性のほうが5ポイント以上高くなっている。

**前回** 男女共同参画社会等に関する言葉の認知度



※ 前回調査は「男女共同参画」、「ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)」、「セクシュアル・ハラスメント」、「ドメスティック・バイオレンス(家庭内暴力・夫や恋人から受ける暴力)」、「性別役割分担意識」

**前回調査との比較**

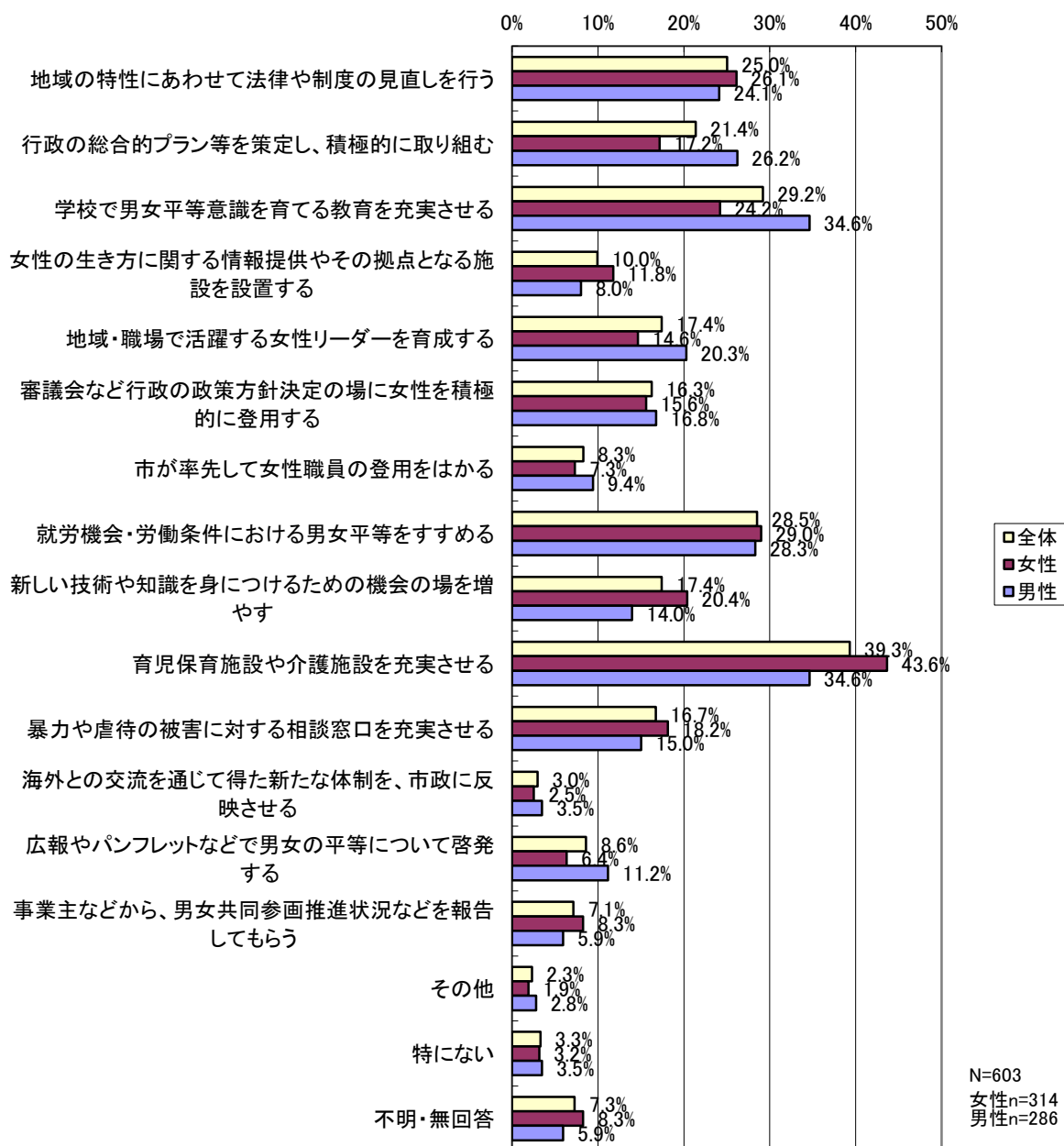
前回の割合と、今回の「ことばも内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計の割合を比較する。

「男女共同参画社会」は前回より37.1ポイント増加、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)」は42.4ポイント増加、「ポジティブアクション」は45.5ポイント増加、「DV(ドメスティック・バイオレンス(配偶者などの親密な関係にある男女における暴力))」は18.6ポイント増加、「セクハラ(セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ))」は19.6ポイント増加、「行橋市男女共同参画プラン」は43.8ポイント増加、「固定的役割分担意識」は35.9ポイント増加した。

どの項目も11年前と比較して、大幅に認知度が上がっている。「男女共同参画社会」は、前回は約4割と半数に満たなかったが、今回は8割近い人が見たり聞いたりしたことがあることになっている。

問32 「男女共同参画社会」への市の取り組みについて

問32 「男女共同参画社会」を形成していくために今後、市の行政はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。優先度が高いと思うものから3つまで選んで○をつけてください。



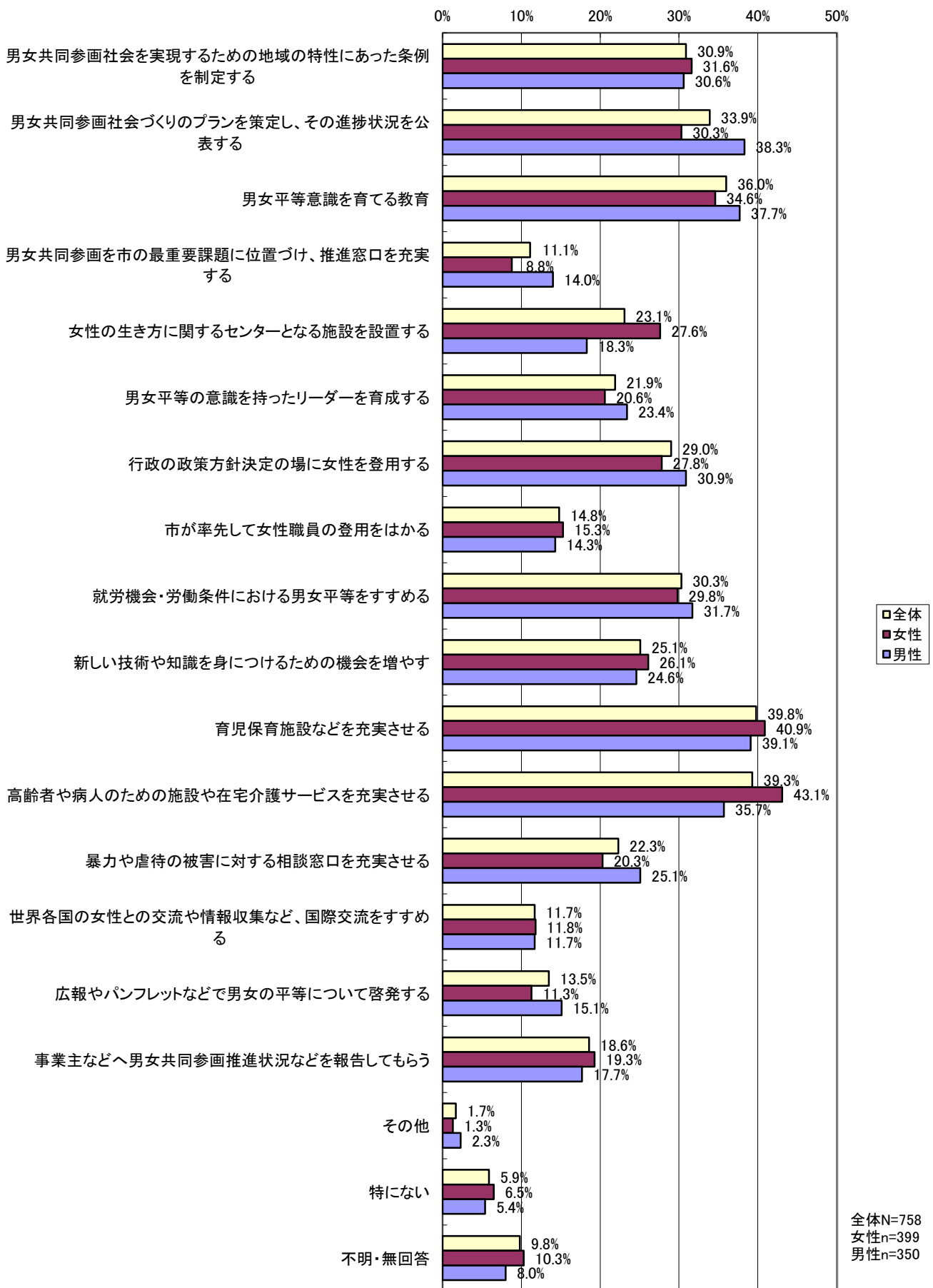
全体で見ると、1位は「育児保育施設や介護施設を充実させる」で39.3%、2位は「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」で29.2%、3位は「就労機会・労働条件における男女平等をすすめる」で28.5%となっている。

性別で見ると、女性では「育児保育施設や介護施設を充実させる」が43.6%で最も高く、次いで「就労機会・労働条件における男女平等をすすめる」が29.0%となっている。男性では「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」と「育児保育施設や介護施設を充実させる」が34.6%で最も高く、次いで「就労機会・労働条件における男女平等をすすめる」が28.3%となっている。男女とも育児保育施設などへの要望が挙がっている。

また、「地域の特性にあわせて法律や制度の見直しを行う」は女性26.1%、男性24.1%、「行政の総合的プランを策定し、積極的に取り組む」は女性17.2%、男性26.2%、「地域・職場で活躍する女性リーダーを育成する」は女性14.6%、男性20.3%、「新しい技術や知識を身につけるための機会の場を増やす」は女性20.4%、男性14.0%となっている。

問32 前回調査

問32 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、市の行政はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。



前回は今回も、育児・介護施設の充実や学校での平等教育、次に条例やプランの策定など行政への要望が上位にきている。今回はこれに加えて、就労機会や労働条件の平等が加わった。このことから、女性の職場進出が進んできたことがうかがえる。